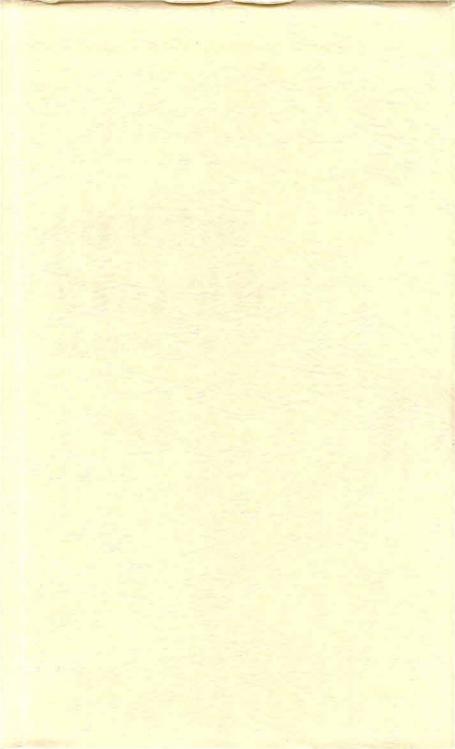
かたりあう 青年心理学

心理科学研究会編





コメント ⑴ 過去に学ばなき者は未来からみすてられる …………秋 葉 英 則 50

				第		序
	=		-	第 1 章		章
/腕力と無気力/内心のフォーラムを求めて然の党派」――中江兆民のコミュニケーション論/語りあいが実をむすぶ「条件」然の党派」――中江兆民のコミュニケーション論/語りあいが実をむすぶ「条件」明治の青年のなかに現代をみる/政治小説の 感動――ユーゴ翁の 贈りもの/「自	明治青年の群像 25	人のなかの社会 お生青年/青年期成立の 二つの流れ/「猿人政府」に抵抗する/個まだ特権的な 書生青年/青年期成立の 二つの流れ/「猿人政府」に抵抗する/個	青年期の成立 13	歴史のなかの青年中川作一 🛭	か/社会の主人公としての青年/本書の構成できない存在か/青年と大人は同じ時代を生きる仲間同士/青年は豊かになったできない存在か/青年と大人は同じ時代を生きる仲間同士/青年は豊かになった。この本を読もらとするあなたへ/社会の発展とともに誕生した青年/青年は理解	私たちのアプローチ都 第 学 3
	20		10	TO		J

i

目

次

を見つめなおす「性的行為」への好奇心/人格発達の契機としての「性」の理解/「命」や「自分」	一 性の秘密を知るということ	性の生理の始動と心のゆらめき/男・女としての容姿と自己像	一 大人の身体になるということ	第3章 思春期のからだとこころ播磨 俊子	コメント ② 自分をつくるとは	他者を鏡にして自己形成する/「虚像」を演じあう関係をこえて	四 今日の青年の対人関係と自己形成	年の「実像」年の「実像」か/同世代の仲間にたいする不信感/現代青年の主張』は現代青年の「実像」か/同世代の仲間にたいする不信感/現代青	三 現代青年の「虚像」と「実像」	プロテウス的生き方と価値観/「かっこよさ」の価値観/ある『青年の主張』	一 今日の青年の価値観と生き方	「自分」がない――「自分」の内容/「自分」をもつということは	一 青年期における自己形成の課題	第 ≥ 章 自分をつくる高垣忠一郎
---	----------------	------------------------------	-----------------	----------------------	-----------------	-------------------------------	-------------------	---	------------------	-------------------------------------	-----------------	--------------------------------	------------------	-------------------

目	¢
---	---

「型」、「号」のういにできる人が関しての出が、ここの「もっこの場とには一旦」性と人間関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
的行為への傾斜/「性の解放」と「人格の自立」の課題
コメント ⑶ 見知らぬあなた "Sさんへ=稲 垣 陽 子
第4章 学 ぶ
一 ほんとうの勉強を求めて
退屈な授業と勉強/ほんとうの勉強を求めて
二 学校知と「学力」
コントン・・コンスとは、このこので、アン・・・・コートでは、ボー・生活知と異なる学校知/知識の集積としての学校知/テクニックとし ての 学校
知/対立・矛盾のない学校知/テストのからくり/レッテル貼りの効果/能力そ

111

111 107 97

社会的危機のなかで奪われる意欲 のものとはいえない「学力」>学校で 得たもの・奪われたもの/三つの 傾向性/

消費・情報文化のなかでの学び方……………………………………………… 121 情報消費活動という学習/企業の消費戦略/情報選択の二つの軸/排除される情

間を漂いながら 報/何となくわかったつもりの自分の世界/日常的に求めている情報/情報の波

四

違った世界との 出会い/「わかる」ということ/相互主体的な 学び合い/学びへ

一 働くことと生きること 17大学生にとって就職とは/女性にとって就職とは	一 就職することと自立すること	第6章 働 く	コメント (5) 生きるとは宮川知彰 163	アイデンティティ・ステータス/人と交わることの意味	三 ともに生きること 155	見なおすこと/生きる喜び	二 生きていくことの一つの意味 148	父の死/そこから学んだこと	一 死について143	はじめに	第5章 生 き る塚野州一郎	コメント ⑷ 教える・学ぶはともに未来を語ること横 山 明 郎	の旅立ちのために
---------------------------------------	-----------------	---------	------------------------	---------------------------	----------------	--------------	---------------------	---------------	------------	------	----------------	---------------------------------	----------

「就職難」の時代/権利としての男女平等/職業と生活の両立について

199 193

VII	目	次										
資料集 青年問題を考えるために	参考文献	コメント ⑺ 「平和を創る」とは世 良 正 利 :いま「動き始める」こと/はじめの一歩/平和を創ろう	四 平和を創る	認識を閉ざす巨大な「しくみ」/削られた授業時間/「検閲」される教科書	三 なぜ「風」に気づかないか	あなたの「平和認識度チェック」フいま日本と世界は	一 「風」の正体	一 「風」を感じる	第7章 平和を創る荒尾貞一	コメント ⑥ 働 く と は	職場の不満をどうするか/権利の知識が乏しくなっている/競争から協同へ	三 人間らしく働く権利

人名·事項索引 ·········· 卷末



かたりあう青年心理学

筑学

都

た人も、おそらく多いのではないかと思います。それはいったい、なぜなのでしょうか。 あなたは、その本を 読んでどのような 感想を持ちましたか。「何だか、もう一つもの足りない」と感じ ょう。自分自身のことをもっと知りたいという気持ちから、手にとって読んだ人もいるかもしれません。 あなたは、今までに青年心理学の本を読んだことがありますか。大学の授業で勉強した人もいるでし

主にして書かれています。ともすれば一般化された事実の紹介が中心になります。そのために、 とりの青年の心情とはかけ離れた記述になってしまいがちです。あなたが青年心理学の本を読んだ時に、 して使われるために書かれたものです。ですから、従来の青年心理学の研究から明らかになった知識を 「自分のことが書かれていないようで、何か一つ 食い足りない」という 印象をもったとしたら、それは 街の書店には、青年心理学の本がたくさん並べてあります。それらの本の多くは、大学のテキストと 一人ひ

として書かれています。しかし、私たちは、これまでに発行された青年心理学の本とはちがうものを作

をもとに作られたものです。

今の大学生や青年についてお互いが考えていることを出し合いました。この本は、そのような話し合い

私たちはこの本を通じて、青年心理学の知識を伝えるよりも、むしろ、私たちが日ごろ考えているこ

どちらの集団にも属さない不安定な存在として見られてきました。しかしそれと同時に、その発達的な の誕生あるいは疾風怒涛時代など。そこでは青年は子どもから大人への過渡期にあり、子どもや大人の

これまで、心理学では青年のことをいろいろと形容してきました。例えば、マージナル・マン、第二

▓ 社会の発展とともに誕生した青年

ていってほしいのです。この本が、そのように使われることを私たちは望んでいます。

ですから、この本を読んで、大学の先生や仲間といっしょに話し合いながら、自分たちで問題を深め

それ以上に自分自身の問題として考えるということがだいじなことだと思います。

年を理解するためには、これまでの青年心理学の学問成果を学ぶことはもちろんたいせつです。しかし、 とがらをそのままストレートに出し、青年問題について青年に直接語りかけていくことにしました。青

りたいと思いました。そのために、私たちはこの本をつくる準備段階で、何度か話し合いの機会をもち、

造していく大きな可能性を秘めた存在であると考えられてきました。

過程において、青年は自己を確立するとともに、既成の社会や文化へ批判の目を向け、新しい時代を創

しれません。やはり、青年は時代を映す鏡なのです。 なってきています。同じ世代なのに、青年がまるでバラバラな印象を受けるのも、現代の特徴なのかも 青年だけでなく、労働青年もいるわけですから、青年期の過ごしかたそのものも、かなり多様なものに

5

の人数がいかに多く、かつその時期もかなり長いということがわかると思います。またこのような学生

高校生、大学生を青年として考えてみると、そ

現代の日本を例にとってみれば、ごく大雑把に中学生、

漸青年は理解できない存在か

たしかに、青年より年齢が上の、大人世代からみると、青年が何かとらえどころのない存在のように

見えることもあるのでしょう。大人自身が青年のフアッション感覚、発想などに追いついていけない部

分もあるのかもしれません。今、盛んに「新人類」という言葉が使われています。この言葉のなかには、

大人世代から見て青年は自分たちとはちがう存在である、青年のことが理解できないという意味が大き

く込められているように思えます。

前までは青年だった。しかし、そのことを忘れずにいる大人はいくらもいない。」ということができるで

サン=テグジュペリの『星の王子さま』のはしがきにある言葉を少しもじっていえば、「大人は、少し

しょう。かつて大人は青年だったのですし、いくら時代が変わったからといって、青年が理解できなく

学者も出てきています。それに加えて、最近は「シンドローム」ばやりで、何かあるとやたらに「シン

ドローム」という言葉をつけて青年のことをわかったような気になる傾向もあります。このような現在

の状態は、青年心理学が青年をとらえきれなくなってきているとでもいえるでしょうか。

三歳ごろまでの時期をさすとなっていますが、学者のなかには三〇歳ごろまでを青年期だと主張する人

う声が強くなりつつあります。例えば、青年期の範囲についても、心理学辞典では一二、三歳から二二、

一方、心理学の研究者のあいだでは、今までの研究の枠組みでは青年をとらえることができないとい

もいます。また、青年期を子どもから大人への移行期ととらえる従来のパラダイムに疑問を投げかける

青年と大人は同じ時代を生きる仲間同士

現代という時代はとても複雑な時代です。不況やインフレが続き、とても暮らしにくい世のなかにな

青年も大人もこのような時代のなかで、さまざまな問題をかかえて悩んでいます。自分の人生の先行

常的に行われています。高齢者になるほど、再就職が難しくなっています。

は大人も同じです。日進月歩の技術革新や円高不況下の経営合理化などによる配転・出向、

首切りが日

っています。青年の失業率は六%近くにまで達し、戦後最高の失業者が街にあふれています。その点で

います。 きや、日本の将来にたいして不安を感じたり、見通しを持てない人が多いことにも、それはあらわれて

いるようにも思えます。 の問題もありますが、大人世代が自分たちの生き方に確信をもちきれていないということをあらわして 先ほど、青年心理学が青年をとらえきれなくなっていると書きました。それは、学問としてのレベル

7 をかかえているからこそ、青年と大人は連帯できる可能性をもっているわけです。

青年も私たち大人も、現代という同じ時代を生きています。仲間同士だといえるでしょう。同じ悩み

青年は豊かになったか

の大学生の 下宿生活には 貧乏という イメージがありました。しかし、今の大学生は リッチで、ステレ 街には物があふれ、お金さえ出せば、何でも買りことのできるのが現代という時代です。一昔前まで

みなさんが学生生活をエンジョイできるのも、今の時代だからこそです。 オ、テレビなどの電化製品を持っているのは当然で、外国旅行に出かける学生も少なくないと聞きます。 たしかに、物質的な面においては、今の青年は恵まれているといえるでしょう。大学を卒業しても定

また、現代は戦後における第三次宗教ブームといわれていますが、青年のなかにも宗教や霊的な存在を しかし、もう一方では、人と人とのつながりが薄れ、精神的に孤立している青年も少なくありません。 職を持たず、自分の好きなアルバイト的な仕事をして生活費を稼ぐ青年もいるようです。

的な孤立感から何かにすがって生きたいという気持ちも含まれていると考えられます。 はっきりしない社会に暮らしていて、自分では明確な判断ができないので他人にそれを委ねたり、精神 自分自身を知りたいという青年らしい欲求があるようにも思います。しかし、それとともに、先行きの 信じる人が結構多いようです。星占いや血液型占いなども、たいへん流行しています。その根底には、

活を送っている青年や大人が多いのではないでしょうか。 ずれにせよ、物に恵まれて一見したところ豊かな生活を送っているようでいて、実際には貧しい生 切な自分の選挙権を放棄することであり、主権者としての存在を自ら否定することなのです。 ない青年も少なくありません。国政選挙などでの 青年の投票率が概して 低いのは、「どうせ俺一人投票 分自身を巨大な機械の歯車の一つにしか感じられないかもしれません。政治や社会のことに関心を示さ 古い時代から、「今どきの若いものは……」と言われながらも、 青年は 社会の発展に大きく 貢献してき すし、また時代の流れを作り上げる中心的な働きを担ってきたのです。 ました。例えば、明治維新で中心的な働きをした人々は、時の青年でした。青年は時代の変化に敏感で しなくたって、世の中が変わるわけないさ」という気持ちからなのでしょうか。しかし、その行為は大 青年は社会の発展とともに誕生しましたが、逆に、新しい社会を作っていくことは青年の役目です。 'かしながら、現代はとても複雑で、一筋縄では行かない社会です。青年一人ひとりからすると、自

自己を自覚しなければならないのです。私たち大人世代は、青年が自らの人生の主人公として、そして 与えてくれる社会です。しかし、その可能性が花開くには、なによりもまず青年自身が主権者としての 社会の主人公として成長していくことをも願っているし、また私たちも青年とともに歩んでいきたいと 今の世の中を支えているのは、私たち国民一人ひとりの力です。現代は、青年にかぎりない可能性を

思っているわけです。

500 本書の構成

いきたいと思います。 章から七章までの本文では、さまざまな角度から、今の青年や彼らをとりまく問題について考えて

章では、明治時代からの歴史をふりかえり、わが国における青年期の誕生の過程や、自我形成の問

題を歴史的な観点から考えます。 あわせながら考えます。 三章では、身体発達を軸にしながら、人間関係や愛、人格発達の契機という点から性の問題を考えて 二章では、現代の青年における自己形成について、彼らの持っている価値観や生き方の問題とも絡み

いきます。 四章では、学校だけの狭い枠のなかだけでなく、現代という情報・消費文化社会のなかでの、学ぶと

いうことの意味について考えていきます。

五章では、死という問題を真正面にすえながら、生きることの意味や生きがいについて考えます。

いきたいと思います。 六章では、今日における大学生の就職問題を手がかりに、働くことの意義について考えていきます。 七章では、世界的な規模で問題となっている平和の問題をとりあげ、解決の方向をいっしょに考えて

また、青年問題を考えるための資料集を巻末にいれたので活用してください。

っています。



以上、私たちはこの本を通じて、多くの青年のみなさんと対話することができ、共通の問題を考える

ことによって、青年と大人との理解を深め、そしてともに成長していく礎を築くことができることを願

,就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是

第 **1** 章

青年期の成立

中川

作

まだ特権的な書生青年

友だちの下宿先の部屋に上がりこんで、主の帰りを待つところがあります。 『当世書生気質』(坪内逍遙)「第三回」の冒頭に、「年の頃二十二三の 書生風」の倉瀬が、「荒々しく」

は、家庭鞠育の方法の、その宜しきを得たりしに依る歟、はた天然の性に成るかと、推理家が見たな 静岡県士族。年の頃は倉瀬と大概おなじ程と思はるれど、何となく威儀ありて、何処となく沈着たる 折しも下より登り来るは、白地の浴衣に兵児帯を締たる、即ち此居間の主人にて、守山友芳といふ 一寸頭を右左にもたげさうなる人物なり。

のだ。」といいますが、別に驚いた様子もなく、"お願いの筋"の入り混った「御賁臨」(来訪)の挨拶に

彼は自分の部屋に友だちがいて、勝手に煙草をふかしているのを 見て、「オヤ倉瀬、

いつの

間にきた

も顔色をかえず、ともあれ 客をもてなそうと 小間使いを呼びます。ところが、「ハイ」と答えてはいっ

てくる「小婢」は、彼ら学生たちとは反対に、あの「赤とんぼ」の姐やのようにやはり青年期『不在』

の人物なのです。もうすこし読んでみましょう。

と共に、二階口から顔をいだすは、此下宿屋の小婢と見えて、十三四歳の小娘なり。サヨ「オイお茶を 「然か。丁 度ちにゐてよかった。」►いひながら手をハタハタとうち鳴らせば、「ハイ」の 返辞の声

持って来い。そして是で、何か餅菓子を。」・十銭の紙幣をわたす。タメす「かしこまりました。」・降りて

しかし、わ たしたちは、彼 女の可憐な対応を通して、 学校へも行かずにこういう使い走りや子守りで食 ころ「 ヘイお菓子」と竹皮包を 煎茶と共に、日光製の丸盆にのせてもってくるだけの 端役なのですが、

ここで、守山に呼ばれ て顔を出す「十三四歳の小娘」は、倉瀬が用談をすませてそそくさと立ち去る

この小説は、明治一八年に出ているのですが、作者は明治一四、五年(一八八一~八二)の 頃の 学生の

ここに登場する書生の群像を見直すと、この時期の青年期の「発展の不均等」が如実にあらわれてきま べさせてもらっていたたくさんの女の子たちの日常を垣間見ることができます。その日常を背景にして、

「情態」を書いたのだといいます。「書生書生と軽蔑するな、大臣参議はみな書生……」といら書生節が

流行したのも一四年です。このように明治も一〇年代にはいると、士族や豪農出身の若もののなかから、

迷惑をかけておきながら、天下の「俊秀」を選抜し、これに高等教育をほどこして、将来の官僚や体制 明治政府は、北村透谷のことばでいう「一国の最多数を占むる者」のための教育では、子どもたちに

る官立の高等教育機関の学生たちに与えられた青年期です。

ます。一つは、徳川幕府の学問所

(開成所と医学所)を受け継いだ大学南校・東校から東京大学にいた

が国の青年期の成立には、二つの流れがあったことが分かり

かし、もら一歩踏みこんで見ると、わ

||青年期成立の二つの流れ

ゆっくり鉛筆を削って鞘に収めるヤツもいました。 その大刀を抜き、 が生まれるのです。 イデオローグを養成する企てには、はじめから工夫を重ねています。そして、この結果、第一の青年群 立ちで大刀をぶらさげています。 大学南校に各藩から派遣された貢進生は、もう殆どがザン切り頭ですが、まだ背裂羽織に馬乗袴の出 店主のキモをひやすかと思うと、気にくわぬ外人教師に一閃抜刀して青い顔をさせ、 ある日、鰻屋に上がって待つうちに、うなぎの出来がおそいといって、 仲間内で政策論議をかわすにも、二人称は「尊藩」、

育行政の中心をすえ、やがて「学制」を布く(明治五年)のですが、その少し前、まだ大学東校・南校か 貢進生は「廃藩」(明治四 年)によって廃止されます。 同年、政府は文部省をおき、ここに全国的な教

一人称は「弊藩」です。彼らは気持の上ではまだ「藩士」でした。

業参観)をもとめています。これは「藩主」にかわる絶対者を学生たちに実物教示する最初の試みで し ら大学をとって、単に東校・南校とよんでいたころ、政府は、両校に天皇の"臨幸』と学業の叡覧(授 もともと初期の学生は、誰かに仕えることに生き甲斐を見出していた士族の子弟が主力です。ここで

新しく「主上」(天皇)への忠が要求されても、彼らにとっ ては、旧い人格構造のまま、忠誠の 対象だ けを置き換えればすむことでしたから、殆ど無理な感じは受けなかったのではないでしょうか。 ト教育のための条件整備を進めるようになります。 ともあれ、政府はその後たびたび天皇に学校への臨幸・天覧をもとめ、その威光を背景にして、

エリ

師も増員して授業内容を 拡充するのですが、この年一〇月に、新校舎が 落成すると、「開業式」のイニ シアティヴを天皇に一任し、さらに、「勅語」によって、この国の学術の指導理念を先取りして、早く

も学の独立に抑えこみをかけるのです。

学校と改めて「これを 専門大学とし、まず法学、理学、工学、諸芸学、鉱山学の五門を 設け」、外人教

「学制」公布後、文部省は、南校を第一番中学と名づけ、明治六 (一八七三) 年には、校名を東京開成

その時の「勅語」を読んでみましょう。はじめに説明の文脈上、「外人教師への勅語」から。 開成学校経営方に功を竣う、朕今群僚を率いてここに開業の典を挙ぐ。(後略)

する処なり。朕更に百般学術のますます国内に拡張せんことを期す。汝等それこの意を体せよ。 (前略) 朕今その開業を親視し、ここに学術の進歩を嘉みす。 朕惟うに専門の学校は器を成し才を達

つぎに「開成学校への勅語」ですが、 冒頭は重複するので、

「勅語」というのは、いつも命令です。「この意を体せよ」という以上、この学校では"朕"

の期待を

らに国費を投じて外国留学を命じます。 その上で政府は、将来『器』をなす優等生には、天皇とのパースナルな交流のチャンスをあたえ、さ 例ですが、たまたま明治六年の語学試験で上等中学第二級へ昇進した九人の生徒のなかの四人と、

第三級へ昇進した一七人のうち 上位二人の 計六人が、明治八 (一八七五) 年に 外国留学を命ぜられた生

術」といったのだと思います。

です。こ の点に念を押すために、「勅語」は"才』の前に"器』をおき、注意深く「学問」をさけて「学 裏切るごとき専門の学問、たとえば、絶対主義体制そのものを批判の対象にする学問はどう「ぜん禁物

17 徒のなかに名を連ねています。さらに、この六人のなかの二人は、「開業式」の時の「天覧講義」に「出 メンバーからは、新たに留学に加わるものが三人出ています。結局、明治八年の、開成学校としては最 演」して、親しく天皇と「群僚」の前で講述や実験をして見せたメンバーのなかにはいっていて、この

τ8

郎(当時二〇歳)をふくむ一一人ですが、東京曙新聞(六月一七日)は、この留学生たちについて、「数百

人中よりかく選抜せられし人々なれば、他日学業成就の上は必ず国器とならん事疑らべからざるなり。」

とコメントしています。つまり、開成学校が政府のための人材養成機関であることは、すでに常識にな

初の留学生派遣に選ばれて、それぞれ米・独・仏へ渡航していった生徒は、後に外交官になる小村寿太

れより語学校を始めとし、師範学校、女子師範学校、女学校を巡覧せられ、文部省にては九鬼、

野村の

両君が随行されました。」という雑報がのっています。これなど今日 では考えられないことですがぞ

れほど政府は、選抜した若い頭脳に自己の権威を印象づけることに懸命だったわけです。

四日)には、「昨日開成学校の大試験にて三条公と伊藤参議が出校になり、生徒の試験も立派に出来、そ

もら一つ、政府のプログラムのなかにあった学校は、師範学校でした。翌明治九年の 東京日日(七月

に一つのうねりが生まれた経緯はご存知のとおりです。困った政府は翌八年二月の大阪会議で、木戸・ 建白書」が「日新真事誌」に発表され、これにたいする賛否の議論がきっかけになって、自由民権運動 き年でもあります。そ の前年、板垣退助、後藤象二郎ら八人が連署し、左院に提出した「民選議院設立

ところで、明 治八年は政府が、讒謗律と新聞紙条例によって、思想と言論の弾圧をはかった記念すべ

▓「猿人政府」に抵抗する

っていたのです。

月」に処された青年がいます。のちに板垣退助のブレインといわれる、この時はまだ一九歳の植木枝盛 神を傾けて政治書を読む」のですが、この時期はもう単なる勉強家ではなく、地域の区長や区内の人び 郷里に帰り、以来まったく学校に入らず、生涯を独学で通します。 便報知に寄稿し、同社の編集部がその 標題を「猿人君主」と改めて紙上に 掲載したために、「禁獄二ケ 政府運動を目の敵にして露骨な言論統制をはじめます。すごく矛盾していますね とと相談して、来るべき代議政体のために「自治」による住民の「民会」を組織する実践にのり出して 上京します。けれども、そこが陸軍幼年学校の予備校みたいな学校だったので、彼だけは断固退校して 人の及ぶこと能わざる勉強」をし、さらに一六歳の時に東京に新設された「海南私学」へ推せんされて 彼も士族ですが、小さい時から秀才の誉が高く、一五歳まで高知の致道館という学塾で「ほとんど他 そのころ、明治九(一八七六)年の二月ですが、「猿人政府」(ひとをさるにするせいふ)という 文章を郵 一七歳のとき、板垣退助が地元で「立志社」設立の 趣旨をのべた 演説会に出て感激し、「もっぱら精

板垣を口説いて参議にもどし、四月には漸次立憲政体を立てる旨の詔勅を出すのですが、一方では、反

19

います。

ると、生活費節約をめざして友人の下宿に同居し、煮炊きを交替でやることにしたのですが、その友人

八歳になって、思想も豊かになり、「父母に請うて若干の 旅費と学費とを 貰い享け」て再び上京す

たすら読書のかたわら、 出でては「単身孤影」、地図をたよりに遠近を逍遙し、「以てその智を研きその

が暫く不在の時など、朝昼晩三食とも食パン半斤に砂糖湯という粗食に甘んじていました。そして、ひ

20

ていって、批判の耳を傾けたはずです。 福澤諭吉の「三田演説館」をのぞくこともあったでしょう。明六社の演説会やキリスト教会にも出 心を養うことに勉め」ます。おそらく神田錦町の下宿から濶歩していって、ちょうど明治八年にできた しかし、いくら剛毅でも、栄養 を無視した食事では体がもちません。案の定、冬にはいるころ、熱病

も詰まっている 四畳半の 監房に押しこまれ、「その房内の陋穢にしてまたその人情の険悪なること言わ いまいった植木枝盛の筆禍事件は、入院の翌年ですが、未決の時など、強盗犯・殺人犯がすでに九人

開成学校とともに、明治一○(一八七七)年に設立される「東京大学」の母体です。

にかかり、東京医学校付属大病院に入院してしまいます。因みにこの東京医学校は「東校」の後身で、

ん方なく、あまつさえ半風子は簇々としてしきりに人を攻め」睡ろうにも睡れない惨状でした。 それでも既決監の房内は、たまたま朝野新聞の成島柳北をふくめて先客が僅かに三人、彼をいれても

すが、彼は「この入獄の一事ありしによりていよいよ民権の思想を堅確にしかつ旺盛にしたり」といっ 四人という「静けさ」です。拘留時の窮屈からやっと解放されて、毎日を読書三昧のうちにすごすので

ています。この時「猿人政府」を「猿人君主」と改めて掲載した報知新聞の岡敬孝は讒謗律にひっかけ

られ、「禁獄一年半罰金三百円」の刑に処されています。

きささった姿勢で、つねに多数者を自分のなかの仲間として生きる青年たちに、一つの典型を掲げてい といって彼を例外扱いにしたのでは、せっかく彼がその才能の官選を拒み、民衆の現実と同じ現実につ 植木枝盛のように、独学で思想家になるほどの人材は、いくら変革期でも数少ないでしょう。だから

た事実を見過ごすことになります。彼の青年期は、なお士族の自意識をひきずりながら、それでも日本

の青年期のもう一つの流れの起点になっていました。

個人のなかの社会

では、

般の明治青年は、

自由民権運動から何を学んだのでしょうか。

明治一三年から一四年にかけて(一一八〇~八一)、国会開設運動は高揚期をむかえます。 明治一三年四月、片岡健吉と河野廣中が国会期成同盟の委員として、太政官に提出した国会開設請願

歴史のなかの青年

書には、二府二二県の有志八万七千余名の総代九七名の署名がついていました。最近の研究によると、 は参加者が、 (一四○件)になるそうです。そのうち六一%にあたる八五件が 明治一三年に 集中していて、この時期 明治七(一八七四)年から明治一四(一八八一)年にいたる 国会開設運動の参加者は 三一万三一一人以上 運動のリーダーたちは、東京で会合を重ね、「自由権利」を「進取」するためには、 士族から農民・商工業者の層までひろがり、規模の面でも殆ど全府県にわたりました。 国民の

21

「協同一致」あるいは「結合」が 不可欠であり、そのためには、従来の 愛国社、期成同盟、

同有志公会

達し、明治一三年の「自由党準備会」の討論をへて、明治一四年一○月二日には、すでに自由党結成を

ではなく、在地の政社を基盤に含む、もっと抵抗力のある政党の組織が必要である、という共通認識に

決議し、同時に組織原案起草委員をきめています。

これらの動きに押されて、政府は 政党内閣制を主張する 大隈参議を罷免し、"勅裁" をへていた開拓

を、すべて分断しようと強権を発動し、福島事件では早くも警官との衝突がおこります。それでもこの

|藤参議が憲法の調査に出かけたばかりだというのに、政府は国民がせっかくつかんだ結合の諸契機

五日に機関紙『自由新聞』を創刊するのですが、この「苛法酷律」にはさすがの民権運動も気勢をくじ つこと、政治団体が相互に連絡共同することを禁止しました。自由党は、これに対抗して、同じ月の二 を改正し、地方長官に演説禁止権や解社命令権を与えるだけでなく、なによりも、政党が地方支部を持

焦燥・分裂・激化の方向をとることになります。

のつばぜりあいの時節でした。

党が結党式を行い、大隈を総理に 決定します(四月一六日)。その直前、三月一四日には、勅書をうけて 詔勅」を出す(一〇月一二日)のですが、六日たつと自由党結成会議が開かれ、翌一五年には、立憲改進 使官有物払下げを中止し(明治一四年の政変)、それと抱き合わせに、「明治二三年に国会を開設する旨の

いた伊藤博文が憲法調査のために欧州へ出発するのです。——明治一四、五年は、政府と政社・政党と

しかし、こ の時も、「詔勅」の次の手は 弾圧でした。 政府は 改進党結党の直後、六月に「集会条例」

22

民権の主張や貴族の横暴などを織りまぜて、強いて政治小説に仕立てた「豪傑訳」でした。柳田泉がこ の小説の眼目だという箇所で、ギルベルトの手紙は、こういっています。 つぎの引用を読んでください。「思出の記」の徳富蘆花が育英学舎にはいったころの話です。 「自由之凱歌」は「バスチィユの奪取」(デュマ)の抄訳ですが、訳者・宮崎夢柳が自分の感想や自由 時々は興、旺して、「ワァ」と喝采の声をあげる。 か」と浅井を呼び立てて窓の下に真黒に嵩なりたかって、浅井が例の美音で朗読するのを聴いて居る。 て居るので、「自由之凱歌」ののって居る 自由新聞が 来ると、「浅井、浅井、 に伸びるから今に見玉へ、と答へるのが癖であった。柄に似合はず、朗々玉を転がす様な美音をもっ のだ、とからかふと、僕は頭上に圧制政府を戴いて居るから大きくならんのだ、二十三年になると急 学生の中に、浅井と云って、年は十七だが、十二三にしか見へぬ少年が居た。君は何故其様小さい 我が仏蘭西も亦、 決して速かに美果を結ぶ能はず。汝巳に徳を積み恩を敷きて、労力社会の父母と尊敬せられし 是非奮発して率先者となり、 追ひ追ひ亜米利加州と同じ有様に立到るべけれど、若し率先して事を計る者なき 政府の抑圧を打破り、自由を伸し、権利を張ることを勉め給 ――浅井は 何処に 居る

気色で政府の非道を糾弾し、断然、自由党の側に加勢して、その切りかえしを待機していたようです。

ころはまだ、「二三年」を境に 時代を変える望みを 語ることができたので、青年たちは「悲憤惨憺」の

23

夢柳は頻りに「労力社会」つまり「多数者」の自覚とその組織者の「奮発」が、民権伸張の要である。

ことを力説していました。

れども、ここで窓の下の真黒い嵩になった青年たちも、先手をとられることによってはじめて政治社会 しかし、その頃すでに事態は、ちょうど六〇年安保の時のように、政府に先手をとられています。け

の矛盾をつかみ、これにたいする「率先者」の力闘を身近に感じて、ひそかに民権の志士たちと一体化

今其処に飛むで行ってせめて其縄目の喰ひ入る手に接吻し警官の剣の鞘尻につかれた其背を撫でもし で、河野、愛沢、平島、花香、田母野諸士の艱難苦心を思ふては熱き涙のほろほろ頰を霑すを覚へず、 彼福島事件が天下を騒がした頃なんぞは、其裁判筆記の出た新聞が来ると、扯き裂く様に争ひ読む

する心境にはいっていきます。

行くことがあるかも知れぬ、其時の覚悟を今試して見やうと、或雪夜素足になって外に立ったことも たく、(中略) 其雪中素足に引ずり廻はされし事を聞ゐては、僕等も何時か一度は彼志士の轍を踏むで

あった。

部にある社会的状況」に対する反応であったということができます。その点にわたしたちは、貢進生に どうかは別として、この雪夜の素足は、ミード・G・Hのことばをかりれば、「いわば個人の経験の内 すこし滑稽ですね。でもこの時彼らの目は確かに社会に向かって開かれていました。ですから滑稽か

はなかった市民的な自我の萌芽をみておくべきだと思います。

◎ 明治の青年のなかに現代をみる

る「現在」のなかに、「過去」に共通する 歴史的連関を 把えることができ、したがって、これからさき、 につきとめてくれます。そして、その知見をかりることによって、わたしたちは、いま生きて動いてい 去」を資料にして、人間の社会に起きる出来事の必然性――その変化を規定している諸要因を、 歴史学という学問は、文献や伝統文化、建造物・遺跡などの形をとって、 いわば止まっ てい 科学的 週

わたしたち自身が創出すべき時代への課題を見通すことができるようになります。

歴史のなかの青年 のいい、また、不可欠な方法であるとわたしは思うのです。 は、一見迂遠なようですが、それは、現状認知を深めようとする現代の青年にとっては、かえって効率 じっさい、少し歴史をふりかえるだけで、憲法をないがしろにして国家機密法に執念をもやし、子ど ですから、こうして明治青年までさかのぼって、彼らが何を思い、どう生きたかについて考えること

制イデオロギーの一翼に加えた 太政官政府と、いまなお 心理学的な意味で「同型」(isomorphy)であ

明治初期に新聞と言論を抑圧し、軍人勅諭を兵隊と国民に憶えこませ、加藤弘之のダーウィニズムを体 もたちに日の丸と君が代を強制し、いわゆる偏差値による輪切りを容認している今日の政府が、じつは

ることが、わたしたちにも分かるでしょう。

目を通しておきましょう。 「政党ノ時代」の終息をはやめます。これも、明治青年の 現実を規定する有力な 要因になっていくので、 その上、明治政府は、自由民権運動の中枢を麻痺させるために、策略を用いて自由党の分裂をはかり、

▓ 政治小説の感動──ユーゴー翁の贈りもの

は、この外遊を政府の術中におちいるものと 非難し (九月九日)、自由党の内部でも、馬場辰猪や大石正 遊の 話がつたわるにつれて、資金の 出所にかんする 疑惑が 広がり、改進党系の『東京横浜毎日新聞』 後、元気がなくなり、傷が治ると、盟友後藤象二郎に動かされて外遊を思い立ちます。しかし、板垣外

板垣退助が岐阜で剣客に襲われたのは、明治一五〇一八八二)年でした。さすがの板垣も、この事件以

理なくらいです。ほんとうは、井上馨が人を介して三井から受けとった洋銀の一部を外遊費としてひそ めた直後だというのに自 由党の総理が、事もあろうに外遊するのですから、疑うな、というほうが無

しかし、これは当然ですね。政府がこの年の六月に集会条例を改正して、自由民権運動への弾圧を強

巳らが総理の外遊反対を決議する(同月一七日)という険悪な事態が生まれます。

かに後藤象二郎に渡していたのです。 方、苦境に立った自由党は、改進党の非難にはこたえず、改進党と三菱との関係を攻撃して「偽党

歴史のなかの青年 切り込むスキを見せてくるものです。」と励ましをあたえ、「日本ではいま、人民を感動させるような欧 障碍が横たわっていても、あなたが進もらと欲する精神さえ持ち続けるならば、大盤石は必ずあなたが 彼に、日頃の敬意を表し、教えを請うのですが、彼も 板垣の刺客事件を 知っていて、「大盤石のような してしまいます(一一月一一日)。 過をつぶさに知りながら、板垣退助は党内・党間の葛藤を避けるように、横浜からパリに向かって出港 日本主義と古典的進化論を振りかざした矢先の発言ですから、当時の外国人としては、 す」と懇切な情勢判断を板垣にしめしています。しかもこれは、現に日本の政府が 米自由主義の政治論や 伝記小説の類を 新聞に続々と 掲載することが、恐らく 急務なのだろうと思いま ょうど「育英学舎」の窓に寄って「自由の凱歌」に耳をすませた少年たちの感動と同じような感動が、 いっぱいの忠告だったのではないでしょうか。 フランスへ着くと、翌年の春、当時八一歳のヴィクトル・ユーゴーに会い、自由民権の先達として の 板垣は、ユーゴーの言に 大いに感激した」と 柳田泉はいいます。もしかしたら、この時板垣は、 "人民" に向 やはり的確でせ かって、

撲滅」の主張(一○月二四日『自由新聞』)を展開し、両党は期せずして泥仕合にはいるのですが、

この経

27

す。そして、これらの政治小説を宮崎夢柳その他に読ませて、いいものを選び『自由新聞』その他自派

歴史伝記関係の著書はもちろん、克明に政治小説の類を集めて、明治一六 (一八八三) 年六月に帰朝しま 全国にひろがる日を想って勇気をとりもどしたかもしれません。根が正直な彼は、滞在中に、政治法律、

の機関紙・誌にいくつも訳載させました。

けれども、彼の留守中に、日本の自由民権運動はすでに「激化」の段階にあって、とても政治小説を

歓迎する雰囲気ではなくなっています。とくに、福島事件以後、明治一六年にはいると、自由党のなか

自由党員が負債農民を動員して武装蜂起をおこします。さらに同年九月の加波山事件では、二、三〇人

に暗殺やテロによって弾圧に対抗しようとする傾向が生まれ、翌一七 (一八八四) 年五月の群馬事件では、

ともいわれる少数壮士が、焦燥のあまり、「爆裂弾」を用意して政府転覆の『挙兵』にはしります。

そのなかのひとり、河野広躰は公判でこう陳述しました。「内閣諸公ノナストコロヲ見ルニ」「政社

ヲ禁ジ言論ヲ拘束シ 志士ヲ虐遇スル(虐待する)等、暴乱至ラザルナキ 有様デアリマス。」そこで不

閣のもとで、「労力社会」のみんなが 参加する共同行動を 組織することは「最も至難ノコト」だったで が、みんなで、与えられた権利を日常的に行使することが必要でした。確かに「暴乱至ラザルナキ」内

しかし~ 天賦ノ自由権利」を守るためには、個々の 権利主体が、三千五百万人いれば 三千五百万人

体を改革するということは最も至難なことです。それ故、私どもは「天下ヲ動カスベキ大運動ヲナス として、ついに武器をとって「起ツノ止ムヲ得ザルに至リマシタ。」けれども 僅か少数の人の力で政 幸なことだけれどもわれわれは、天賦の自由権利を保護するために、また、「国家に対する人民の義務

ノ機運ヲ造リ出スタメニ、ココニ一身ヲ捨テテ小運動を試ムルニ至ッタノデゴザリマス。」

しょう。し かし、それを「大運動」にすること以外に、この時も、政体改革の道はなかったはずです。

失ってしまいます。 もっぱら「小運動」ばかり仕掛けていたのですから、帰国後の板垣は、 は、洋の東西を 問わぬ「民権論」の真理なのですが、「過激派」はその「大運動」を 放置して、 しかも、「激化」は 弾圧の激化をまねくだけでした。とうとう彼は、自分の 提案で いっそう党内をまとめる自信を

明治一七(一八八四)年一〇月、自由党を解党してしまいます。

ここから、青年の間に、集まっても民権を語らない風潮が生まれ、そのために彼らがとかく無理想、小 いたるすべての領域にわたって、国民の関与を締めだして皇 主権の体制を固めていきます。そして、

こうして、自由民権運動の中枢が崩壊すると、政府は既定方針どおり、言論から集会、報道、

教育に

識」から、 流を通じて、交流のなかにあるべくしてないものを見いだします。先廻りしていえば、この「不在の意 利口と批判される時代がやってきます。 でおきましょう。 に以上のような見通しを立て、まず、中江兆民から、近代的なコミュニケーションの元型について学ん 自由民権運動は、見てきたように、「敗北」しました。けれども、その敗北のなかで秀でた頭脳が「邦 しかし、こ さらに近代的自我の発見が促されるのだ、 の時期の青年たちは、その反面で、しきりに「親睦」をはかるようになり、やがてその交 とわたしはおもうのですが、ここでは、 おおまか

29

改進党と自由党が「泥仕合」におちいる少し前の七月一一日に、中江兆民は、情勢を予見していたの

国」のために残してくれた知恵だけは、大いに受け継ぎたいと思うからです。

でしょうか、『自由新聞』に「政党ノ論」を 書き、「政治ノ党派」も「学術ノ党派」と 同じように、「真

理ヲ索ムル者」でなければならないと指摘していました。 必ずたがいに討論して、その説を磨き合うのでなければ、完全な真理にたっすることはできない。―― つまり、真理はたくさんの説のぶつかり合いから生まれる。どの説も一面の真理を含んでいるから、 包含ス、故ニ必ズ相討論琢磨スルニ非ザレバ以テ完全ノ真理ヲ求ム可ラズト スチュアートミル云へり真理ハ衆説相抵激スルノ間ヨリ発スト、又云へリ諸説大抵皆一片ノ真理ヲ

つの党派を構える 努力を傾ける。そして一党を 構立すると、「必ズ他党ト相抵敵シテ以テ己レノ説ノ勝 人は士君子たる以上、自分が真理だと思うところがあれば、必ずそれを他者にしめして同意を求め、一

ツコト」を求めるようになるが、しかし、これはひたむきに真理をめざす人間本性に由来する「已ムヲ

得ザル」傾向であるから、これを「自然ノ党派」といおう、といいます。

是ニ知ル、

自然

ニ真理ヲ重ンズル トキハ苟モ一朝己レノ党中非ナル所有リテ、他人党中是ナル所有ルヲ覚ルトキハ幡

こノ党派ハ其目的トスル所ハ党派ヲ重ンズルニ在ラズシテ真理ヲ重ンズルニ在リ、巳

自然の党派は、党派を重んじるのではなく、真理を目的とする党派であるから、他党の主張のなかに 然志ヲ改メテ之ニ従フテ少モ心ニ介スル所無シ

正しい側面を発見した場合には、なるほどそうか、と素直に自党の考えを改めることができる。――そ

31

ソーの単なる紹介学者ではなかったことを示す証拠です。

わたしたちの語り合いにも役立つ論理を構想し得たという事実は貴重ですし、同時に、これは兆民がル

燚 語りあいが実をむすぶ「条件」

すが、集団と集団、個人と個人との語りあいを実らせる条件もこれと同じです。わたしたちがダベリン 彼は、この時、自由党と改進党との共同行動に期待をかけ、そのために必要な条件を論じているので

グとは区別された意味で語り合い、そこから新しく何かを発見していくためには、相手とフェイス・ト

ゥ・フェイスに向きあう場をつくることはもちろんですが、気持ちの上では、お互いが肩と肩を並べて

て、それを育てることができます。 を抜きにして協力できるし、その協力によって主体性を失りのではなく、かえって、他者の補助を介し に立つことが必要です。逆にそういう関係にあることが確認できれば、わたしたちは誰とでも"私意』 同じ方向に視線をのばし、恰かも、その平行線が交わるところに〝真理〟をおいて見つめるような関係 当時、自由党に山際七司という有力なメンバーがいました。彼は明治一三(一八八〇)年の段階で、す

長」の名はウソであることなどが報道され、山際は反対に「一面識ナキ桜井某ニ同意シ去就進退ヲ共ニ 設を 懇請する 協議会(同志会)をつくろうと 呼びかけます。ところが、この間に 桜井の「千葉県会議 桜井静という、これは国会開設運動期の風雪児ですが、この人の「懇望案」に賛成して、県下に国会開 でにこの論理を身につけていた、とわたしは思います。新潟県の県会議員であった山際 (当時三〇歳) は、

提案した文章のなかのつぎの一節です。

スル」不見識を問われる始末になってしまいます。わたしが紹介したいのは、これにたいして山際が再

県下有志諸君ノ協同会」を設けて腹案の六項について議論をし、さらに来会諸君の「卓説高論」をとり、 こういって、彼は 国会開設が「本邦焦眉ノ急務」である理由を 説き、自分としてはなによりも、「我 ノ主旨ニ 非ス

会開設懇望ノ精神ニ左袒セシニシテ(替放 したのであって)必ラズシモ桜井氏ト去就進退ヲ同フスル

余輩固ヨリ桜井某ト一面ノ識ナシト雖モ唯同氏が百折不撓ノ(重なる困難に屈しない)愛国心則国

みんなの意見の帰するところに従って、県下の方向を確定し、その上で、委員を東京に派遣するつもり

から抜け出した市民としての結合の論理でした。 ではなく、まず自分たち自身が県下で権利主体として共同するコミュニティを発足させ、そのフォーラ て目標を共有できる人だ、と思って賛成したのであって、だからといってすぐに彼の言いなりになるの であると訴えています。 ムの議論を背景にして全国の課題にとりくもう、といっているのです。これはすでに、「分」や「肩書」 つまり、山際は桜井某とはもとより一面識もないけれども、でもその行文にあふれる愛国心から推し

山の自由党員は夕暮の旭川で「自由運動会」を催し、百余名の若ものを河原に集めて「旗奪の戯」(旗と

ラムを社会の多数者の間にひろげる努力を続けます。

さらに自由党は演説会のあとの懇親会や学習結社の討論会、

地域 多の親睦会によって、そのフォー

明治一七(一八八四)年といえば、

自由党解党の年ですが、その夏、ギリギリの状況のなかでなお、岡

33

下って来て 交歓したので、「旭川」はにわかに「盛宴」の賑わいを呈するのですが、見ると 七艘のうち り合戦)をやっています。そこへ川上から「自由親睦会」と書いた旗と高張提灯を掲げる七艘の遊船が

は、まともに「懇親」する場を失っていたのです。悲壮な演説はすでに心情的な「激化」の表出です。

うハプニングで 幕になります(福田英子『妾の半生涯』岩波文庫)。 いいかえれば、 自由党員はもう 地上で

この「盛宴」は、突然、水に潜んでいた警官が「海坊主の如く現はれて」会に中止解散を命ずるとい

叩いて喝采する場面もありました。

げな妙音」で「……岡山の一女子たるの本分だけは尽さんと存じます」とけなげにいうので、一同舷を 子では、景山英子につづいて、蒸紅学舎の一一歳になる 生徒が、「谷の戸出る鶯の 初音よりまだやさし 演説をはじめると、「水上是れ無政府の心易さ」に乗じて、「悲壮激越」なる演説が続々と試みられ、女

今や興たけなわという頃、党員が一人、船の甲板に立って「殺気凛烈人をして慄然たらしむ」ような

歓びを分かち合うということは、当時はまだ稀にみる「壮挙」だったと思います。新聞『自由燈』(八月

こういうふうに、船こそ 別仕立てだけれども、「酒宴」ではなく、公共のフィールドで 男女の集団が

一四日)がこの記事を「ヒヤヒヤ」ではじめているのはそのためでしょう。

の一艘には、「岡山女子懇親会」と、景山英子の率いる「蒸紅学舎」の 生徒たち、合わせて 二六七 人

の女性が乗り込んでいて、民権大津絵、民権数え唄などの歌声を月琴にのせて川面に流し、会員の耳を

それでも彼らは、残された条件を拾い集めるようにして、権利主体の相互作用を組織し、そこに歴史の

未来を托したのだと思います。

植木枝盛は、翌一八年、『貧民論』のなかで、「貧民の世に処するには、第一に結合ということ

を務めざるべからず」といい、 ことを謀る」ようにすすめ、「ことに自ら自由権利を尊重し」、わずかのまにも「同権の一事を胸中よ り放さざるようになし、少しでもこれに触るることあればいやしくも見逃しにせざるようにすべし。」 いうように、仲間仲間の集会を催おし、互いに相談約束をして、他のために不利益の仕方を蒙らざる 「その職業の種類に由って、大工は大工同士、土方は土方同士、車挽は車挽同士、火消は火消同士と

文庫)と 論旨は同じです。い と書いています。義務とは権利の侵害に抵抗することだ、というイェーリング(『権利のための闘争』 岩波 ムのなかの相談型コミュニケーションを通じて、必ず「自己」のなかに「他者」の励ましの声をきき、 権利のための自己とのかかわりを持続的なものにすることができるのだ、という見通しを いかえれば、彼は、いかに「卑屈の病に染む」貧民といえども、 フォーラ

しかし、現実の展別はジグザグです。政府の理不尽な弾圧に屈して、とうとう人びとは民権を語らな

くなってしまいます。

果をこんなふうに書き残しているからです。 ふたたび、『当世書生気質』をみましょう。坪内逍遙が、学生たちに たいする「集会条例」改正の 効

「第一六回」で、倉瀬は一人前の弁護士になった 守山の事務所をたずね、彼と つぎのような「面談」

「……此頃は学校の景況は如何です。なんだか 風評に因ると、撃剣が 大変流行だといふじゃァない

以来は、政談はめっきり 衰頽したが、腕力はよっぽど 盛んになった。随って……」「ナニさ兎角麁暴 は不可ない。」と大人びた意見を倉瀬にかえします。 舟)でもはじめればいい。さらすりゃァ余程違ゥだらう。人に情慾のある限は、何か洩す道が無くて に流れて。」それを受けて守山は、「……一利あれば一害あり歟。 東京大学にならって boat race(競 か。」「ァゝ学校の気風は、君の在校の時分から見ると、実に一大変動を経過した』。例の校長の諭告

生に「論告」して、政談をやめさせてしまったようです。もっと学者らしく、毅然と真理の側に立って いたら、こんなに能率よく弾圧の手助けをしなくてもよかったはずです。 ここの校長は、地方長官に演説禁止権が与えられると、それがまだ行使されないうちに、早ばやと学 歴史のなかの青年 当時の東大で吸収した加藤弘之流のダーウィニズムの教養が顔を出しているのです。ぼくたちはやはり ぎの例を見てください。 生は、まだ「政党ノ時代」が残していった「親睦」の喜びをもとめていて、なかなか行動的でした。つ この「腕力」は、「自然ノ党派」との接点を失い、やっと 芽をふいた民権が 国会開設を前にして、一つ まると、「腕力派」もいつしか「傍観派」と 合流して 区別がつかなくなります。けれどもこの時期の学 ませんか。 ひとつ摘みとられていく政治状況を、ただ見ていなければならなかった若ものたちの、苛立ちの表現だ ったと思います。明るい陽の光をくぐって川風を切るボートレースは、この心境にそぐわないではあり 明治一六(一八八三)年のことです。東京府下の「学校生徒」は、めいめいのキャンパスから繰り出し、 その反面に、倉瀬のような傍観者がたくさんいたことも事実です。そしてやがて憤懣がおさ

人の「情慾」を持ち出して説明したつもりになっていますが、ここには、こ の小説を書いた逍遙自身が、

それはそれとして、ここで守山は、政談の衰頽を「一利」にかぞえ、気合いのかかった撃剣の流行に、

三十双ばかり列をなして、喇叭の声、太鼓の音、轟然空に響き、屋島壇の浦の舟軍もかくありしかと

「大河の春風に紅白青紫の旗幟を翻し、或は白旗に壮快なる語を書して舷頭に 押し 立て、大船小舟

「大川」は川幅が今より広く、櫂のしずくも玉と散る清流でした。

神田明神の境内に集まって、万世橋から隅田川をさかのぼる「舟遊親睦会」を催しています。そのころ

帰りは午後五時、「各舟数十の球燈を連ね」「舷を敲いて放歌大呼」して万世橋まで 引揚げます (明治 畑地に集まり、綱引、角力、球取のあと「紅白の両隊を分け」て旗奪り合戦をやり、場所を木母寺に あらためて「菰冠りを開き粮食を分かち、咄嗟の内に数樽を傾倒して、大いに余勇を示」すのです。 ぬぐいを被り、意気凛然として上流に遡る」と、言問橋の東詰あたりから上陸して、秋葉神社近くの

思わるるほど」なので、両岸も 橋の上も 男女の見物でぎっしり、「船中一千有余の少年は、皆赤きて

この舟遊会が成功したのは、途中、一度も演説するものがいなかったからでしょう。帰り舟の「放歌大 すごく元気がいいですね。しかし、岡山の旭川の「納凉会」と比べてください。警官の見守るなかで、

一六年四月二四日

朝野)。

の学位授与式が行われる当日だったのですが、寄宿舎にいる学生・生徒は、遠足する予定になっていた 後にみる「交際」の流行もこの系譜にぞくするものであることは見逃さないようにしましょう。 に元気をディスプレイした学生たちは、すでに「結合の権利」を貴重な代価として払っていたのです。 呼」が民権数え唄でなかったことも確かです。いいかえれば、この日、大川端で盛んに交流し、おおい 同じ年の一一月には、東大で不思議な暴力事件が起きています。その日は、大学で前学年卒業の学士

突然、寄宿舎の廊下や食堂で暴行をはじめ、これがきっかけになって一時は「よほどの騒擾」をかもし

ので、午前から外出したものが多く、午後二時の式場に参列したものは、医学部以外では非常に少なか

ったというのです。ところが午後五時頃、ぼつぼつ帰舎してきた学生のなかに大酔していたものがあり、

事件後、

の挙も、 少年輩の間に在りては、しきりに士気を復し、元気を振作する等の議論起るに及び、或いは少しく粗暴 これという 原因の分からないまま、結局、「百四十五人」 が退学を 命ぜられて一件落着になっています 一元気振作のためには 苦しかるまじと 心得違いせし者もこれあるやの由にて」、いくら調べても、

平をいだくものがいたのだとか、寄宿舎の 廊下の改装工事の主旨が 誤解されたらしいとか、「かつ近来

原因調査がありますが、従来夜間行われていた学位授与式が昼間にかわったことに不

(明治一六年一一月五日 東京日日)。 ここでは、奮いおこされた 元気が、かえって、エリートたちを 乱衆(mob)にかえています。「少年

輩」にとって必要なのは、丸裸の元気ではなく、目標を共有できる仲間であることが、これでも分かる 組織化されてきたことが分かります。例によって神田明神に集まると、ラッパ、法螺貝を合図に、陣笠、 あたってみましょう(明治一七年四月一五日 でしょう。それがないために、"自我"はとても不安定だったのです。 この時は「総委員」「区部委員」の 小旗が見えているので、このインター・カレッジの 親睦会も少し なによりも、時代精神が不透明でした。この翌年の新聞にも「学生親睦会」の記事が出ているので、 朝野)。

30 弘福寺の会場に着き、角力、旗奪りで奮戦のあと、所も同じ木母寺で酒樽をあけます。それから酔漢を 赤手拭をかぶった思い思いの扮装で歩き出し、上野公園から広徳寺を通り、吾妻橋を渡って向島

ごろだったというのです。 ところが、前年の「舟遊会」とちがって、この日は、かなり大酔して巡査に抵抗し、一時分署へ拘引

したがえて、秋葉社、三囲社を経て、再び吾妻橋をわたり、万世橋あるいは日本橋での解散は午後八時

されるものが出る始末で、親睦に快を極めた若もののカラッとした感じが読みとれません。

明治一七年四月。これは群馬事件の直前です。そういえば、一行のなかの「俵を背負い、袴の裾を高

歩く「激烈なる気色」の一隊は、テロリストの蛮勇を誇示していたのかもしれません。とくに、気にな 地」「地獄征伐」「北方」等。なかでも「自由の血祭」「自由の仕入」の意味は?……しかし、この 並 置 るのは、勢揃いの意気高い旗やのぼりの文句です。――「自由の血祭」「自由の仕人」「魁」「勇気動天 くとり 草鞋を履」いた 扮装は、貧しい 農民のデモを 暗示し、「張り子の 生首」を旗と 馬印にして押し

激化にたいする戸惑いを端的に表明していたのだろうと思います。 も分かります。それを春風になびかせながら、ものいわぬ学生たちは、おそらく自由民権運動の凋落と

によって「自由」が一つのアンビヴァレンス(ambivalence)にかえられていることは、わたしたちに

◎ 内心のフォーラムを求めて

そのころ、学生たちは、お互いの眼に、どこか冷淡で無気力に映っていたのです。そしてそのあと乱衆 わたしたちは東大で寄宿生が士気・元気について議論していたことを知っています。いいかえれば、

そこで、視点を明治二〇 (一八八七) 年に移しましょう。徳富蘇峰は『新日本之青年』 (明治二〇年公刊)

私は教育事務に精通した人に 聞いたのだが、今日では、どこの学校でも 学校としての体面と資格

行動は、その無気力の原因が、ちょっとした暗示にもひっかかるほどの相互の「孤立」にあったことを

の付録につぎのような学生評をのせています。

いる連中が、ほんとうの元気をだせないのは、その「内心のフォーラム」が整っていないためです。そ

に、自己の中の他者と語りあら相談のフォーラムを構築する必要があります。孤立して無気力になって のは、自己とかかわる能動性です。しかし、その能動性を回復するためには、既述のように、自己の中 から励まされて出す元気がろくな元気でないことは実証済みです。わたしの表現を使えば、元気という

こういって 蘇峰は、学生たちに、もっとファイトをだせ、「活火」をもやせ、と 励ますのですが、 席せず、教師のエンマ帖の上の品行点には、百点以上の道徳家も少なくないそうである。((意訳) して、今日の学生は、しばしば喧しい理屈を言りにもかかわらず、読書につとめ、学科の授業にも欠 をそなえたものの校内では、殆んどあの漢学塾の名物であった乱暴書生の姿がみられなくなった。概

41

42 この生き方は学校の成績や社会的地位のために、自己が自己であることをやめる、自分を失り、といり のために彼らは、自分の責任で自分自身にかかわることができず、自己以外のなにかによって生きる手 を選ぶようになります。これが立身出世主義の心理だとわたしは思うのですが、しかし見方をかえれば、

ことではないでしょうか。

このタイプの典型が『浮雲』第一編・第六回(明治二〇年)にでているのでちょっと紹介しましょう。

その名はご存知、「本田昇」です。

は迷つかぬ。まづ課長殿の身態声音はおろか、咳払ひの様子から嚔の仕方まで真似たものだ。 の圧政家といふお方だから、哀れや属官の人々は御機嫌の取様に迷ついてウロウロする中に、 兎はいふものゝ昇は才子で、能く課長殿に事へる。此課長殿といふお方は、(中略)言はば自由主義

独り昇

た真似の巧な事といふものは、宛も其人が其処に居て云為するが如くでそっくり其儘、唯相違と言ツ ては、課長殿は誰の前でもアハムムとお笑ひ遊ばすが、 昇は人に依ツてエヘム笑ひをする而已。

受動的になっていたからです。昇自身はそれを 知らないのですが、『舞姫』(森鷗外)の「豊太郎」は さ んざん悩んだ挙句、結局、高官のおぼしめしにすがります。ここではその議論はしませんが、迂り路の 身振り声音から咳払い、くしゃみの仕方まで真似ることができたのは、本田昇の自己態度がすっかり

有無を除けば「昇」と「豊太郎」は同系列の人物であることが分かるでしょう。 つぎは、さっき言った「事実上の結合」ですが、それをここで「交際」と置きかえることにします。

す」ようになっています。『浮雲』第一編・第四回でお政はこんなことをいっています。 ものはじめ」でした。しかも、若い層だけではなく、もっと年輩者も気軽にいろいろな団体へ「顔を出 らぬところにあった女世帯の主人です。彼女は「女書生上り」で男とばかり交際しています。 どんな有様だったでしょう。 この証言のとおりならば、ちょうど、明治二〇年前後は若ものの間に、男女交際が流行した「そもそ た団体があつた。此女は何処へでも顔を出して随分顔が売れてゐたもんだ。 ぎだ。其頃は男女交際が流行した抑々の初めで、□□会、△△倶楽部などといふ男女交際を目的とし といふ質だから所謂新時代の青年が多勢出入りしてゐた。毎晩十二時ごろまでキヤツキヤツといふ騒 「それそれその 親睦会が 有るから一所に往からツてネお浜さんが勧めきるんサ。私は新富座か二丁 少とばかり西洋の本を嚙って聊か趣味を解してゐたのと、極コーケットの飛上りで洋服でも着やう。 内田魯庵によると、『浮雲』のお勢のモデルは、 当時二葉亭の家から遠か

歴史のなかの青年 演じゆつ会のやうな種のもんかしらとおもつたら、なアに矢張品の好い寄席だネ。此度文さんも往ツ これは、文脈から見て、会費制のファンクラブのようなものらしいのですが、親睦会というから演説 て御覧な、木戸は五十銭だョ。」 ふもんだから仕様事なしのお交際で往て見たがネ、思ッたよりはサ。私はまた親睦会といふから大方 目なら兎も角其様な珍木会とか親睦会とかいふ者なんざア (中略)……ウーイプー……お勢が往度とい

43 会の類かと思った、というところが面白いでしょう。もう親睦会は、ここでもあの演説会から切り離さ

しみを分かち合いながら、しだいに、時代の苦悩を忘れ去るかのように見えました。しかし、はたして、 こうして人びとは「面識」をふやし、従来の性や階層のカベを抜けて対人関係が枝分かれしていく楽

44

れてひとり歩きしていたのです。

うがいいでしょうか。彼の「人生問題」は『浮雲』の「文三」が試みたように、要するに、自**・**他の相 互媒介を通じて、自己の存在を問いつめることだった、と思います。 それだけでいいのだろうか、と二葉亭は問いかけます。むしろ、自問自答を繰りかえした、といったほ

幸福の場合にある。停滞は 進歩と戦りことはできないのだから、「吾人ハ諸君ト共ニ 此ノ第十九世紀宇 ですが、「諸君ハ之ヲ日本ノ小時勢ヨリシテハ、不幸ノ場合ニ在」るけれども、世界の大時勢から見れば、 を訪問します。蘇峰のこの著書は、日本の進路に新しい光を投げかけた大文章のようにいわれていたの

蘇峰の『新日本之青年』を読んで感激していた二葉亭は、明治二〇年八月、それこそ一面識もない彼

内文明ノ大気運ニ頼テ我国ノ時勢ヲ一変シ、以テ 知識世界第二革命ヲ 成就セント欲ス」と論じ、「世界

文明の大気運」を前にして、もし心配なことがあるとすれば、それは日本の青年に自立と、進取と、「自 カラ運動スル」「猛志勇断」のないことである、という主旨なのです。 |葉亭の問題意識とはちょっと、ものさしが合わない感じですね。どうやら、この「交際」は失敗でし

た。蘇峰(当時二五蔵)は四迷(当時二四歳)を理解できず、四迷は蘇峰に失望します。最後に、四迷は蘇峰に、 ……イヤイヤ晩く先生に知られんは早く知られる愉快に如かず。先生の自らレコグナイズするを待つ

という手紙を送るのですが、ぼくは、この不協和は「文三」と「お勢」の交渉のなかに形象化されてい は、自ら進んでレコメンドするの壮快なるに如かず。嗚呼先生小生は正直なる人間にならんと欲する

文三は内心の内心では尚ほまだお勢に於て心変りするなどと云ふ其様な水臭い事は無いと信じてゐ

姿勢ではなかったでしょうか。 ながら、気持の上では肩と肩を並べて同じ方向に視線をのばし、その向こうに真理をみつめる主権者の 「文三」と「お勢」の 交流のなかにあるべくして なかったもの、それは、ふたりが顔と顔を見合わせ た。尚ほまだ相談を懸ければ文三の思ふ通りな事を云つて、文三を励ますに相違ないと信じてゐた。 左程に難事とも思へない。もウ些しの辛抱、と、哀む可し、文三は眠らでとも知らず夢を見ていた。 Explanation(示談)、と肚を極めてみると、大きに胸が透いた。己れの打解けた心で推測るゆえ、

に言った。「自分だって社会の一員だ。自分だって他と同じやうに生きて居る権利があるのだ。」 「しかし、其が奈可した。」と丑松は豆畠の間の細道へさしかゝった時、自分で自分を激励ますやう だけ留どめておきます。

う紙幅がなくなりました。もしお読みでなかったら、どうか、ご一読ください。ここでは彼のつぶやき

わたしはその達成を、藤村の『破戒』(叨治三九年)に出てくる「丑松」のなかに見ているのですが、も

〉 リポート ⑴ 「歴史のなかの青年」を読んで

成 瀬 功

ます。 何を思い、どう生きたかについて「文学の中の青年を取り上げ」つつ内面の形成について論じられてい この章では、 明治期日本という一応の近代的統一国家の生みだされる過程、特に明治十年代の青年が

して、占領、新憲法と続く時点や事件、ことに「戦争責任」の追求の問題等が、それにあたるのではな ます。取り返しのつかないきっかけとは、明治の十年代自由民権運動あるいは、 日本の近代は、取り返しのつかないきっかけを何度か取り逃がしつつここまで来てしまったと言われ 十五年戦争の敗戦、そ

中川先生は、「ぼくたちは、いま生きて 動いている『現在』の中に『過去』に共通する 歴史的連関を 明治の青年と青年たちが取った態度や生き方におけるいわば「痛恨度」の細かな検証が必要だと思い

いでしょうか。

去」を「未清算のまま葬り去る」のではなく、過去から受け継いだ私たちの財産を検証してみることが ができるように なります。」と、この「歴史の 中の 青年」の方向性を 指摘されています。「未清算の過 把えることができ、したがって、これからさき、ぼくたち自身が創出すべき時代への課題を見通すこと

を取り上げておられます。 ソーなどの自由という概念の背後には、平等という観念がくっついております。兆民もルソーのよ

うに自由よりもむしろ平等という考え方が強かったように思います。 「スチュアートミル云へり真理ハ衆説相抵激スルノ 間ョリ発スト、又云へり 諸説大抵皆一片ノ真理

中川先生は、実際的運動にも たずさわり、また最大の 理論的指導者の一人「中江兆民」「植木枝盛」

上意下達の「命令型コミュニケーション」ではなく、中川先生は「相談型コミュニケーション」のあ

り方を兆民を通してここで指摘されています。

「お互いが肩と肩を並べて、同じ方向に視線をのばし、恰かもその平行線が交わるところに"真理』

う問題としてだけ提出されたのではなく、そこに平等という観念が大きな比重をもっていたようです。 兆民は「自由ハ取ル可キ物ナリ、貰ウ可キ品ニ非ズ」と述べていますが、それは単に自由の実現とい ぼくたちは誰とでも『私意』を抜きにして協力できるし、その協力によって主体性を失うのではなく、 かえって他者の補助を介して、それを育てることができます。」 をおいて見つめるような関係に立つことが必要です。逆にそういう関係にあることが確認できれば、

なるのです。他者の犠性の上に自己の自由の権利は保障されるわけがありませんから。 『卑屈の病に染む』貧民というども、フォーラムの中の相談型コミュニケーションを通じて、必ず『自 植木枝盛の「貧民論」を介して、「相談型コミュテ ーション」を次のようにまとめておられます。 「人間は平等である」という考え方を あらゆる場面で 貫徹しようとする時、自由が擁護されることに 「義務とは権利の侵害に 抵抗することだ、というイェーリングと論旨は 同じです。……彼はいかに

することができるのだ、という見通しを立てていました。」

己』の中に『他者』の励ましの声をきき、従って、権利のための自己とのかかわりを持続的なものに

小利口とされる時代がやって来ます。」との指摘、重く痛ましいものです。 不安がつきまとい「相談型コミュニケーション」を失い、「自我」はとても 不安定では の青年は仲間と共有する目標を見定められず、自分は誰からも評価されない脱落者ではないのかという 「『未清算の過去』の諸問題」を掘り起こし検証することによって、現実に進行しつつあるバラバラに 「『天皇主権』の体制が固まり、 権者の姿勢ではなかったでしょうか。」 せながら、気持の上では肩と肩を並べて同じ方向に視線をのばし、その向こうに真理をを見つめる主 現代の「青年像」と重ねながら、先生は『浮雲』の「文三」を語っておられます。 吸い込み穴のような学校教育を介して社会的上昇を迫られている渦巻構造のなかにおかれている現代 「『文三』と『お勢』との交流の中であるべくしてなかったもの、それは、ふたりが顔と顔を見合わ 自由
民権の
中枢が崩壊すると、
青年達は、 民権を語らずとかく無理想、 ないでしょうか。

49 た。」(『それから』)と述べています。バラバラにさせられてゆく現実のなかで「相談型コミュニケーショ 上に家を 建てたら、忽ち 切れ切れになって 仕舞った。家の中にいる人間も 亦切れ切れになって仕舞っ ン」が未来に向かっての私達の主権者としての姿勢を明確にしてゆくものと思います。 漱石は「現代の社会は孤立した人間の集合体に過ぎなかった。大地は自然に続いているけれども、其

させられ孤立した青年のなかに「相談型コミュニケーション」をどう築いていったらよい

丑松の「自分だって社会の一員だ。自分だって生きて居る権利があるのだ。」の声に耳を頃けたい。

たものと思います。 中川先生のこの論文は、 「明治の青年」の痛みを通し、現在の私達の

主権者としての 立場を明らかに 都立成瀬高校)

ます。そのなかで『日本の青年の生いたち』について、次のような視点に立って論究しています。

·執筆者中川作一先生は今から 二〇年前に『青年心理学』(法政大学出版局、一九六七年)を著わしてい

本

(5) 5 1 "和魂洋才"へ、⑨ 軟派硬派のわかれみち、⑩ 学制による二通りの青年、⑪「 父母ニ孝」という論 維新の志士の二つの面、⑥ "民権" がささえた人民教育、⑦ 維新政権と「参議熱」、 世阿弥の発達観、② 死ぬための 武士道修業、③「好色一代男」のばあい、④ 郷中と 若者制度、 ⑧ 開化思想か

理 ⑫「若者組」のその後。

本論文もこの延長線上にある論稿です。

ろうとおもいます。筆者も同感です。

発見せんと試みられています。 さて、本論文は近代日本の青年期の成立を明治の初期の歴史に照合しつつ、その群像を文学のなかに

きっと先生は、青年の先達者として『過去に学ばなき者は未来からみすてられるぞ』と訴えたいのだ 略)……政府といまなお……『同型』であることがぼくたちにも分かるでしょう。」(本書二五ページ) ないがしろにして……(中略)……いる今日の政府が、じつは明治初期に新聞と言論を抑圧し、……(中

い、また不可欠な方法であるとぼくは思うのです。じっさい、少し歴史をふりかえるだけで、憲法を

見迂遠なようですが、それは、現状認知を深めようとする現代の青年にとっては、かえって効率のい

「こうして明治青年までさかのぼって、彼らが 何を思い、どう生きたかについて 考えることは、一

徳富蘇峰(一八六三~一九五七年)、二葉亭四 迷(一八六四~一九〇九年)、島崎藤村(一八七二~一九四三年)ら の文学をとおして明治青年の群像を詳論しています。 坪内逍遙(一八五九~一九三五年)、北村透谷(一八六八~一八九四年)、徳富蘆花(一八六八~一九二七年)、

読者はぜひこうした人々の作品に目 をとおしてほしいものです。

にあって〝青年よいかに生きるかを〝問い続けた「良心」がみえてくるのではないかとおもらのです。 にふれてもらえるならば、明治から大正、そして昭和への、つまり一五年戦争を準備したファシズム下 筆者は、さらに森鷗外(一八六二~一九二三年)の『青年』、有島武郎(一八七八~一九二三年)の『星座』

「純一が日記の断片。 したら、『人間は種々なものに しばられているから、自分で自分を までしばらなくてもいいじゃない てもおれには続いて日記を書くということができない。こないだ大村を尋ねて行った時に、その話を 十一月三十日。晴れ。毎日几帳面に書く日記ででもあるように、天気を書くのもおかしい。どうし

のために自己を解放するかが問題である。(中略) ばならないというものではあるまい。しかし日記にしばられずに何をするかが問題である。何の目的 か』と言った。なるほど、人間が生きていたと言って、何もあくせくとして日記を付けて置かなけれ

それならどうしたらいいのか。

生きる。生活する。

答えは簡単である。しかしその内容は簡単どころではない」(『青年』一九一一年)

台の鐘に掘りつけてあった一文に青春の感動を語らせているのです。 そして、有島は、一九二二(大正一一)年『星座』のなかで、札幌農業専門学校在学中の彼の人に時計

しかし、その後のわが国の歴史にあって青年はどのように扱われてきたのでしょうか。

「科学は芸術なり。……真理は支配せず」と。

『戦艦大和』(吉田満著)に象徴される 事態のなかで尊い生命が「国のために」という 美名の下で "殺

された"のです。

"歴史のなかの青年』という視点を青年自身のなかに 宿しうる作業こそ今日の 青年心理学の重要な課題 明言し、行動する責務があります。その力、良心こそ、現代に生きる青年群像に発見したいものです。 戦後四○余年、戦争を知らない青年たちは"二度と戦争はおこしません』というちかいを先輩たちに

(大阪教育大学教授)

といえましょう。本論文はその契機を作ってくれています。

青年期における自己形成の課題

高 垣

忠一郎

∭「自分」がない──「自分」の内容

内心感じている自分は、ほんとうにちっぽけで自信のない自分だ。みんな一生懸命がんばって着実に 汲としてきて、ほんとうの自分というものがなかった。」 自分というものをつくってきているのに、私は周囲の期待やイメージにあわせて自分をつくるのに汲 え、それにひきかえ私は自分というものがないという自信のなさ、劣等感を強く感じはじめた。 裕があった。しかし、高校に入るとみんながかしこく、立派に自分というものをもっているように思 他人がみる優等生としての自分と自分が内心感じている自分とのあいだに大きなギャップがあった。 「これまで完ぺきな 優等生でやってきた。優等生の 仮面をかぶってやってきた。中学まではまだ余

これは登校拒否を克服したある女子高校生の語ったことばです。

56 同年輩の仲間を見渡せば、みんなが立派に「自分」というものをもっているようにみえる。ところが

るものがない。 自分はこれまで 周囲の期待に 自分をあわせることに精一杯で、「これこそ自分だ」と自信をもって言え くる緊張感が耐えられる限度を越えたとき、彼女は登校拒否に陥ったのです。 それにしても、彼女は「優等生」として優れた能力やよい特性をもっているのに、なぜそれに「これ このような内心自分が感じている自分と、周阻の目に映る「優等生」としての自分とのギャップから

性格、好み、趣味、信条、価値観など、さまざまなものを 意識します。したがって、「 自分を つくる」 とか「自己形成」とか一口に言っても、体力づくり、能力の形成、性格形成、思想や価値観の形成など、 私たちが「自分」というものを意識するとき、その内容はさまざまです。身体的な特徴、種々の能力、

こそ自分だ」と自信をもつことができなかったのでしょう。

いては生き方を選択する基準となるものの見方や感じ方、すなわち価値観の形成です。 しかし、そのなかでも青年期における中心的な課題といえば、何でしょうか。それは自分の行動、ひ

いろいろな内容を考えることができます。

舵とりができて、はじめてその人は自らの人生の主人公でありえます。そして自分で自分の人生の舵と 青年期は自分の人生の主人公として船出していく最終準備の時期にあたります。自分で自分の人生の

りができるためには、羅針盤にあたる価値観をしっかりともっていなければなりません。その価値観が

∭「自分」をもつということは

女は周囲の期待に合わせ、周囲の価値観を基準に生きてきて、自分自身の価値観をもっていなかったの の見方、感じ方、その土台となる価値観をしっかりともっている人のことを言うのでしょう。 このようにみてくると、先述の女生徒が「自分というものがない」と感じた意味が理解できます。彼 「自分」というものをしっかりもっている人という のは、行動や生き方の基準となる自分自身のもの

するのか、その方向を与える 価値観がともなってこそ、「これこそ 自分だ」と自信をもてる「自分」と えるものとはなりません。そ らした能力や特性をどのように使い、どの方向に何を実現するために発揮

いくらすぐれた能力や特性を身につけていても、それだけでは「これこそ自分だ」と自信をもって言

自分をつくる 57 単純にうれしいのです。「勉強ができる」と言ってほめられ、「まじめだ」と言って認められれば、それ なるのです。 でうれしく、誇らしくさえ感じることでしょう。 ほど自分を問題視することはありません。むしろ親や先生の価値観を基準にほめられ、認められれば、 子ども時代には、まだ自分を方向づける価値観を外から与えられていても、そのことに疑問を覚える

や意味があるのかということを問い直さねばならない時がきます。 しかし、やがて「勉強ができる」「まじめである」ということが、他ならぬ自分にとってどういう価値

感じ方をおとなから取り入れてきています。その多くは無意識に、受動的に取り入れられたものですが、 今度はそれらを取捨選択しながら自分自身の価値観を再構成してゆかねばなりません。 子ども時代に親をはじめ周囲のおとなとの交流のなかで、私たちはいろいろな価値観、ものの見方や

そしてその価値観のもとに、子ども時代から身につけてきた種々の能力や特性に光をあて直し、

もてる「自分」をつくることができるのです。 づけし直し、自分を再編成しなければなりません。そのようにして初めて「これこそ自分だ」と自信を

一 今日の青年の価値観と生き方

▓ プロテウス的生き方と価値観

青年期はこれからの人生の羅針盤となる価値観を形成し、自分を確立してゆくことが課題である述べ

ところが、今日のわが国のように「価値観が多様化」し、かつ「変動の激しい 時代」においては、自

己の人生の羅針盤となる価値観を形成することがたいへん困難だという指摘があります。

そのような社会においては、 ひとつの価値観に固執して生きていては時代にとり残されるがゆえに、

摘さえあります。 むしろ価値観を確立しないで、 してゆく生き方が、望ましい適応的な生き方であり、そのような生き方をする青年が増えているとの指 プロテウスとは、ギリシャ神話に出てくる海神で、大蛇、ライオン、竜、火、洪水と何にでもなれるが、た 自分の出会う場の状況に応じてプロテウスのように変幻自在に「変身」

て、まず田口寛治氏の著書『現代学生気質』(神戸新聞出版センター、一九八七年)より、いわゆる「かっこ(1) はたしてそのような指摘があたっているのかどうか考えてみたいと思います。それを考える素材とし だ一つ自分自身にだけはなれないという変幻自在の神のことです。

よさ」を価値として、それを行動基準としている学生の意見を紹介します。

銭。性。快楽 主義。真実。 誠実。知性。良識。理想。夢。冒険。情熱。ユーモア。愛。欲望。立身出世。幸福。金

「僕(あるいは僕たち)が、自分の行動を決める基準になるものは何だろうか。義務。責任。

自由。

59 っている。しかし、僕の場合、そんな抽象的なモラル(むしろ言葉)ではなくて、なんていうか、自 聞いただけで、歯が浮くような、背中がカユくなるようなものがあるが、まあ、どれも多少は当た

分のであれ、他人のであれ、僕が是認できるある種の言葉や行動に共通しているもの、強いて表現す

生である以上、学生服はきないとか。こんなふうに、そのとき、その場の状況にマッチすると同時に、 繚の話をもち出したりしないとか、駅のプラットホームで傘でバッティングの練習をしないとか.学

うまくマッチしていなければならない。たとえば、みんなが酒を飲んで楽しんでいるとき、突然、成

どこかでさりげなく、まわりの人に自分を印象づける。見ている人、聞いている人に、ひそかに『お

ぬしも、やるね』と感じさせる、だが(ここが肝心)、決して臭くない。『かっこいい』とは、こんな

いて次のような指摘を行っています。 かがでしょう。なるほどなあと思わせるところがありますが、田口氏はこのような今日の青年につ

感じなのである。」

れば、美意識が価値観の芯になっているともいえるでしょう。」 を自分の言動で『かっこよく』表現しようと するのです。『かっこよさ』の芯が一種の 美意識だとす たしかにもっともな指摘です。 「その場の状況に マッチすると同時に、どこかさりげなく 周りの人

のいわば『かたち』『様式』『状況』『雰囲気』のような ものとして、感覚的に 感じとり、自分もそれ

|青少年はモラル(?)(行動の基準)を、抽象的な主義主張や徳目としてではなく、望ましい言動

タイル、形式のみにかかわるものであり、行動の内容については何も言っていないことに気づきます。 そのような行動のス 卶 ル 、形式のなかに 何を内容として 表現するのか、「おぬしもやるね」という しかし、それと同時に、先の学生の「かっこよさ」の定義は、まさに「かっこう」すなわち行動のス

中身が何なのか、そのことは問われず、そこにはいろんな内容のものが入りうる余地があります。その

とき、その場の状況によって内容がいろいろ変化する可能性が残されています。

そういう意味では、その場面、場面にあわせて変幻自在に「変身」するプロテウス的な生き方にふさ

に自分を印象づける」ためには、それなりの美意識を必要とするでしょうし、感覚をみがかねばならな

わしい価値観であり、行動基準と言ってよいかもしれません。 しかし、このような価値観も、内容のない無節操で信頼できぬものとして、ただちに否定しきれぬ一

つけようとしたら、彼らは確実に反発します」という田口氏の指摘にもあるように、上から押しつけら モラルを『臭い』と感じます。臭いものは、自分で拒否するだけでなく、 面を含んでいるのかもしれません。 というのも「『かっこいい』を行動基準とする現代の 青少年は、 上述のように、抽象的に 立てられた もし誰かがそれを自分に押し

感じとり、それを拒否できる感覚を備えているとすれば、そこには健康な価値観の| 端を垣間見ること

れる抽象的な徳目主義的なモラル(例えば「愛国心」のようにど、

何かわざとらしさやうさん臭さを

61

ができるようにも思えるからです。

よさ」に堕しかねない危険性をもっています。 とはいえ、それはあくまでも感覚的なレベルのものであるがゆえに、無節操でご都合主義の「かっこ

次に 紹介するのは『朝日新聞』(一九八七年五月一〇日)の 投書欄にみられた、ある 学生による ◎ ある ″青年の主張:

新車買ってもらったしさ、メンズノンノで研究して服だってブランドでキメたのよ。 第一、デートで原発がどりのなんてさ、カッコ悪いじゃん。いいじゃねえの、勝手にやれば。 「どこかの国で 原発事故があって一年とかいうけど、どうでもいいさ。おれって 忙しいわけ。親に

てるけど、おれ一人のせいでもないし、要するに女の子の方が大事なわけ。 わけ。髪の毛ビシッとせにゃ、ギャルにモテないわけよ。オゾンなくなると皮膚がんになるとか言っ だろうが地下核実験だろうがさ。おれがやめろっつったてやめるわけねえべ。それより、 スで頭キメたばっかりなわけよ。ムースにフロンガス入っててオゾン層を破壊するけど、おれは使ら おれ、

が多いらしいね。でも税関で放射線検査しているし、みんな食べているんだから大丈夫と思うの。日

おれってグルメだから、彼女とフランス料理とか食べるの。そういう食べ物の材料って割と輸入物

のなかの一人であると告白しているのか、そこのところはよくわかりません。 この投書の主の学生は、同世代の最近の若者気質を皮肉ってみせているのか、それとも自分もまたこ 最近よくある"青年の主張』です。」

しかしとりあえず、この"青年の主張"を額面どおりに 受けとめれば、「デートで原発が どうのなん

いかぎりであると言わざるをえません。 てさ、カッコ悪いじゃん」という 程度の感覚で、「かっこよさ」を測 っていると すれば、 はなはだお寒

い」行動とは何なのか、という疑問が湧きます。 印象づけるものであるとすれば、原発や核の危険な社会的状況のもとでのそれにマッチした「かっこい それはやはり、核や原発について問題にし、話題にすることではないでしょうか。もしそうだとすれ それに「かっこよさ」が、その場の状況にマッチしていて、しかもさりげなく「おぬしもやるね」と

ば、大きな社会的状況にマッチした「かっこいい」行動が、小さなデートの状況では「かっこわるい」 行動ということになり、そこに当然矛盾、葛藤が生じてもよいはずであり、それをどう克服するのかと

それとも「かっこよさ」という基準は、小さなその場、その場の状況内での行動のみにあてはめられ

いう問題が生じると考えるのですが、いかがでしょうか。

64 るものであって、大きな社会状況を視野においた行動にはあてはめられないものなのでしょうか。 もしそうで あるとすれば、「かっこよさ」の基準など、都合のよいところだけに それをあてはめる、

ごくいい加減なご都合主義の基準でしかないということになるでしょう。

現代青年の「虚像」と「実像」

楽しく過ごせさえすればよいという生き方が"主張"されています。 に他人事ですませてしまう生き方、面倒くさいことにはかかわりたくない、とにかくおもしろおかしく、 自分の目先の利害や楽しみにかかわってこないかぎり、世のなかのいろんなできごとにたいして無関心 ここまでくると、変幻自在のプロテウス的「かっこよさ」も一皮むけば、ただ自己の目先の利害に忠 先述の"青年の主張"を文字どおりに受けとめれば、そこにはまさに臆面もなくと言ってよいほどに、

この はたしてこれは今日の青年の「実像」なのか、それとも「虚像」なのか。筆者の教える学生諸君に、 "青年の主張"について意見を聞いてみました。

実なだけの利己主義者ということになってしまいます。

自分もそうだし、こういう人は多い。

(2) 自分もそうだが、こういう人は少ない。

自分はちがうが、こういう人は多い。

(3)

(4) 自分はちがうし、こういう人は少ない。

の四つのうち、自分の意見はどれに該当するかを答えてもらった結果が以下のとおりです。

女 (N=41) N = 43 11人(25:6) 15人(36:6) 2人(4:7) 4人(9.8) (2) 19人(44・2) 19人(46·3) (3) 11人 (25・6) 3人(7:3)

でみるかぎり、この『青年の主張』について「自分もそうだ」という青年は多数派とはいえません。 と同時に 注目すべきことは、「自分はちがうが、こういう人は多い」と判断している 学生が他に比べ

百名に満たない学生のデータですので、これをただちに一般化するわけにはいきませんが、この結果

()内は%

て最も多く、男女ともに半数近くに達していることです。

メージは、身近な同世代の仲間との接触を通して直接たしかめられたイメージというよりも、むしろ自 メージをもっている。これはどう解釈すべきなのでしょう。 「自分はちがう」という人が多数を占めていながら、「こういう人は多い」という同世代にたいするイ 「自分はちがう」という人が多数を占めている以上、「こういう人は多い」という同世代にたいするイ

66 それはテレビやマスコミを通してつくられた「現代青年」のイメージ(虚像)ではないのか。多くの

分たちが勝手に思い描いている同世代にたいするイメージではないのかという疑いが生じます。

青年が、そのような作られたイメージを通して、同世代の青年をながめていることを、これは示してい

るのではないか。

らわからないでもないが、同世代の仲間がこんなふうに突き放した見方をしているのは理解できないと ちなみにある学生は「旧人類」のおとなが「新人類」の若者にたいしてこういう見方をしているのな

🧱 同世代の仲間にたいする不信感

よっていったい何が生じるでしょうか。すくなくとも一つだけ確実に言えることは、お互いの本音や悩 このように「他人事に対して無関心な利己主義者の群」として、自分たち同世代の人間を見ることに

みを出して、仲間とかかわることに臆病になるということです。 安や不信感を仲間にたいしてもつようになるということです。 「こんな本音や悩みを 語っても、他人事としてまともに 受けとめてくれないのではないか」という不

年が意外に多いことに気がつきます。彼らは自分の本音や悩みを語るのが怖いと言います。悩みを語っ 学生諸君と接していると、仲間にたいして自分の心の中心部にふれる本音や悩みを語れないという青

先述のような同世代に対してもつイメージは、それが邪魔をしてお互いが自分のありのままをさらけ

出してぶつかりあい、そこから 自分たちの 本音や欲求(要求)、願い、悩みを確か めあうことを 困難に

もし仮りに、お互いに直接確かめあうことなく、マスコミによって作られたイメージ(虚像)によっ

していることは、ほぼまちがいのない事実であるように思います。

て操られ、「影」におびえて相互に 不信感をもたされているとすれば、若い世代にとって 不幸なことで 「他人事に対して無関心な 利己主義者の群」という作られた「虚像」をもって 同世代を見、相互に不

信感を抱かされる。そのことによって利益を得るのは誰なのか。すくなくとも青年たち自身ではないこ

「私の大学の構内では、国家秘密法に対する 反対運動を熱心に進めている 人たちがいます。声をか

らして必死にアピールしています。ところが学生たちは(実際そうなのか、装っているだけなのかは

67 さて次に、先の投書"青年の主張』と同じ投書欄にのった別の学生の投書を見て下さい。

自分をつくる

現代青年の「実像」

とは明らかです。

O

わかりませんが)無関心です。差し出されたビラさえも黙殺する人が多いようです。自分もその一人

で

このことを実証しているようです。 らない方がいいよ』という言葉をよく耳にしました。国労の組合員が職場で差別されている事実は、 名して下さい』と言われると 出来ないのが 実情です。『就職に不利になるから、学生運動にはかかわ 国家秘密法は売上税問題とは違って、明確に悪いものだと自分では思っているのですが、いざ『署

と思いながら。」 屈な自分に気付き、自己嫌悪に陥っています。このような風潮は為政者にとっては好都合であるな、 私一人がやらなくても……と思いながら、徐々に見ザル、聞かザル、言わザルに仕込まれていく卑

ここには世のなかの出来事にたいして強い関心をもちながら、わが身かわいさゆえに無関心を装い、

その実、内心では葛藤を経験している一人の青年の内面が示されています。 この学生の告白にたいして、先ほどと同様に学生たちの意見を求めたところ、次の結果になりました。

- ⑴ 自分もそうだし、こういう人は多い。
- ③ 自分はちがらが、こういう人は多い。 ② 自分もそうだが、こういう人は少ない。
- ⑷ 自分はちがうし、こういう人は少ない。

女 男 (N H H H H H H H H H H H H H H H H H H	
32 32 人 人 78 74 0 4	(1)
1 3 Å Å 2 7 4 0	(2)
6 5	(3)
2 人 (4 (7 (9) 0)	(4)

い」と判断している学生が圧倒的に多く、男女ともに七○%を超えていることです。 この結果からみれば、この青年の告白にみられる姿が今日の多くの青年の「実像」に近いものだと判

先述の"青年の主張』にたいする 結果ときわだって ちがう点は、「自分もそうだし、こういう人は多

()内は%

断してよいのではないかと思います。

「見ザル」「聞かザル」「言わザル」を装うことが、為政者にとって 好都合な状況であることを 理解でき ……」とかかわらないことの 言い訳をするが、それが 言い訳に しかすぎないことに 気がついている。 かわらないようにしているが、決してそのことを是認しているわけではない。そして「自分一人ぐらい わが身かわいさゆえにかかわらないが、決して無関心でかかわらないのではない。無関心を装い、か

69 幻自在に自分を適合させ、「他人事」に無関心であるようにみえるのは、「就職に不利になるから、学生 ここにみるかぎり、この青年たちが自分の目先の利害にのみ関心をもち、その時、その場の状況に変

るがゆえに、「見ザル」「聞かザル」「言わザル」であることにたいする 葛藤がある。これが 今日の多く

の青年の「実像」なのでしょう。

70 運動にはかかわらない方がいい」と言われ、「国労の組合員が 差別されている」というような 事実があ

青年の「実像」を見誤らせるものではないでしょうか。 う、よく指摘されるような理由によるものではないように思えます。 るがゆえにであって、必ずしも現代の社会が「価値観の多様化」した「変動の激しい社会」であるとい むしろ「価値観の多様化」や「変動の激しさ」に理由を求めるのは、議論のすりかえであって、現代

四 今日の青年の対人関係と自己形成

装う青年たちをつくりだしていると言えば、言いすぎになるでしょうか。

容認している今日のおとなの不甲斐なさ(決してそういうおとなたちばかりではないが)が、無関心を

「学生運動にかかわれば、就職に 不利になる」とか「国労の組合員が 差別されている」という現実を

龖 他者を鏡にして自己形成する

が同世代の仲間にたいしてもつ「虚像」があるのでは ないでしょうか。 今日の青年の自己形成を考えるとき、その困難さをもたらしているひとつの重要な要素として、青年 「自己の目先の利害だけを考え、他人事に対して 無関心」という「虚像」が、青年たちの 相互をへだ

てており、そのことが今日の青年の自己形成を困難にしているのではないか。なぜならば、青年の自己

第2章 自分をつくる 形成は他者との相互交流を通しての確かめ合いによって実現してゆくものだからです。 あげてゆくのが、自己形成のプロセスだといえます。 試され、修正されたり、鍛えられたりしてゆくのです。 や欲求とのあいだにも生じます。そのような他者との矛盾、葛藤あるいは共感をへて、自己の価値観は 相互のあいだに生じる矛盾、葛藤をへて、知的でかつ情緒的な格闘のすえに選びとられてゆくものです。 は他者が求めているもの、他者がどういうことに価値をおいているのかということに出会う時に、はっ 己を確かめることもできません。自分が何を求めており、どういうことに価値をおいているのか、それ 確かめ選択してゆく。何度も葛藤したり、前進と後退をくりかえしながら、自分自身の価値観をつくり 欲求との葛藤のごとく、自己のなかにあるさまざまな欲求(要求)やそれに対応するさまざまな価 価 自分の心の中心部にかかえこんだ思いをぶっつけあうことを抜きにして、他者を確かめることも、自 さまざまな他者の価値観や生き方にふれながら、それを鏡にして自分自身の価値観や生き方を検討し、 そのような矛盾、葛藤は自分自身のなかで生じるばかりでなく、自己の価値観や欲求と他者の価値観 .値観や自己の形成は、机の前に一人座って行う純粋に知的な作業によって実現するものではありま 先述の青年の告白にもみられた、わが身かわいさの自己保身の欲求と社会正義や民主主義を守る 値

71

分自身を知ることはできないものです。

きりと確かめられ自覚されるようになります。人間は自分自身をぶっつけてみる相手の存在なしには自

に不信感をもち、自分の本音をさらけ出せないでいます。本音を出して、それを相手がまともに受けと

しかるに、つくられた「虚像」をとおして仲間をみる青年たちは、仲間の「虚像」におびえ、「虚像」

「堅くて、融通性がきかなくて、おもしろみのない奴」と見られたくなくて、ちがう自分を演じようとし

今日どうも「まじめ」という レッテルは評判が悪く、「まじめ」に見られることを嫌う 青年は多い。

よりは神経質)は決して消えることはなく、自分の中からこの二つの面が無秩序に出てきて、今から も誤解していて、とりとめもない性格になりかけてしまったが、一方で生まれ持った几帳面(という

考えればはっきり言って変な奴だったと思う……。」

ていた。

な行動もいろいろしていたように思います。人はまじめで 几帳面だと長所のように 言いながら、

「ぼくはよく他人から『まじめ』という レッテルを はられ、それがいやで 何とかはがそうと無意味

たい奴』という印象を持っていたようで、表面的にルーズな印象を与えるような空虚な行動をよくし

まじめということを良いことだとどうしてもとれずに、まじめの逆がまるでルーズな粗い性格とで

めてくれるかどうか不安で あり、「深刻」「マジメ」と茶化されてしまわないかと心配なのです。

쮋「虚像」を演じあう関係をこえて

ある学生は自分の高校時代をふりかえって、次のように書いています。

72

ありのままの自分を否定して、周囲から期待されている「変幻自在のかっこよさを生きる青年」とい

う「虚像」を演じてみせて、周囲から受け入れられようとする。 しかし、仮りにそれが受け入れられたとしても、それはほんとうの自分が受け入れられたわけではな られた「虚像」の自己が受け入れられているのであり、そのことによって表面的な「親密さ」

を得られたとしても、そ の代償にほんとうの自分を失い、自己を空洞化させていくことになります。 ありのままの自 分、ほんとうの 自分とは ちがった自分を 演じあうことによって、はじめて 得られる

「親密さ」ほど空虚なものはないが、その空虚さを見まいとして、ますます完ぺきに、強迫的に「虚像」

自分を失っている。ほんとうの自分が不在なのに、どうして親密になりえましょう。それはお互いの自 を演じあおうとする。 このような関係は表面的には「親密さ」を実現しているようにみえて、その実、真に親密になるべき

互いの「虚像」を鏡にして「虚像」を演じあい、ほんとうの自分を見せないこと、それが今日の青

己形成を援助しあうどころか、むしろ逆にお互いの自己喪失を促進しあうことになるでしょう。

年の自己形成を困難にしているように思います。 ゆえに、つくられた「虚像」によって仲間を見ていないか、仲間の「虚像」にまどわされ、不信感を

もち、心を閉ざしていないかぞのことをまず問うてみてほしいと思います。

73

74 と思いつつ、全体の風潮が こうだから自分ひとりが 逆らってみても……」と思い込み、「無関心」を装 そしてお互いに心を開いて ほんとうの自分を見せあってみれば、お互いが「こうであってはいけない

っていることに気づくことができるかもしれません。

なく、多数であることに 気づけば、「こうであってはいけ ないと 思いつつ、多数の自分たちが……」と そして「こうであってはいけないと思いつつ、自分ひとりが……」と思っている人間が実はひとりで

だし、「自分たちも 捨てたものではない」という 肯定的な「実像」を形成してゆくこと、そのなかでこ さを覚え、押しつぶされてしまりのでなく、「おぬしもやるね」という お互いのほんとりの 姿を見つけ いらふうに発想を変えてみて、その多数を力にすることを考えてみてはどうでしょうか。 「どうせ自分は」「どうせ自分たちは」と自分や自分たちにたいしてもたされた「虚像」によって無力

そ今日の青年たちの積極的な自己形成が実現してゆくのではないでしょうか。



また、自分の価値観という土台がなければなりません。

いと私は思います。 なぜなら、プロテウス的生き方は、これから社会を生きていくには、必要な要素だと思らからです。

自分自身をもったプロテウスになれるなら、自分の意志をもったプロテウスになれるならそうなりた

山 内 章 子

自分は何だろう、という疑問にたどりついてしまうでしょう。 ただし、自分自身の一番自然でいられる場所というのをもっておかないとむなしいだけで、いったい

分を出していては、ただの頑固者ではないでしょうか。人とつきあうには、TPOが大切だと思います。 すごく親しい人たちの前では、ほんとうの自分を出すことも必要であるけれども、 誰にたいしても自

75 であって、最初会った時は、自分と性格が合いそうにないな、と思っても、思いやりをもって相手にあ 初対面のときから自分が心を開いて相手もそうなることもあるでしょう。しかし、そういうことはまれ

わせつつ、あわされつつ接していけばあんがい気が合ったりするものです。

ていくことも 大切であると思う。「親しい人以外とは、うわべでつき合う」というのとは、意味が 違う どんな場面に出くわしても、それなりに、その場の状況に合わせていけるだけの経験や感覚、その人 自分とまったく同じ人間は、二人といないけれども、どこかに接点があるのだから、それを見いだし

をしたのではないかな、と私は思います。たしかに自分というものを貫き通すというのも大切かもしれ その人の人柄、性格というのは、自然とわかるものだと思います。 面な自分というのも捨てきれず両面がまざって変な奴だったと思う、という体験談を読んで、いい体験 の誠実さや真心などが必要で、決して、かっこう、形式だけで通用はしません。どんなに装っていても、 まじめというレッテルがいやで、なんとかはがそうといろいろな行動を試みたけれど、やっぱり几帳

格、きっちりもったままでしたので、少し時間の経った現在では、今の自分を少し変えてみたいと思う ところがあったとしても、素直に自分の性格について認められるようになったと思います。 考えからきた行動ですから、実像ともいえるのではないでしょうか。幸い彼は、本来の几帳面である性 の時点では、 虚像のつも りであったかもしれませんが、とにかくみんなの輪にはいりたいというぞ の ません。しかし、ある程度まわりにあわすということで、きっと仲間にうけいれられたと思います。そ

だれも自分のことをわかってくれない、と自分が、何も働きかけずに不満をいっていても仕方ないの

それまでは、自分だと思いこんでいた殻に閉じこもっていただけだった、と新しい自分を発見すること と声がかえってきます。 けど、そんなことはない、やっぱりもとの自分が一番自然でいられる、と悟れるようになると思います。 と告白すると、 いられるかもしれませんが、だんだんと深刻な話やマジ な 話を聞いてくれない話さないような友人が のがなく、疲れるのではないでしょうか。 になるかもしれません。また、改めて今までの自分を一歩離れたところから見て、いやだと思っていた です。それよりも、いつもと違う自分を演出してみて、意外とそちらのほうがほんとうの自分だった、 した。しかし、大学生になってからは、 いたなら軽蔑します。中学校、高校時代ともわりと「ネアカ」タイプに憧れ、それがいいと思ってきま 今までは、じっくり自分について考えたり、真剣に物事にとりくむといった姿勢がないということの 「私もあるよ。」「あるある。そういうの。」 「実は、私、ネクラやねん。すごく落 ちこんで、ずーっと一人で考えこんだりする時とがある。」 私の個人的な意見になるかもしれませんが、最初のうちは、いわゆるのりのいい話だけでつきあって 虚像どうしのつきあいというのは、続かないと思います。そういうつきあいは、お互いに何も得るも

ほうが、茶化されます。その人の内面的な深さや人間的な成熟度、視野の広さなどがあってこそ、信頼

関係が成り立つと思います。

がつのる。 b あてはまるところもあるのでそういう人は多いという結果になったと思う。社会がそうさせてるわけで ぐらいは……とあてはまるところもあったりして。自分はその仲間でありたくないと否定しながらも、 "現代の青年の主張』は、こういうミーハーな 若者もいるんだよな、とせせら 笑いつつも、自分一人 利益の問題でもない。一人ひとりの意識のもち方ひとつで変えられることなのでよけいもどかしさ (大阪音楽大学四回生)

コメント② 自分をつくるとは コメント② 自分をつくるとは

につくられた「虚像」によって見、仲間の「虚像」にまどわされ、不信感をもち、心を閉ざしていない 筆者は、現代の青年たちが、同世代の仲間を「他人事に無関心な利己主義者の群」といったマスコミ

不可避の課題とおもわれてきます。それは、青年自身の課題でもありましょう。 積極的可能性、その「実像」を明るみにさらす仕事は、青年の自己形成のためにさしせまって緊急かつ おしとどめていくように作用している。とすれば、そうした青年像論議を根本的に批判し、現代青年の をつかんでいないだけでなく、青年たちの相互の関係にくさびを打ち込み、みずから真の姿への自覚を との分析にはおおいに啓発されます。新人類論・若者保守化論などの青年像論議が、現代青年の真の姿 か、と問うています。そういう人間関係のあり方に今日の青年期の自己形成のおおきな困難点がある、

自分をつくる 79 第2章 か。一つの考え方として、それを体験された感覚以外のところには認めない。むしろ、感覚のあり様と 「価値観」をもつことであり、それは「人生の羅針盤」に もたとえられます(科学的な 世界観というも 観」を「自分」の 中心内容と みている ようです。し っかりした「自分」は、 しっかりした 自分自身の してとらえるものがあります。〈よさ〉の感覚がすべてです。ある意味ではすぐれて具体的な〈よさ〉 のなかでどのように追求原理としているか、ということにありましょう。しかし、価値(よさ)とは何 のにも通ずるものでしょう)。 は、「自分の行動・生き方の選択の基準となるものの 見方・考え方」あるいはその「土台としての 価値観の問題は常識的にいってなにを一番値うちあるもの、よきものとしてみとめ、みずからの生活 自己形成とは そもそも なんでしょう。「『自分』とは?」という問題は 古くて新 しいものです。

価値

80 を超えて実在する価値や、それをつかみとる可能性を否定することとは別のはずです。いずれにしても、 なるほど、みずからの感覚にしか〈よさ〉を感得する源泉はありません。しかし、そのことはその感覚 の見方でしょうか。具体を超越したごとき理念や徳目を価値としてはうけ入れない立場にも通じます。

しています。「その場の状況にうまくマッチし」「さりげなくまわりの人に自分を印象づける」こと、決 なにが真のよさかの問いは真の自分がなにかの追究と重なるものでしょう。 筆者は、『現代学生気質』(田中寛治)を参照しながら「かっこよさ」を価値とする若者の 意識を 検討

.こえる契機が不可欠でしょう。なにと対決し、どこからどこへ超えていくのか。い かにさりげなくにせ よ、その意図が問題です。 通じ、背後に(その筋の)意図、わざとらしさを感じさせないという意味のようです。印象づけは、な んらかの意味で際立ちの結果であるとすれば、たんに状況にマッチし融合するだけでなく、状況をのり っして「臭くない」という"感じ"がそれです。「臭くない」というのは「うさん 臭い」の"臭さ"と 今日、その筋は、臭みを消し、美を演出しながらわたしたちの意識の統合操作をはかることに苦心し

二つの青年像の対比と学生たちの反応はおおいに議論したいところです。それぞれの場で検証すべき

ています。そのことに無批判では「かっこう」は つきません。

間としての良心、尊厳、人道の感覚、自主自立自治の精神。こうしたものをわがものとするがゆえにそ 渡すのではない、と いう原則をしっかりさせておきたい。企業資本は全人格の従属を強いる傾向をつね はありません。企業社会の過酷さ、野蛮さを今日の青年は、きわめて身近に直観しています。えげつな けない事態が深化しています。彼らがいやしめられているとき、学生だけ誇り高い未来を描けるもので 自由の存在。これはどのようななかでも守られるべきものです。 い採用基準についても。しかし、その際、わたしたちは、労働能力を売っても人格まで企業資本に売り た。今日、たいがいの学生が卒業後労働者になっていく。彼らの命運と青年学生のそれとは別途には描 れを軽んじ、侮り、否定するものにこだわり、自己自身をみとめさせていくことに旺盛な立場と活動の にもつとしてもそれを拒否する自由と運動がまた存在すること。決して売りわたすことのできない、人

81 ないでしょう。 しかし、それはつねに相手への旺盛な関心と働きかけ、相互批判、自己批判の活動と対立するものでは とが種々の調査でたしかめられています。相手の立場の尊重の感覚といってもいいのかもしれません。 お互いをお互いの創造物として確認し合える関係のなかに、友情も存在するでしょう。

青年たちは人生のなかで、友人、友情、そして思いやりを大切にしていきたいという志向がつよいこ

人は鏡なくして自己をみることはできません。人間には人間という鏡が必要です。しかし、人間という ることができる、このことを最後に強調したいと思います。 鏡はかぎりなく豊かな屈折の仕方をもちます。その洞察をへてはじめて映しだされる姿を正しく読みと (国民教育研究所所員)



第3章 思春期のからだとこころ

播磨俊子

で、身体の問題は大きな役割を担っています。 分らしさの模索の過程で、あるいは自立した個人としてまわりの人々と新たな関係を作りあげていく上 として受け入れていくことでもあります。そこにはいろいろな葛藤が生まれます。前章で見たような自 自分にふさわしい男・女らしさをつくっていく過程であり、それは文化的・社会的な価値基準を、大人 思春期におこる身体の変化は、子ども時代の終わりを告げます。身体が大人へと変化していく過程は、

動的な心の働きが活発になる時ですが、その一方で、このような身体の変化を通して、意志を超えた力 かなければなりません。思春期・青年期は、自覚的に自己を模索し自己変革をはかるという意志的・能 そして大人になっていくためには、その変化を、たとえ忌むべきものと感じたとしても、受け入れてい ないとにかかわらずやってきて、自分の意志や努力ではどうしようもない身体的条件をつくりあげます。 なし慣れ親しんできた自分の身体が、ある日突然未知の世界の秘密を運んできます。それは望むと望ま ところで、思春期におこる身体の成熟は、かつて体験したことのない身体の異変です。自由に使いこ

本章では、このような身体の問題を中心に、思春期・青年期の心の変化や葛藤、大人になることの意 いろんな不安もうまれます。成熟していく身体はさまざまな思いをも運んでくるのです。

に出会う時でもあります。そしてそれを受け入れることによって自らの変容を実現するという、いわば

大人の身体になるということ

味などを考えてみたいと思います。

期を言い現わすことばになっています。日本語の思春期ということばにくらべると、何か即物的で余情 という意味だそうです。身体が成熟しはじめて脇毛や陰毛や髭のはえはじめる状態が、そのままこの時 英米語では思春期のことを puberty といいます。語源にあたる ギリシャ語は、毛でおおわれたこと

にいいあらわしています。 のないことばに思われますが、その分だけこの時期の大人になるということの生物としての必然を率直

しかなかった性器が、この瞬間に自らのコントロールをこえた未知の生理活動の担い手として登場して 性的な能力の成熟は、女子の初潮・男子の精通体験となってあらわれます。性別を証す身体の一部で 5 第3草

(万羽、一九八六年)。この年齢は、社会的にみれば本当に幼い年齢です。

五年(一○%)とし、上限を 中学一・二年(九○%)とする 年齢に 安定してきたと 指摘されています では、戦後つづいた前傾化は、一九七四年頃をピークにそのス゚ヒードが鈍り、現在では下限を小学四・ 究』高知大学教育学部研究報告第3部)であるのに くらべると、とても早くなっているといえます。

年齢は 一二歳三・九月となっています。 一九四五年の 平均年齢が 一五歳三月(野中実『初潮に関する一研

たとえば、一九八一年に実施された日本性教育協会の調査(『青少年の性行動

第2回』)では、

初潮平均

85 も社会的にも、あいまいなものにしてしまったといえます。たとえば就職など社会的立場の変化が大人

このような幼い年齢での身体の成熟は、生理的な成熟がもつ「節目」としての自覚を、本人にとって

86 個人の力で心の内面に意味づけられなければなりません。幼い年齢でこのような体験をくぐり抜けなけ への参加の証としてまわりから祝福を受けるのにたいして、性 の成熟は秘められた個 人的体験として、

ればならないことが、現代の身体の成熟にまつわるさまざまな問題を考える上で重要な部分をなしてい

るように思います。

るわけではありません。 る日突然自分の身体から出てきた大人のしるしを見て、子どもは驚きと恥の感情におそわれます。一応 の科学的知識は、事態を理解するための助けになりますが、知的な理解だけでとまどいや不安が解決す 初潮や精通体験は、知的に理解できる体験として以上に、情緒的な体験として心をゆさぶります。あ

この年齢では、このような身体の異変が、結婚・崖・ 子育てという社会的関係のなかで営まれる人

のかはっきりしない。事態の意味をどう了解したらいいのかわからないことが、心を不安にするのです。 あり、現実感は薄いのです。「今の 自分」にとって この身体の変化が何を意味し、どう価値づけられる 間的な愛と性の能力の誕生なのだという実感はほとんどありません。それらは、はるか未来の出来事で ました。Y子は聡明な少女で、生理についての知識はもっていましたし、合宿前にも母親からいろい たとえば、Y子は小学六年の春に野外子ども合宿に参加し、その途中で初潮を迎え、泣き出してしま

た時、

ろ注意をうけ、万一の準備もしてきていたのです。それでも、

泣き出さずにはいられなかったのです。幸い、指導員の女子学生が事態を察し、お祝いのことば

親から離れたところで現実に初潮を迎え

のだと感じられた時、子どもは自分の成長の意味を実感します。そして、同じ体験を共有する「同性」 上で、大きな意味をもっています。お父さん・お母さんも、かつて自分と同じ体験をくぐり抜けてきた じなのだと知ることで、心身の変化を安心して受けいれることができます。 身近にいる同性の大人や先輩・友人たちの役割は大切です。友人と秘密を打ち明け合い、皆も自分と同 人格的な意味で心に納得できた時、不安は成長することへの誇らしさのなかに解消されるのです。 なり残りの数日を楽しく過ごすことができたのです。性の成熟が科学的知識としてだけでなく、より全 また同性の親との心のつながりは、それらの体験を自然にしかも誇らしいものとして受けいれていく ・精通体験にかぎらず、性の成熟によって起こるさまざまな心のゆらめきを乗り越えていく上で、

とともに適切な処置をしてくれました。そして自らの初潮体験まで語ってくれたことで、Y子は元気に

87 ことに、戸惑いを感じます。そしてそのような 自分に罪悪感をもつと同時に、「果たして どういうこと 思春期の性を考えさせます。 版されています)のなかに描かれた、息子の性の芽生えをめぐる父と子の関係は、さわやかにいきいきと 五年生の純少年は、女性の身体に興味をひかれ、しかもオチンチンがムズムズするようになってきた

としての一体感や仲間意識を感じることで、安定感を得るのです。

そのような 意味で、数年前好評を博した テレビドラマ『北の国から』(倉本聡、理論社からシナリオが出

だ」と疑問を抱くのです。やがて敬愛する担任の涼子先生の胸元をみつめてしまった自分に気づくにお

88 できない自分は「頭がおかしくなった」と思うのです。 よんで、もはや救い難いような罪悪感におそわれます。そして、そのような心身の動きを律することの

そんなある冬の夜、純にとっては重大な秘密の象徴ともいえる友達からもらったポルノ雑誌を、父親

『ハイ』『どこが』『 それが』『――』『つまり――。何ちゅうか、――頭が 変に なってきており』……後 のです。 が無造作に「燃料」にしてしまうのを見て驚きます。そして、これまでの心配を打ち明ける決心をする 「『父さん。』『ん?』『――ゴメンナサイ』『何が』『ぼくは――このところ――病気なので』『病気?』 こんな風にして始まる 純の打ち明け話に、父親は「『病気じゃないよ。それはお前が 大人になった証

なくちゃな、お前も一人前に 働かなくちゃだめだぞ』」といわれ、それまで 後ろめたく恥ずべきものと に安心します。そして「『自然現象だ、威張ってりゃいい、いよいよ 大人になったンだ。一人前に 扱わ 拠だ、大人の 男はみんな そうだ』『父さんも?』『もちろんさ』」と応えます。純は、そのことばに大い

して感じていたことを、ごく自然に、大人になっていくことへの自覚と誇りとして感じることが出来る

かは、子どもを取り巻く人間関係の質を浮かび上らせるといえるかもしれません。非行を繰り返す少女 性の成熟にまつわる心のゆらめきを、誰に告げ、誰と共感し合って大人になることを受け入れていく

置されていることが感じられます。

親に生理があると嘘をつき通していました。

が多くみられます。

達のなかには、母親や身近な大人からの暖かい心くばりがないまま、初潮の体験をくぐり抜けてきた例

たとえば、家出・恐喝・暴力行為を繰り返した中学二年のA子の場合、家庭裁判所に呼び出された母

たシンナー・窃盗・家出を繰り返した中学三年のR子の場合は、実際の初潮より一年近くも前から、 親は、A子の生理がすでに始まっていることを知らなかったし、関心を示そうともしませんでした。ま

母

思春期のとまどいや不安にゆれうごく心を支えてくれるはずの暖かい人間関係がなく、孤独の中に放

男・女としての容姿と自己像

身体の成熟がもたらす心のゆらめきは、直接的な性の生理にまつわる面だけでありません。大人の外

観をもつ身体へと変化していく過程はまた、自分自身への関心が深まる過程でもあり ます。自分がどん

89

自分の容姿が、他者(とりわけ異性)にどう評価されるかは、と ても大きな問題です。自 分はどんなタ

とりわけ、変化する自分の身体に関心をもち、異性を意識しはじめるこの時期には、男・女としての

な人間かを模索しはじめた時、他者のまなざしのなかに映る自分はどんな自分なのか、そのことがとて

も気になります。

00 で、このような問いが心を悩ませます。女の子の場合は特にそうです。 イプの男性(女性)に見えるのか、どんなタイプの男性(女性)になりたいのか、自己像の模索の過程 しかし、身体は選択の余地を許してくれません。かすみ草のような風情の少女にと願っても、ひまわ

なかった劣等感と優越感、自己嫌悪と自己陶酔が交錯し、心がゆらめきます。 です。それは、あきらめとよりよく見える自分をつくる努力とが混り合った過程です。子ども時代には 合いをつけながら、与えられた 自分の身体を、「これが自分だ」と受け入れて いかなければならないの りのような印象の身体になるかもしれません。他者の目に映る自分の姿を模索し、自分の理想像と折り 般に、私達の文化では、髪型や服装など外観の印象は、その人らしさを表現する重要な役割を担っ

入れることができなくなっている時には、外観に無頓着になったり、服装や髪型が不調和になったりす の人の内面を徴妙に反映しています。心理臨床の場面では、基本的な情緒的安定感が崩れて自分を受け ています。そして外観への配慮の仕方は、自分をどれくらい肯定的に受け入れ愛せているかという、そ

の人らしい配慮が戻ってくるのです。 このように考えると、「これが自分だ」という安定した 自己意識や自己像を 模索している思春期・青

る場合が多いことは、よく知られています。情緒が安定し自分を取り戻し始めると、髪型や服装にもそ

別に恋しているのでなくても、外観にこだわるのはあたりまえといえます。あきもせず鏡に

向かったり髪型にこったりするのは、人目が気になるからであると同時に、自分にとっても好ましいも

とはいえ、突然これまでにないような過剰なこだわりが始まったり、極端な無頓着さを示し始める時 なんらかの不安定感のサインです。ほとんどの場合、まわりの人々に自分への配慮(干渉ではな

には、

作業が、大切な意味を担う時期なのです。

どものような身体を保とうとする拒食症は、その極端な場合だという見方もできるのです。

思春期・青年期は、大人へと脱皮するために、男・女としての自分らしい外観を整えて納得していく

く)を求める気持ちが表現されています。自分の身体が大人へと変化していくことにさえこだわり、子

性の秘密を知るということ

――性のめざめと人格の発達

▓「性的行為」への好奇心

性の成熟によっておこる身体の変化のなかで、最も悩ましくかつ避け難い誘惑力をもつのは、

91

す。先にみた 純少年にしても、「大人になった証拠」として納得できた 性的欲求と、どのようにつき合 性欲と具体的な性的行為にたいしてどんな価値意識を形成するかは、人格の発達にとって重要な問題で 求と性的行為に関する好奇心です。身体の成熟とは、本来生殖(受精に必要な性行動と妊娠・出産)を

性的欲

可能にするためのものと考えるならば、それは身体の成熟の本質的な結果といえるでしょう。そ れ故に、

													ç	92
題	ょ	好	み	あ	表	<u></u>	l 15	教育	「思	春期	への	メッ	b—\$!]
から	りに	好きでもない人とセ	み」として考える視	5	1. からだへの疑問を出しつくす (1時間)									
子ど	受け			あげられている	2. 赤ちゃん誕生の秘密 (1時間) 3. お母さんになる女の子のからだ									_
もか	とめ											(1時間)		
遠ざ	る。	う 人 える と 4. お父さんになる男の子のからだ(1時間)				
け	計 覚 ッ 点 え 5. 「セタック」って、私に: (2時間) は が ク は ま 6. 卵子をめざす精子の旅 (1時間) カ 共 ス ほ す 7. 愛って、何だろう (1時間)													
よう														
と庭														
心よ									_					
る	ます。	た	めり	جج	Ж	所) }	望月正	弘 [712	歳の性	太	32次郎	社.		
のです。	されます。そして大人達はそのような性にたいする感覚をおそれ、この問	ちゃったといった中学・高校生の体験を、驚くにたりない性の生態の	りません。女の体を快楽を売る商品として扱うことや、成り行きで	のふれ合いとしての 意味や、「命」の誕生にかかわる 神聖な「生の営	そこでは、性交はもっぱら身体の快感を得る営みとしてとり	また相手に強い快感を与える性交の技術を解説しています。	を刺激する記事や写真を満載し、性交体験の有無を取り沙汰し、	どころか、数多く出回っている思春期向けの性雑誌すら、性欲	性欲や性交についての知識を吸収します。大人の本の盗み読み	性に目覚めた子ども達の多くは、そのような文化のなかから	する文化が大手をふって街にあふれています。	として あつかわれます。しかしその 一方では、「劣情」を刺激	一般に、性欲は「劣情」などと表現され、いやしく醜いもの	っていくのかは、今後に残された課題なのです。

しかし、身体が成熟してきた子どもにとって、性欲や性交の問題は避けてとおれるはずがありません。

す。その意味では、 性欲や性交を「真に」理解することのなかに、大人として自立できる人格的な力を 身につける大切な契機の一つがあるともいえるのです。 この問題にどのような態度をとる自己を形成するかは、本来、大人になるための不可欠の中身だからで

た時期に、どのような形でこの問題と出会うかに深くかかわっています。この時期につくられた性にた 性欲や性交について知ることが、人格発達の契機として意義深いものになるかどうかは、性に目覚め

人格発達の契機としての「性」の理解

の反応は、多くのことを教えています(『12歳の性』太郎次郎社)。 いする感受性は、その後に大きな影響を与えます。 そのような意味で、望月正弘氏の「思春期へのメッセージ」と題された性教育の授業実践と子ども達

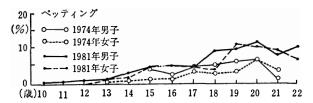
るわけにはいかない。いや、そのことをとおして、人間のすばらしさや人間らしいよろこび・悩みもお になってしまう。」「子どもと『ほんものの関係』をつくりたいわたしとしては、セックスを逃げてとお な構成の九時間の授業を生み出しています。 しえてみたい」という思いから性教育を 問い直しています。そして、小学六年生向けに 表Ⅲ−1のよう 望月氏は、「 〈性交〉 が欠落した 性教育の授業は、どうしても逃げの 授業になるし、ごまかしの授業

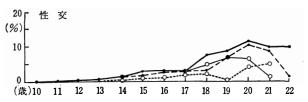
思春期のからだとこころ

1.で子どもの日常のなかにある「スケベでエッチ」な性への関心をはき出させた後、先生から子ども

93

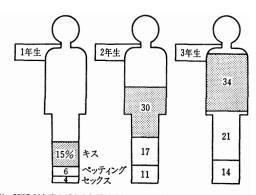
図Ⅲ-1 性的行動の初経験年齢分布





出所) 宮原忍「性的行動の発達, 初経験年齢分布を中心に」『現代性教育研究』 1982年2月号,

図Ⅲ-2 女子高校生の性行動の経験率



出所) 「昭和56年東京都青少年問題調査報告書」より。

でできなくて、本当に愛している人とするんだな、と思いました。」 そして、次の時間、性交後の「精子の旅」と 「卵子との結合の瞬間」をビデオで見た子ども達は、感

になり、い ろんなことを考えたり、経験したりするのだ、ということがわかりました。セックスは遊び

動をもって次のようにのべています。

「……三億分の一と 四百分の一から出てきた ラッキーなぼくだ「生れてからいままで」このことにす

うことを知っていただろうか─この不思議─いまはじめて わかったのだ……J 「ぼくは どうしてここに こしでも気づいただろうか。一人でも気づいただろうか。ぼくは死んでいった精子・卵子の代表だとい いるのだろう ぼくは この授業をやる前は そんなことをぜんぜん思わなかった いまは

ほんとう

95

96

いくと りっぱな大人になれるような気がする だって すばらしいこと すばらしい話

いのちが もったいなく感じてたまらない。……」「……いま(信じられないものを見た

このまま

あの授業のあとでは、あんまりそのことを言わなくなったことが思い出されます。」

性や性交についての人格に触れるような深い知的体験は、性への感 受性に大きな影響を与えます。も

思春期の人格発達の大切な契機の一つになりうることを感じさせます。「いたずらでエッチな男の子が、

この授業の思い出として中学生がのべている次のようなことばにも、性や性交を「真に」知ることが、

密を知ることで自分の存在そのものにまで思いを深めることもなかったでしょう。

ども達は問題をこれほど自分に引き寄せてとらえることはできなかったと思われます。それ故、性の秘

性交についての具体的な話がなく、精子と卵子の結合の生理学的説明を聞くだけの授業であれば、子

の意味さえ考えています。

そ、父や母や祖父母に似た自分が今ここにあることを知った子ども達、そして自分の「性」もそのよう

男と女の、したがって父と母の性交によってそれぞれの遺伝子をもつ精子と卵子が結合し、だからこ

な命の誕生を担ったものなのだと知った子ども達は、深く感動し、性の問題を越えて「命」や「自分」

ものを見たのだから 子孫をつくるというだいじなこと 気どっちゃうみたいだなあ……」

セックスと愛

土台があってこそ、はじめてその人間的な意味を理解することができるのだといえます。 人間の性行動を「生殖の論理」から解放している「避妊」や \equiv 性と人間関係

的な行動を方向づける上で、貴重な指針になるといえます。

子育てを共にでき ない相手に性愛を感じて悩んだりすることもなくなる、というわけではないでしょう。

ちろんそのような体験さえあれば、その後の人生で動物的な後ろめたい性の衝動に悩まされる ことも、

成熟した身体をもつ男・女として生きていく過程では、さまざまな愛と性の葛藤に出会うでしょう。し

かしそのような時、思春期に性についてどのような知識と感受性を培ったかが、葛藤を乗り越える具体

「中絶」の意義も、そのような感受性の

です。 経験年齢が早くなっています。特に女子において目立ちます。 別の調査では、 高校三年生の性交経験率は男子二二%、 女子一二%(都内の公・私立高校生二四 図Ⅲ−2は 女子高校生の性行動の経験率

Ⅲ−1は性行動の初経験年齢分布です。一九七四年から 一九八一年の間に、全ての 項目にお

いて初

97

図

性交の初体験年齢は、年々低年齢化しています。

▒「聖」と「汚」のあいだで

○○名対象。東京都高等学校性教育研究会、一九八四年)となっています。

もあります。しかしいずれにしても「相手(他者)との関係」の中で営まれるものです。それゆえ、 性交は単なる性欲解消のための行為でもあり得るし、男女の愛の極限の表現としての意味を担うこと

かわりをもつ相手とどのような人間関係をつくっているかが、人格形成の上では大きな問題になります。 ところで性的欲求に目覚める時期は、 同時に「人恋いそめし初め」の時期でもあります。性的衝動が

のうずき」と「聖なる魂のときめき」とでもいうべき分離された感情体験です。 後者はやさしく生真面目で、清らかな情緒に彩られます。それはいわば、異性にたいする「汚された肉 そして多くの場合、前者がどこか後ろめたく投げやりな、汚された情緒に彩られがちなのにたいして、 いわば「身体のレベルでの異性の発見」であるとしたら、初恋は「心のレベルでの異性の発見」です。 異性を求める「聖」と「汚」の両極をなす思いがどのように統合されて「愛」の意味を形成するかは、

的な性衝動は、人間的な「恋」の感情のなかで相手をいつくしむ思いへと昇華されます。しかしそのよ 緒に伴うせつない願いは、やがて相手とより深く一体化したいという思いになります。そこでは、動物 うな場合でも、「恋は盲目」といわれるように、必ずしも 深い人格的な出会いが 実現するとは限らない そして好きだからいっしょにいたい、少しでも近くにいたい、相手にふれてみたいという、「聖」なる情 人格発達上の大きな課題です。たとえば恋の情は、わけなど説明できないまま心を占拠してしまいます。

のです。「性」の問題は、男と女のあいだの「愛」にさまざまな人格発達上の課題をかかえこませます。

ところで、恋の感情のなかに昇華されるにしろそうでないにしろ、性的な関係は人と人との出会いで

そのようなコントロールを支える自覚的な価値観・社会的な責任観や人間観などの問題がかかわってき す。そこにはどのような人間関係を築き上げ、どのような責任を担い合えるかといった、広く人間関係 般に求められる人格的能力や、即時的・瞬間的な快への衝動をコントロールする主体的な自我の力、

るのです。 相手を思いやる「聖」なる感情は、容易に身体的な「快の感覚」に解消されてしまう危険性をもってい 以上に、相互の関係を自らの責任において引き受けていかなければなりません。それが回避される時、 ます。性的な関係は、身体的な快を共有する当事者間のプライベートな関係であるがゆえに、 他の関係

といった性交そのものの可否論の陰にかすんでしまう傾向があります。 に含んだ関係です。そのため人格的な発達の問題は、 セ ックスを間にはさんだ人間関係は、甘美な「愛」の情緒と、 「愛さえあれば……」「妊娠さえしなければ……」 妊娠という動物としての必然性を同時

は、ひわいな情緒に解消されたり、逆に一方的な倫理観・義務感だけが強調される傾向も強いのです。 性をめぐる人間関係や愛と性の問題は、大人にとってもむずかしいものです。大人になっても、性を

置します。そのため、その接点に「命」への深い尊敬の情と「愛」の質を考える視点が存在しない時に

性欲の問題と妊娠―出産―子育てという人間的な「責任」の問題との接点に位

また性交そのものは、

100 を露呈してしまうことは少なくありません。思春期・青年期にこの問題を巡って悩み、迷い、時には失

めぐる異性への「聖」と「汚」の感覚をうまく統合できないままでいたり、性にからんで人格的な弱さ

敗するのは当然といえるかもしれません。それだからこそ、人格発達の契機としての意味も大きいとい

ところで、現代の性と人間関係を考える上で興味深い調査があります。東京都生活文化局が一九八一 🧱 心の渇きと性的行為への傾斜

学校での人間関係に恵まれていない。家族から愛されていると思わない、先生や親を殴りたい・家出し 精神疲労・自己顕示傾向が高いのです。日常の人間関係においては、異性を含め友人は多いが、家族 この調査によると、高校生でペッティングや性交の体験者は、未体験者に比べると、心理特性として

年に実施した「大都市高校生の性をめぐる意識と行動」です。

れます。すなわち日常生活は、一般に精神疲労の背後に指摘される、生活単調感や精神消耗感が強く、 このような結果は、高校生の性交体験の背後にある生活や人間関係を浮かび上らせているように思わ

たいと思ったことがある、などの傾向が強いようです。

傾向の強さは、そのような生活へのいらだちや、自分を認められ愛されたい思いの表現とも考えられま また高校生としての自分を支える生活場面(学校や家)での安定した暖かい人間関係がない。自己顕示

められているという実感をもつことができます。そして、肌の触れ合いは、一瞬にしろさみしさを癒し クスをあいだにはさめば、相手との間に人格的な触れ合いがなくても、とりあえずは、相互に求め・求 性行動への傾斜も、ある面では同じ.ような気持ちのあらわれであると考えられます。なぜならセッ

てくれるからです。

うに感じたとしても、無理は ないのかもしれません。「彼が かわいそうだったから、あげちゃった」と いう少女や、自らすすんで身体を「提供」し、相手の性欲を満たすことに満足を感じるという少女達の の体」を目的としているにしろ、ちやほやし自分を求めてくれる関係を、かけがえのない人間関係のよ 愛に飢え、まわりから評価されたり尊重されたりする体験を あまりもたない少女達が、「成熟した 女

場合でも、それによって自分の存在価値を確認している点では、心理的な本質はあまり変わらないよう に性欲の営みに身をゆだねていくのです。 に思われます。性の生理についての深い知識がない時、そのような心理的状況のなかで、少女達は簡単 個としての自立を実現していない幼い性は、相手とのあいだに深い人格的な共感や思いやりを育て、

としてはやりの性風俗のようにいわれる既婚者の婚外性交の場合も、その背後に、個人として尊重され しかし、心 の渇きが性行動の 引き金になるのは、 低年齢の セックスばかりとはいえません。 「不倫」

そのことによって互いの人格の成長を支え合うことは、とてもむずかしいのです。

101

幼い頃のようには母親を求めない子ども、仕事に追われ妻の人間としての悩みや喜びに心を傾けるこ

る充実感ある生活を渇望する気持が横たわっている場合が少なくありません。

TO2

とを忘れた夫、ちゃんとやれているのが 当たり前としか 評価されない 家事。そういう 生活のなかで、

「女の性」が目的であれ、自分が個人として求められている実感が欲しかったという妻達の「不倫」の動

りません。また性行為には、それ自体の必然と責任があります。快を実 現する営みとして、愛 の表現と とめての「浮気」も、事情はあまり変わらない場合が多いといえるでしょう。 生にたいする責任の甘さとが、混在しています。家族への責任や仕事に疲れた夫達の、心を癒す場をも 機。そこには、少女達の場合と同様、充実した生きがいのある生活を求める人間的な願いと、自分の人 しかし性交をもつ関係が、必ずしもそのような心の渇きを、本質的な意味で癒してくれるわけではあ

して、「命」の誕生の営みとしてなど、人生のなかで 他のものに置き換えることのできない 大切な意味 それゆえ、心の渇きの代償としての性行為は、自分の現実から目をそむけず人生を充実させていこう

じ込める結果を招くともいえるのです。 とする努力を回避させるだけでなく、代償であるがゆえに、性行為を快楽の手段としての低い位置に封

らず、女は結婚したら仕事をやめるべきだという保守的な性役割意識をもっているという結果は、現代 その意味で、先述の東京都の調査で、性交体験のある高校生が、開放的な性意識や性行動にもかかわ

「性の解放」をめぐる問題に貴重な問いを投げかけています。

▒「性の解放」と「人格の自立」の課題

大人達も、自らの愛と性と人生を、若い世代といっしょに、真剣に考えなければならない時を迎えてい 放」と「人格の自立」を実現する方向に出口をみつけるための試行錯誤の時代といえるかもしれません。 どうか、真剣に 問われている 時代です。性をめぐる さまざまな 悩みや問題が、真の意味での「性の解

現代は、「性の解放」が単なる「性欲の解放」ではなく、より豊かな 愛と人間性の 解放につながるか

く考えさせてくれた、ある登校拒否の中学生の母親のことばを記しておきたいと思います。 最後に、互いの人生に責任をもち、互いを思いやる男女の愛の営みとしてのセックスとは何かを深

えない無神経さが耐えられない」というのでした。 ては、「子どもがこんな時にセックスなんて。とてもその気になれないし、私がどんな気でいるかも考 感受性の違いに失望し、一時は離婚を考えるまでに追い詰められます。そのなかには、セックスにたい する夫との感じ方の違いも含まれていました。子どものことで心身ともに極限の状態にいる母親にとっ その後この母親は、子どもの問題を通して自分自身を深く見つめ、何度も夫婦のあいだで話し合いを 治療面接を拒んだ本人にかわって、二年余り面接に通い続けたこの母親は、夫婦のあいだの考え方や

そのようななかで、夫婦間にもこれまでになかった相互の理解が生まれてきます。 する努力をします。その真剣さ謙虚さは、治療者として寄り添う私にも頭が下がるほどのものでしたが、

年余りが経った時、この母親は回復した夫婦セックスを 次のように表現しています。

たのかと、男と女にはこういうふれ合い方もあったのかと、愛のもつ、理屈で割り切れない何かが、少 いいかことばになりませんが、深い精神的な感覚でした。セックスというものはこういうものでもあっ 中で感じたのは、一人で思いつめていた心の中のかたまりがとけて癒されていくような、何といったら いの心の救いになることもあるのではないか』といった時、何かハッとしたんです。その後セックスの 感じがしていた。そうしか思えなかった。だけど主人が『こういう時だからこそ、そういう関係がお互 「私はとんでもないこと だと思っていた。こんな時に 不真面目というか、精神的なものを 汚すような

しわかったような気がします。」



とで、男の子が夜、

時は、ほんとうにまったく他人事というか自分自身には関係のないことだと思ったし、話しの内容もさ っぱりわからなかった。 中学になって初めて生理についての仕組みや、どうして赤ちゃんが生まれるのかということを友達に

識ばかりでふくれあがった頭からしか出てこない言葉だな、と今になってわかる。いかに女性の人格を いるのを聞いてとても嫌な気がしたのを覚えている。やはり、 ちゃんとした知識をうけず、

坂 上 佳 子 リポート (3)

「思春期のからだとこころ」を読んで

教育は、"性教育"という名目でうけたことはなかったような気がする。小学校四、五年生の頃、

の子だけが集められて生理についてのパンフレットを渡されて説明をうけたことは覚えているが、その

じで受け取ってしまった。中学生くらいになると男の子も女の子も色気づいて、修学旅行から帰ったあ 聞いた。その友人も知識は『平凡』とか『明星』とかいう 雑誌から 得ていたので、「エッチ」という感

男の子の部屋に行った女の子達の話をするのに「体だけくればいいのに」と話 本からの知

106 男か、イヤラしい」と嫌になった気分のハッキリしたところが、ほんの最近になってわかった。 正直言 って、中学時代から高校の最初の頃はきちんとした事も教わらず、その頃出まわり始めたローティーン

無視した言葉であるか、その時は単に「なんだ、自分のことはタナにあげて、そんなこと言えるような

もを生むためには、結婚をして、お かしな 話だが、「つくろう」という意志を 持っている時にだけ出き 向けの雑誌から得た知識や、たまに親の読んでいる週刊誌を友達が持ってきてみんなで読んだので、性 は単なる快感を得るためのもので、生命の誕生とつながるなんて思ってもみなかった。だいたい、子ど

言葉を聞いた時にはすごくイヤらしく思ったし、自分の親も、と思った時にはほんとうに吐き気がする

高校三年の家庭科の保育の授業で初めてきちんとしたというか、ある程度正しい知識を身につけた頃

て、その時だけで、性行為は 終わるのだと 思っていた くらいだ。だから"人間は 年中発情期』という

くらい嫌になった。

か中学時代に見ておけば、私達の時代のように歪んだ知識を与えられてもはねかえす力ができるな、と て撮影したもので、*赤ちゃん*と いうものを 媒体としていたためかとても 感動したし、これは小学生 "生命の誕生"とかいうビデオを見た。それは、とにかく 射精から出産まで女性の 子宮にカメラを入れ

思った。私達のように、思春期に興味本位の知識をもつとなかなか考え方も変わらない。テレビだって あの頃は、どんな番組でもきわどい言葉やシーンがあった。最近になって多少減ったような感じではあ

るが、それでも時々、お昼のバラエティー番組でもああだこうだと慎みもなくしゃべっている。そう隠

Sさん初め

てお便りします。本文「思春期のからだとこころ」と、あなたの書かれた感想文を読ん

思春期のからだとこころ | ロメント (3) 見知らぬあなた "Sさんへ" | 稲垣 陽子

てほしいし、教えたいと思います。

ています。私達のようにならないように学校でも家庭でも、国語や算数を学ぶように今からの教育をし

(山口芸術短期大学人文コース)

けではらせないうっぷんを押しつけられていたというように感じます。私達はその大人の立場に近づい でありましょう。大人が大人向けに創るものは、多くの制約があるために子どもを狙ったなかで大人向 端な知識を植えつけられてしまった今の世代の若い人は被害者であり、 け家族がシーンとしてしまってよけい困ります。いちばん影響力の強いテレビや雑誌によって、妙な半 しだてする こともありませんが、あまりはっきりと言われるとそれまで大声で笑えていたのに、そこだ 加害者はそれを創っていた大人

108 でいくうちに、過ぎ去った私の思春期も懐かしく思い出されてきました。というのもあなたの一文に、 わたしたちの頃と何ら変わらないものを確認して安心したのです。性にたいする好奇心と若い女性なら

ではの潔癖感、そしてモラルの健在。

認知レベルでやはり一歩も二歩も進んだ青年期でしょう。また、テレビ・雑誌などマスコミの流す、性 春期やせ症の増加がみられます。これは、いたずらな早熟化への警鐘なのでし ょうか? 情報の影響ももろに受けているのですね。 しています。が一方で、おんなとしての性的成熟を拒否するという深層心理をもつ、食行動の異常や思 かで、性の科学的知識をきちんと与えられ、「生命の誕生」のビデオを感動して受けとめたあなた方は、 本文にも書かれているように、わが国の少年少女の性的成熟は前傾化し、性体験や性非行も低年齢化 もちろん、性教育らしきものを受けた記憶がほとんどない私の世代からみれば、家庭科教育などのな

実は現代の女子青年に共通の心性をテーマにしているように思われます。ほとんど が途中で強迫的ダイ つつフィギュアスケート選手でもある女子大生を描いたこの作品は、やせ症の症例報告であるようで、

ところで、『スケーターワルツ』(一九八七年)という加賀乙彦の小説を御存知ですか。心理学を専攻し

拒食症という語も市民権を得てきました。「空気の精」にあこがれる エレン・ウェストの 症例や『ゴー ルデン・ケージ』(ブルック、一九七八年)に示される、重篤な精神障害としてのやせ症も、物質文明の繁 エットに挫折するとはいえ、十代、二十代の女性のうち半数以上が、やせ願望をもっているといいます。

さから、何人かに自分の初潮に ついて語り合ってもらったことがあります。おんな十八歳、肉体的成熟 達だろうと思います。 時には批判的に自らの判断で取捨選択できたのでしょう。そうした力をはぐくむのは、児童期までの発 熟さから抜け出すこともできず、苦しむ者がいます。あなたはきっと、情報に押し流されることなく、 、の道をたどる少年少女たち。早熟でいちはやく適応する者がいる一方で、性同一性の混乱や情緒の未 ・し遅れましたが、私は短大保育科で心理学を担当する者です。ある時、女子学生ばかりである気安 い意味でも悪い意味でも、 情報が豊かで性的刺激の多い現代日本のどこかで、思春期を迎えおとな

109 があります。 ふれる涙なのでしょう。 に一歩足を踏み入れた不安、 に記憶しています。一人前の女となった喜びがあるはずなのに、 どの感想以外に、「涙とともに味わったお赤飯」といった ニュアンスの表現をした学生が 多かったよう 思春期の性にまつわる、こうした情緒的体験を十分味わうことが、個人レベルでも、親子や友人仲間 表裏もなくあっけらかんと過ごしてきた子ども時代の幕が下ろされた悲しみ、 生々しい秘密をもったことのうしろめたさ、などがごちゃまぜになってあ なぜか泣けてくる気持ちは私にも覚え

未知の世界

せず、割にすらすらと自らの生理を話してくれました。「人の目が気になった」「うっとおしかった」な と心理的な安定が感じられ、匂りような美しさに輝きが増してくる頃です。彼女たちは恥ずかしがりも

T TO

かもしれませんが。 などを、てっとり早く知的に解決しようとしたり、よけいなものとして無視するのは、むしろ本人にと との共感といったレベルでも、非常に大切ではないかと考えます。性的成熟に伴り不安や苦悩、 ってマイナスでしょう。今の中学・高校生にはゆっくり悩んだり情緒を味わう時間はない、と言われる

代となって同じ作者の小説『くれなゐ』(一九八二年)を読みました。この作品で、著者の 女性にたい す も性的存在と見なしすぎ、人格を無視しているようで、当時の私は反発を覚えました。ところが、三十 床医としての体験と恋愛とから編み出された、まったくユニークな女性論なのですが、女性をあまりに る深い洞察と愛情を、そして性が人間存在にとって如何に重要かを、あらためて認識させられたのです。 そのヒロイン冬子は、二八歳の帽子デザイナー、妻子ある中年男性との不倫のなかで、子宮筋腫とな 話は変わりますが、学生時代、図書館で『解剖学的女性論』なるものを発見しました。渡辺淳一の臨

を与えていくものですね。そんな思いがあなたにも伝わったでしょうか?
それではまた。

のあり方もまた、人の命の輝きに他ならないのです。思春期に始まる性的成熟は心と体にさまざまの形 姿に、むしろ強い精神性を感じ、さわやかな読後感を覚えました。生命誕生には結びつかないこんな性 きる喜びを見い出すのです。絶望の淵から、鶏頭の花のような紅に燃える、性の喜びを取り戻す冬子の り子宮を失います。生物学的女性性の喪失、同性愛、強姦などの性の危機を克服し、再び仕事と愛に生

نکہ

池

ほんとうの勉強を求めて

退屈な授業と勉強

は少ないでしょう (私自身も 残念ながらありませんでした)。むしろ、学校での 勉強はいやなもので、 すか。勉強を通じて生き方や考え方を学んだことがありますか。おそらくそういう幸運な経験をした人 あなたはこれまでの学校生活のなかで、勉強や学習はほんとうに楽しいものだと思ったことがありま

できれば避けて通りたいものだったのではないでしょうか。

くてもどんどん先に進んでいってしまいます。しかもその内容の多くは実生活からかけ離れており、人 調査』『国民教育』 六四号)、 授業は自分たちの 興味・関心を 深めるものではないし、わかってもわからな 実際、今日の多くの中・高校生にとって(国民教育研究所「中・高校生の学習と生活、進路選択に関する意識

間的成長に役立つものではありません。だから何のために勉強するのかわからないのです。このような

けの受験勉強なんてナンセンスだと思い知っているのです。もしこんな「退屈な授業が俺達の全てだと 授業の日常性のなかで、多くの中・高生は勉強とは所詮つまらないものであり、知識をただつめ込むだ

校・教師に鋭い批判をもっていました。次の文は死の直前に書かれた「抗議文」です。

自ら死を選んだ 尾山奈々さん(当時一五歳)も その一 人でした。彼女は受 験勉強とそれを 推進する学

かったということを書くでしょう。教師なんて信用できません!(あの人達が教えてくれるのはテス

「私が中学生をやっていて、という感想文を 書くとしたら、教師には不信感しか 持つことができな

トの点のとりかたや、本音と建前の使いわけくらいです。そのあまりにも大きい生徒への影響力を考

何と言われようと決して変えません。そして生徒が私のようなアホばかりなので、自分が偉いと思い

持っているものは、人をはかるための巨大なものさし。そしてそれはどんなに古くなっても、

えずに行動することも良くあります。

強があるはずだと、ほんとうの勉強を同時に捜し求めてもいます。

しかしそれでも、今やっているものとは違った本物の勉強があるはずだ、自分の成長のためになる勉

いうならば、なんてちっぽけで、なんて 意味のない、なんて無力な、15の夜」(尾崎豊「15の夜」)なんだ

と思わず叫ばざるをえません。

ほんとうの勉強を求めて

こうした批判をもっていたがゆえに、彼女は「ふつーの勉強の仕方がわからなくて悲しいです」と、 込んでしまっているのです。そのような人々に評価され、それが一生にもかかわるなんて、とても悲 しい。」(尾山奈々著・保坂展人編『花を飾ってくださるのなら』講談社、一九八六年、三〇ペー ジ)

『生活記録』のなかで教師に訴えてもいたのです。しかし学校はそれに応えてくれませんでした。 この尾山奈々さんの死に象徴されるように、今の子どもたちは、無言の圧倒的な力で押しつけられて

くる学校の勉強を否定したいが否定し切れないジレンマのなかで、真の勉強をあがき求め苦しんでいる

といってよいのではないでしょうか。

学校知と「学力」 ――学校で得たもの・奪われたもの

では、こ のような苦しみを与える学校とはいったい何なのでしょうか。そして、あなたが学校で勉強

は何だったのでしょうか。 かで得る知識とは異なった特異な性格をもっているからです)。 また、そのなかで 学校で 得てきたもの か(ここでことさら学校知という言葉を使うのは、学校で得る知識があとで述べるように日常生活のな し獲得してきた知識(学校知)や評価されてきた「学力」というものはどういうものだったのでしょう

113

生活知と異なる学校知

もつ一面性や誤りを克服して、それを客観的なものに仕上げていくという特徴をもっています。例えば、 で教えられる科学的概念は、日常的な生活のなかであなたが経験的に身につける概念(生活的概念)の まず学校知からみていけば、それは第一に日常的な生活知とは違った性質のものです。たしかに学校

陽を周っている」と客観的に教えるわけです。しかし、こうした科学的概念が学校知として教えられる 日常的な生活経験のなかであなたには「太陽が地球を周っている」と見えることを、学校は「地球が太

往々にしてあなたが日常生活で得てくる豊かなイメージや気づきが無視されて、ただ「地球が

な苦闘の下でかちとられたのかなどということは教えられません。 な体験として現われるのか、それが科学の進歩上で果たした役割は何であったのか、地動説はどのよう 概念が今一度生活的概念と付き合わせられることなく教えられるのです。ここではなぜ天動説が日常的 太陽を周っている」という知識だけが近代科学の成果として与えられがちになります。つまり、 科学的

際には、

◎知識の集積としての学校知

として与えられた知識をただ暗記したり記憶したりさえすればよいのです。これが学校知の第二の特徴 か」という問いにたいしてのみ答えられるようなものにしかならなくなります。そこでは、事実や結果 そうなるとそこで教えられる 知識は、「太陽が地球を 周っているのですか、それともその逆なのです

学習のあり方の下では、知識を与えてくれるのはいつも大人である権威をもった教師ですから、 長しているのが、文部省の学習指導要領に沿ったカリキュラム計画と教育内容です。そこでは、多くの 教師(大人)依存の学習観がつくられてきます。教師や大人によって教えてもらわなければ何も学べな 言うことを疑わずに素直に聞き、教師の言うとおりにすればよいということになってきます。こうして 知識が個々の子どもの理解と成長の段階に関係なく詰め込まれていくからです。しかもこのような知や です。ここではただ多くの知識や事柄を覚えることが学ぶことなのです。こうした考え方を生み出し助 教師の

性があります。人々が日々の営みのなかで獲得してきたもののなかには一面的なものばかりではなく、 活的概念は一面的で価値の低いものだという考え、科学が万能だという「科学信仰」が助長される危険

:ئ

学

ところで、学校で生活と切り離されて科学的概念が教えられてくると、

科学的概念のみが正しくて生

▓ テクニックとしての学校知

くなるのです。

115 自然のなかで自然と共生していくすぐれた知恵もあるのに、それがまったく否定されて、自然を収奪し 支配していく ために、自然を解剖し分解していくという 実験室のなかでの科学観が再生産されがちだと いうことです。そこでは、実験室という特殊な装置のなかで得られ、そこでのみ通用する自然のほんのい。(2) 部の法則を、自然との豊かで多様な結びつきをもっている生活のなかへ相対化させて、科学の成果を

116 再検討するといった手続きはなされず、ただ自然を人間の道具としてのみみていくことになります。こ

こに学校知の第三の特徴がでてきます。学校で 学ぶ知の多くが、「テクニカルな知」という性質を 帯び

てくるということです。自然科学で知識が自然を支配するための道具ないし手段として教えられていく

その結果、「あるテスト問題が与えられたらそれを速やかに 型分けし、その型分けに従って 一定の手順 で(機械的に)解いていく」(波多野誼余夫・稲垣佳世子『知力と学力』岩波書店、一四三ページ)ような テク と同時に、知識とはそもそもそうしたテクニカルなものなのだという見方も教え込まれていくのです。 ックを学ぶことが勉強なのだという考えが子どもに形成されてきます。

はほとんど教えられないという点を指摘しておきましょう。例えば、社会科ではアイ 邑 族や在日朝鮮 最後に学校で学ばされる知の特徴として、現実や理論どりしがもっている対立や矛盾が教科のなかで

▓対立・矛盾のない学校知

むしろ、そこで教えられるのは、主として分業と協業の体制であり、そこから「みんな助け合って仲良 人の問題はほとんど取り上げられず、「日本人」が彼らに強いた苦難の歴史は教えられていないのです。

け認識能力)が一般的に「学力」といわれています(例えば『岩波教育小辞典』参照)。では、あなたがこ くしよう」という日本型「集団主義」的思想が学ばされることにもなります。(3) ところで、以上のような性質をもつ学校知を計画的に組織された学習を通じて獲得した能力(とりわ

それは、ほんとうにあなたのもっている能力全体を明らかにしていたのでしょうか。 れまで学力があるとかないとかで一喜一憂してきた「学力」にはどのような限定があるのでしょうか。

燚 テストのからくり

る授業の手だてを 探すためというよりもむしろ、『学習指導要領』に基づく 相対評価を子ども たちのあ るわけです。次にテストそのものは、子どもたちが習ったことのどこがわかっていないかを知り、わか 限定があります。はじめから、「客観的」に計測されえない 能力・計数化しがたい 能力が排除されてい あります。まず、テストでは、「客観的」に計測できるような問題や 教科が テスト材料とされるという まず第一に、「学力」を評価するために 必要と されているテストそのものに、 いくつものからくりが

第4章 117 ば、テスト問題で教師がどのような答を期待しているかを知ること、わかってもわからなくても教師が教 す。ふつう何かわからなかったら他人に聞いたり相談したりしながら、ヒントを得たりわかり合ったり などを素直にすればよいからです。しかもテストでは友だちと協力せずに一人で解くことが要求されま えた方法で教えたとおりに解くこと、教師の言うことや教科書に書いてあることを無条件に覚えること くるように問題が作られます。 いだにつけるために行われることが多いという問題があります。そこでは、必ずへできない〉子が出て また、テストで点が取れることと能力があることとは必ずしも一致しません。良い点を取ろうとすれ

118 び合うことのない閉ざされたものとなり、極端な場合には他人を敵視し、け落とすものとすらなります。 ちの能力が評価されるわけです。知と「学力」がこうして作り出されてくるとすれば、それは他人と結 するのですが、テスト場面では こうした日常での共同が 否定されます。「非日常的な」場面で子どもた

| レ・ラル貼りのも

れるか」ということになります。いずれにせよ、テストによって子どもたちの能力と学ぶ意欲がそがれ しまうのです。また、テストの 否定的本質に気づけば、「そんなテストのための 勉強なんかやっていら る気をなくしてしまいます。こうして子どもたちは、いつしか「レッテル貼り」された自分を実現して れてしまいます。そして〈できる〉子はますますテスト勉強に精を出し、〈できない〉子はますますや あるいはその逆の「レッテル貼り」が行われると、いつのまにかそれが自分の能力なのだと思い込まさ テストにはこのような限定があるにもかかわらず、日々『テストができない=能力がないという』、

⋙能力そのものとはいえない「学力」

どもの能力そのものだとはとても言えないことは明らかでしょう。それは、子どもの限られた一部の能 これまで述べてきたような限定を受けて学校で評価されたものが「学力」であるとすれば、それが子

らして、近代のヨーロッパや日本でのみ通用するような、悟性や理性と言った認識能力をその中核とし いう特殊な場面で測られたものでしかないのです。(5) 小評価されがちです。だから「学力」といってもそれは、人間の諸能力の一部がしかも学校とテストと ていますから、そこでは感応-表現能力や共感能力、欲求能力などは認識能力より低次なものとして過 (計測しうる能力)が、外的な尺度によって評価されたものなのです。しかも「学力」はその定義か

このような、学校知と「学力」を獲得させる学校の勉強であなたが身につけたものはいったい何だっ ~学校で得たもの・奪われたもの

たいことを自主的に学ぶことを奪われ、教師が教えることをただ学べばよいという態度を身につけてし 頼るのがよいことだと、子どもたちは教えられる」(E・ライマー『学校は死んでいる』晶文社、 まいます。「何をいつ、どこで、どういう 風に 学ぶかは 他人が決める ことで、学習に ついては 他人に たのでしょうか。その最たるものは他律的な学習態度と学習観です。学校では、あらかじめ答を知って いる教師の言ったことをそのまま覚えることが日常的に要求されるなかで、子どもたちは自分の探求し 一九八五年

٤:

119 第4章 四七ページ)のです。その結果、 のために勉強させられているという感じや、勉強はつまらないが「将来」のために仕方なくやっている 、この他律的な学習観は、テストによる外的評価のなかで形成されてくるのですから、つねにテスト 誰かに 教えてもらわなければ 学べないと 思い込んでしまいます。

く傾向性です。教師が説明すると、つい「あっそーか」と言ってわかったふりをしてしまうのです。 もダメなんだ」というわけです。三つ目はわからなくてもわかったふりをしてその場をやり過ごしてい 定的な体験をさせられると、他のどんなことにも 自信を失ってしまうのです。 「どうせ 俺なんかやって です。もら一つは、「習得された無力感」の形成です。一 度自分が へできない=能力がない〉 といら決 つけること です。他 人とのあいだにちょっとした点数や順位の違いをつけることに学びがいを見出すの てくるように思います。一つは、外的評価による他人との比較や差異のなかに、自らの学習の喜びを見 こうした学習意欲の低下の下で外的評価がさらに行われ続け、そのながで 、三つの傾向性がつくられ

す。最初にみた意識調査によれば、日本が戦争にまきこまれることや核戦争による人類の破滅というこ 界をめぐる社会的危機があなたたちの生きることや学ぶことに暗い影を投げ落としているということで とにたいして、多くの中・高校生が不安を抱いています。社会の先行きに不安をもっているのです。と

最後に今日の学ぶ意欲の喪失の重要な要因として、次の点を指摘せざるをえません。今日の日本と世

で生きるめあてと意欲を奪われているとともに、学校のなかでも学ぶ意欲を奪われているのです。 い現在主義的な考え方が生まれてくるのも当然です。今日、子どもたちは、社会の見通しのなさのなか

すれば、将来にめあてをもって 生きるよりも、「今のうちに エンジョイしておかなくっちゃ」という強

消費・情報文化のなかでの学び方

学校の外に 一歩出るや否や、あなたや 友達は『ポパイ』『ホットドッグ・プレス』『ブルータス』『オ

情報消費活動という学習

;ځ **らか。結婚にかんしても「アルトマン・システム」や「グリーン・ファミリー」といったコンピュータ** って、人並みの生活やドジをせずに女の子や男の子と付き合う法を学んだりしているのではないでしょ なファッションでどう 週末を遊ぶかを 考えたり、『見栄講座』や『大学生ひとなみ講座』という本を買 リーブ』などのカタログ情報誌や、『ピア』『アングル』といったタウンプレイ情報誌を買い込み、どん

第4章 です。そして、こうした学習こそ「自己目的としての教育」であり、二一世紀の高度情報化社会(ソフ ています。学習とは「情報・サービスを購入して自分の情報ストックを豊かにする活動」だというわけ こうした消費・情報文化における学習のあり方をさして、学習とは「情報消費活動」だとさえ言われ

情報による紹介業を利用する人もいるそうです。

研究会報告書『ソフト化社会の家庭・文化・教育』大蔵省印刷局)。しかし、こうした情報消費活動としての学

ト化社会)における生涯学習のあり方そのものだ、と謳われています(ソフトノミックス・フォローアップ

習を手離しで積極的なものとして評価してよいのでょう(か。ここでは、こうした情報とその学習がど

のような限定をもっているかを考えてみましょう。

というわけです。たしかにコレは自分がカタログ情報誌からいろいろな情報を得て、そのなかで一番良 の商品を自主的に 選択していると 思っているでしょう。 「コレ、ここがいいんだぜ。 買う商品を決めるさい、あなたは同じような商品についてさまざまな情報を得て、そのなかから一つ コレっしかない」

その一つは「買いにくさが客を魅く」という戦略です。例えば、駅から一〇分も歩かねばならない街

います。しかし、今日の高度な消費社会では、人々のニーズをつかむ企業の消費戦略として例えば三つ いと思ったから選んだのでしょう。その意味でその行為は他者追随ではなく、一定の自主性に基づいて

の方向がとられています。

を味わわせるという工夫。二つめは「客ひとりひとりを主役に 仕立てあげる 工夫」。ここでは、発売情 はずれに入りにくそうな店を作り、客になんとなくわざわざ歩いてきた「自分のための店」という感じ

報をごくかぎられた人にだけ伝えることで「他人がもっていないモノをいち早く手に入れる」という快

三つめは、「発見があるから 買り」というように させることです。先の「情報限定商品」や「選択肢商 感を味わわせるとか、客にいろいろな選択肢を与えて選ぶのを任せてしまうといった工夫がなされます。

品」をつくったり、人目につかない路地裏に店をつくったりして、消費者にあたかも自分で発見したか

のです。 みてくると、あなたが自主的に情報を収集し、商品を選択しているつもりでも、そこにはけっして押し のような幻想を与えるのです(博報堂生活総合研究所編『「分衆」 の誕生』日本経済新聞社、一九八五年)。こう つけにはみえないような工夫がほどこされており、自然にそれを選んだかのような操作がなされている

界に重ねようとする軸」と「一定の情報圏の中で遊びも、仕事も、食事も、恋もしてしまおうという」

しかもその情報選択そのものにも 二つの軸があるといいます。「異なる情報圏をだぶらせて 自分の世

> 情報選択の二つの軸

自分の身の丈だけに合わせて情報を選びとり、そうした情報圏のなかで暮らす、それゆえ、それ以外の 世界という一定の情報圏で充足してしまい、他の情報圏にたいしてはそれが自分の世界とかかわらない かぎり無関心になるという閉鎖的な傾向が示されています。つまり、同じような人々と情報を交換し、 軸で す(野田正彰『都市人類の 心のゆくえ』 日本放送出版協会、 一九八六年、 一六三ページ)。 ここに は自分の

123

124 あくまでも ヘクルマ〉というモノだけが彼らのつき合いになる わけ で す (朝日新聞社社会部編『子ども新 時代』朝日新聞社、一九八四年、一六ページ)。

쀓 排除される情報

としてのモノやヒトについての、しかも麦面的な情報に限られていることです。そこではプロセスにつ いての情報は得られません。例えば、あなたが理想の伴侶を得たいと、アルトマン・システムの会員に さらに加えて、ここでの情報に はいくつもの大事なものが抜け落ちています。一つはその情報が結果

間としての生き方を学び合い、成長し合っていく人間的な営みです。商品の場合には、その商品の生産 過程についての情報は、よほど注意しないかぎりえられません。見てくれの良いハウス栽培の野菜には、 いは逆に失恋、別離) へと至る感性的・論理的な葛藤を伴ったプロセスを体験すること、そのなかで人 の愛にとって最も大切なものがはじめから欠けています。それは、男女の出会いから恋愛、結婚 フスタイル、嗜好、結婚観、家庭観などに至るまでの細かい情報が得られます。しかし、そこには人間 なるとします。たしかに、そこでは相手の男性の年齢、身長、体重、職業、年収、学歴、信仰からライ (ある

「女工哀史」的な労働条件のなかで作られていることなどはほとんど知ることができません。 もう一つここには、はじめから排除されている情報があります。アルトマン・システムでいえば、中

人を殺すことのできる有毒な 農薬が大量に 散布されていること、ニットシャツが 台湾や フィリピンで

その文化を享受できないヒトの情報がはじめから排除されているのです。 は会員になれないからです。ここに象徴されているように、あなたが消費文化のなかで得る情報には、 一五○センチ以下、年収一五○万円未満の男性についての情報です。これらの条件をもつ男性

⋙ 何となくわかったつもりの自分の世界

覚の人々と交換し合う世界へと閉じ込められていきます。こうなると自分の日常的な世界に反省を加え 離」は消え失せ、他の世界とは薄い膜でさえぎられた何となくクリスタルな自分の世界ができあがって たり、それを突き放して眺めてみることなどは、ほとんど必要なくなってきます。自分と世界との「距 いくのです。しかも他の世界についても、テレビや週刊誌で与えられた情報を自分の世界にひきつけて、 こうして知らず知らずのうちに、あなたは自分の世界になじむような情報を自分と似たような生活感

「何となくわかった」世界のように 思えてきます。実際に 体験しなくても、結果としての他人の体験を

情報としてホンモノのように与えられると、何となくわかったつもりになってしまうのです。

第4章

日常的に求めている情報

125 供されている情報を次の四種類に 分けています。⑴ ハウツー情報(知らないと 損をする、すぐに役立

ではあなたが日常的に得る情報はどのようなものなの。しょうか。ある研究は現在さまざまな形で提

126 の)、⑷ ヤジウマ情報(タレントのゴシップ情報など、ヤジウマ心を 刺激するもの)。このうち⑴と⑶ な情報)、⑶ ライフ情報(人生への新たな挑戦、多様な生き方など、どう生きるべきかを考えさせるも つといった情報)、② モノシリ情報(一般的常識や教養として知っていると他人に差をつけられるよう

(1) 合研究所編、前掲書、二〇九一二一三ページ)。 ハウツー情報的、あるいはライフ情報的に提供するかが消費戦略上大切だとされています(博報堂生活総 また、別の調査研究(総務庁青少年対策本部編『現代青年の生活と価値観』一九八六年)によれば、あなたた ファッション、② 趣味、③ イベント、④ 健康、⑤ 流行など ですから、こうした テーマをいかに

ている情報は、男性では、⑴ 趣味、⑵ スポーツ、⑶ イベント、⑷ 経済、⑸ 健康など、女性では、 をうまく前面に出している雑誌が人気を得ているそうです。そして、今人々がお金を出しても欲しがっ

養・知識、友だちとの共通の話題などを得ています。しかし、あなたたちがほんとうに欲しているもの は、⑴ 自分らしい生き方、⑵ 自由な時間、⑶ 生きがいとなる仕事、なのです。 ファッションなどで、テレビや雑誌を通じて世のなかの動き、 ちが通じている情報は、⑴ 音楽、⑵ テレビ・ラジオ番組、⑶ スポーツ、⑷ 本・雑誌、⑸ ファッション・買物などの参考情報、教 遊び、(6)

このようにあなたはさまざまなメディアを通じて、趣味やファッション、イベントその他の情報を、

るのです。商品市場で「かくれんぼをする中で(それでも私たちは生きているんです)生きる道を捜し 合わせた「パッチワーク的な知」であったりして、そのままでは全体的な連関を結ぶものではありませ らそこで得る知識は「マニュアル的な知」であったり、いろいろなモノについての断片的な知識をつぎ すぐに役立つかどうかあるいは友達との共通の話題となるかどうかという見地から選んできます。だか ているんです」とある ギャルは 訴えています(吉岡忍 『街の夢 ん。しかしそうした情報と商品の波間を漂いながらも、あなたは真剣に自分の生き方や自由を求めてい 学校の力』日本書籍、一九一年、一四六一

四 学びへの旅立ち

一四七ページ)。

もなければ、ただいろいろなモノごとの情報に通じていることでもないのです。とすれば「学ぶ」とは たり、与えられた知識をただ覚えることでもないのです。また、ハウツー的な情報を手に入れることで いったいどういうことなのでしょうか。

すでにわかったと思うけれど、「学ぶ」とは学校で 与えられた課題を教師の 指示するやり方で達成し

ことではないでしょうか。ここで出会いといっても、大きくいって二つのケースが考えられます。一つ

は異質な世界をただ知るという場合です。例えば『痴呆性老人の世界』を面白半分に観に行って、今ま

変動をおこすことになります。このように今までとは違った自分、新しい自分になりたいという主体的 いは自分の論理で何となく「わかっていた」と思っていた自分の日常的世界は大きく揺さぶられ、地殻 (戸坂澗)として突きつけられてくるのです。こうしたなかでこれまで自明のものと思われていた、ある でしょうか。そういう 別の自分や 世界を求めているからこそ、異質な世 界でも「自分一身上の 問題」 いや揺らぎ、あるいは「もっと別の自分、新しい自分になりたい」という願いをもっている時ではない いず、現在の自分のあり方について「何かおかしい、もっと別のあり方があるのではないか」という思

かで暮らし、その世界に閉塞させられている場合にはなおさらです。

では、異質な世界が自分に突きつけられるのはどういう時かと言えば、それはあなたが自己充足して

な違った世界を知ることはとても大事なことです。今日のように皆が表面上似たような生活と情報のな って、それ以上自分の世界にかかわってきません。もちろんこのような場合があるとしても、いろいろ るのね。でもやーね」というふうにとらえてしまえば、それは自分とはまったく別の世界の出来事であ で自分の視野に入っていなかった老人問題を知ったとしましょう。その時あなたが「ああいう世界もあ

になりたいという営みを通して自分の世界が変わっていくことだ、と言ってもよいでしょう。 な営みがあってこそ、「学ぶ」ことが成り立つのです。つまり、「学ぶ」とは、違った自分、新しい自分

世界が変わるとは、これまで「わかっていた」つもりの自分の世界が、実はまったくわかっていなかっ かならないからです。そして、この「わかり 直し」が マイ・リボリューションへの 第一歩と なります。 での自分の知識と突き合わせながら、自分の世界をわかり直していく営み(自分の世界の再構築)にほ たことがわなるようになる こと(自分の世界の解体)であり、そして新たに知った違った世界をこれま

こうした意味での「学ぶ」こと、それがまたほんとうの意味での「わかる」ということです。自分の

『にんげんをかえせ』を観た学生の感想はこの過程をよく表わしています。

「『原爆はおそろしいもの』 とわかっていても、こうしてフィルムをみてみると、自分の考えが甘か

129 題にとり組まなければならないのだと思う。」(高知大学現代教育研究会『社会形成と人間の教育』第一法規、 思うだけで、第三者的な見方しかできなかった。しかし今日は違り。こんな悲惨なこんな残酷なこと は二度とくり返させてはならないと思う。そして、私たち市民は一人ひとりが自覚をもって、この問 ったのを痛感した。わかっていたようで、全然わかっていなかった。以前、修学旅行で広島にいった 「資料館をみたときは、まだ認識が 浅かったせいか『かわいそうだ』とか、『おそろしい』と

一九八五年、二三八ページ)

∭ 相互主体的な学び合い

関係では、子どもがいくら主体的に学んでいるようにみえても、ほんとうに主体的に学ぶことにはなり すでに述べたように、教師が教育し、教師の言うことをただ学習していくという垂直的な教師-子ども でいるわけではありません。主体的に「学ぶ」とは、そもそも「相互主体的に学び合う」ことなのです。 ところで「学ぶ」ことや「わかる」ことが主体的なものであるからといっても、けっして一人で学ん

自分の論理を確証するために一方的に読むという場合もありますが)。自然を直接の対象とする仕事(例 係でもそうです。一人で本を読む場合でもそうです。そこでは著者という他者(の思想や論理)をもう 教師も子どもといっしょに学び合うといった関係があってはじめて成り立つのです。親子関係や友人関 一人の主体としてたて、その人の言い分を聴き対話をしながら学んでいるのです(もちろん本をたんに

体的に学ぶというのは、学校であればすくなくとも子どもが教師の助けをかりて文化を学ぶだけでなく、 ません。そこでは、主体は権威をもった教師であり、子どもは教育の対象でしかないからです。真に主

このように、あなたは人々と対話したり、自然と相互交流したりしながら学び合っているのですが、

- 自然との相互交流のなかで自然から学んでいるのです(残念ながらこうした相互交流が

奪われつつあるのですが)。

えば漁)でも、

う。「学ぶ」とはわかったことの共有であるとともに、その喜びの共有でもあるのです**。** もわかち伝えたいという思いが伴うものです。そういう経験をあなたも一度はもったことがあるでしょ こうした「学び合い」には、そのなかで学んだこと・わかったこと、またそのときの感動を他の人々に

めには、すくなくとも次のようなことに取り組んでほしいと思います。 「学ぶ」ということがこのようなものであるとすれば、あなたが 自律的に「学ぶ」ことへと 旅立つた

験を続けるなかで知ることの喜びがわかり、また自分がこだわっているものとそうでないものとの大ま かな区別がしだいにつけられてくるからです。 たいことが見つからず、他のものに目が移ってゆくかもしれません。それでもよいのです。そうした経 と、そしてやりたいと思ったことをすぐやってみることです。そうしてもすぐにほんとうに自分のやり ているものは何か、自分がこだわり続けているものは何か、自分がやりたいことは何かを考えてみるこ ダメだと思われてきた自分から自由になることです。そのためにはまず、今自分がムキになって熱中し 一つは、これまでの学校教育のなかで奪われてしまった学ぶ意欲をとり戻すことです。言いかえれば、

131 を素直に聴くという姿勢が大切です。「素直に」とは相手の言を無批判に 受け容れることでは なくて、 もう一つは、対話と共同の場を築き上げていくことです。そのためにはまず、お互いに相手の言い分

第4章

す。なぜ赤川次郎や新井素子がおもしろいのか、なぜレベッカや渡辺美里が好きなのかを他人との共同

相手のほんとうに言いたいことをひき出してつかみとることです。と同時に大切なのは、自分が感じた(コン)

の一歩を踏み出すことになるのではないでしょうか。

う。こうした作業を通じてあなたは、それぞれの殼を少しずつ内側から破って他人と結ばれ合う世界へ の場に持ち出して確かめ合うことです。そうすればお互いの思いや共通のセンスがわかってくるでしょ

で。これらの問題は、あなたが今抱えている自分の問題と深いところで結び合っているはずです。学ぶ ます。地球規模での生態系破壊、核問題、飢餓からはじまって学校、男女の性と生の問題などに至るま

あなたの前には、あなたたち新しい世代の手で解決していかなければならない問題が山積してい

(1) ここで問題にしている学校は、現代資本主義を支え推進している学校の一般的本質をさしているのであっ

ことはいっぱいあるのです。さあ過去をふり払って未知の世界へ旅立とう。

のではありません。

て、個々の学校のことではありません。したがって個々の学校で行われているすぐれた教育実践を否定するも

(2) こうした科学、とくに近代科学の性格とその批判については、高木仁三郎『いま自然をどうみるか』白水

社、一九八六年を参照して下さい。

ム』日本エディタースクール出版部、一九八六年を参照して下さい。なお、ここでは紙幅の関係で展開できま この点に かんする アメリカの カリキュラム 分析については、M・W・アップル『学校幻想とカリキュラ

子『女の子はつくられる』(白石書店、一九七七年)などを参照して下さい。 たいと思います。詳しくは、行動する女たちの会『女はこうして 作られる――教科書の中の 性差別』、佐藤洋

せんが、学校知そのものが男は仕事、女は家庭という性別役割分業意識を再生産している事実も指摘しておき

- (5) だからといって「学力」は、まったくナンセンスだと言い切れません。今日の文化の継承のほとんどが学 ろは、そこへ行っているといろいろ便利なこともあるから、行っていること自体はけっこうだが、そのなかで 校中心に、しかも書き言葉中心の認識能力を 核として行われているという厳しい 現実のなかでは、「学力」が いやがうえでも、今日の子どもの「生きる力」の重要な部分を占めているからです。だから「学校というとこ レッテル貼りの効果については、M・W・アップル、前掲書、第七章を参照して下さい。
- かに学ぶべきか』大和出版、一九七三年)。 も独学をしたほうがいいのだ」というくらいに考えておいたほうがよいのではないでしょうか(佐藤忠男『い
- (『知力と学力』岩波書店、「畑章)。 る意欲」をも低下させることをいくつかの心理学の実験例から明らかにしています。ぜひ読んでみて 下 さい で継続していこうとする意欲」を低下させること、また「自分の能力より少し 上のものに挑戦してみようとす | 波多野・稲垣は、外的評価が「より深く 理解しようとする 動機づけ」を抑圧し、「学習をみずからすすん
- (8) 日常世界の自明性の構造については、さしあたりA・シュッツ『現象学的社会学の応用』(御茶の水書房、 かかわらない生活様式」(『思想と現代』第四号)を参照して下さい。 女性の新たな 旅立ちを描いて 興味深い。「アルトマン・システム」の「問題については、中村行秀「プロセスに

赤川次郎の『ヴァージン・ロード』(新潮文庫)は、こうした紹介業に頼らざるをえない現代人の悲哀と、

第4章

:ئى

133 一九八〇年)および、P・L・バーガー=T・ルックマン『日常世界の 構成』(新曜社、一九七七年)を 参照

- して下さい。
- (1) 石牟礼道子『苦海浄土』(講談社、一九七二年)のなかの「ゆき女きき書き」は、こうした 自然と 人間と (9) 内田義彦は このような二つの 読みを「古典として読む」と「情報として 読む」と呼んで 区別しています (『読書と社会科学』岩波書店)。
- の交流を生き生きと描いています。

(11) M・エンデ『モモ』(岩波書店)の主人公モモに、聴くことの 能力のすばらしさが 表現されています。ぜ

ひ読んでみて下さい。



西 Ш

高校生だったころも、学校の授業や勉強などについて今の中、高校生と同じようなことを思っていまし た。「何で勉強しなければならないのだろう」「これを覚えて将来何の役に立つのだろう」な どいろんな はどう思っていたのだろう、そして、現在の自分はどうなのだろうということを考えました。私が中、 この論文を読んで、ほとんどすべてのことに共感しました。読みながら、自分の小、中、高校生時代

第4章 135 来、私が今思っていることと同じようなことを思う時が来るのではないかと思います。 死になって学習したことは何だったのだろうとなさけない気持ちがします。現在の中、高校生たちも将 まっていたり、覚えていても使わなかったりすることが大半のように思います。そう思うと、今まで必 ために勉強してきたように思います。そのようにして詰め込んできた知識は、今ではほとんど忘れてし 学生時代に「自分でまだ気付いていない 能力を見つけよう」「その能力を 伸ばすにはどうすればよい

疑問をもちながらも、「親や教師にほめられたい」「友達に負けたくない」という自分のプライドを保つ

136

のだろう」などと試行錯誤しても、結局は学歴社会という渦にまかれて、成績をあげるための勉強、受

験勉強などをしなければならないという現在をどうすることもできずに過ごしていることを腹立たしく

思います。しかし、私たちがどんなに努力しても学歴社会はそう簡単に変化することはないでしょう。

結果だけを教えるのでなく、それまでの経過やエピソードなどを教えれば、楽しみながら、いつのまに せん。それとの兼ね合いを考えることが難問です。もう一つ、これは論文を読んで思いついたのですが、 遊び中心の教育です。でも現在は、文部省の学習指導要領に沿ったカリキュラムをやらなければなりま 私の理想は、子どもにいろんな遊びを教え、子どものあらゆるアイデアを取り入れて遊びを作っていく

か子どもたちの知識になっていくのではないかと思います。それには、あることの専門的知識を覚えた

どもたちの一人ひとりの隠れた能力を見い出し、育てていくにはどうしたらいいのか、子どもたちが、

教師を目指している私にとって、この論文は私に新たないろいろな課題を投げかけてくれました。子

だと思い込んでしまうのが常なのです。この点で学校知と情報からの知は似ていると思います。

いました。あるものの結果や一部分の情報を得ただけなのに、それについて自分はすべて知っているん

マス・メディアの情報から得た知識はいくつもの大事な点が抜けているということはもっともだと思

自主的に学ぼうと思うようにするにはどうしたらいいのか、などほんとうに課題は山のようにあります。

そういう現在だからこそ、この論文にある「学ぶ」ことのほんとうの意味を考え、実行していかなけれ

第4章 学

近

り、 いと思いました。 けるよう学ばなければなりません。そして、もう一度「学ぶ」ということについて考えなければならな 私は、今の中、 あらゆる面から見たり、きいたり、考えたりしなければなりません。 高校生たちよりも自分の目標に近い位置にいます。だから、その目標に一歩でも近づ

(高知大学教育学部三回生)

池谷さんは対話と共同の場を 築き上げていくために、「素直に聞く」ことを 強調しています。 聞くについて考える機会があったので触れてみたいと思います。 私も最

I 37 かと、話すについて述べられることが多いようです。しかし、対話には話し手と聞き手がいて、その役 対話というと、自分が考えていること・感じていることをどれほど正しくわかりやすく相手に伝える

138

さらに、聞くについては情報化社会との関係でも考えてみる必要があります。情報化社会では情報を

割を相互に交代することによって対話は成り立ちます。聞くもまた見落とすことはできません。

自分の身辺を見まわしてみると、どうもそうだとはいえません。たとえば「国家機密法案」がありま

き、それから適切なものを選択できる条件があってこそ、はじめて生きてくる能力であることがわかり ありません。素直に聞けばそのとおりです。その上で素直に考えると、情報が自由にかつ十分に入手で 活用する能力が必要だといわれている点についてです。たしかに「情報を活用する能力」は不必要では

ます。それで素直に質問してみます。「情報が自由にかつ 十分に入手できる 条件はととのっているでし

情報を知ったり知らせたりしたら罰するというのです。 す。一方で情報化社会とか情報公開といいながら、他方で情報を提供しない、それにもかかわらずその しまっているのです。そうであるならば、わたしたちに必要なのは「情報を活用する能力」だけでなく、 今でも情報は自由にかつ十分に入手できるのではなく、わたしたちが入手する前に慵報は選 択されて

入手した「情報を分析する能力」や、分析した結果欠けている情報があれば「それを要求する能力」も また必要となります。まとめていえば、情報を入手し、分析し、要求し、活用するための出発点として

「素直に聞く」が大切になってきます。 聞くについて、異なる観点から考えてみたいと思います。文明開化の明治時代から、日本は諸外国の

学問や文化を文字を媒介にして学びとる努力をしてきました。そ のせいでしょうか、耳で聞いて学ぶこ とを「耳学問」といって軽べつするようになってきました。耳学問とはそんなにつまらないことでしょ 自分の話を相手が耳を傾けて聞いているかをどのようにして判断するかと、学生に質問してみました。

た。素直に聞こうとすればそれは態度となって現われ、質問するという形で表現されるというのです。 首をかしげたりして聞いている」「質問をしてくれる」ときだとの答えが返ってきまし

耳で聞くことによっても能動的に学ぶこともできるのです。

ような対話によって、人間と人間との関係のネ ドワ ークがつくられ広げられます。これからの社会で 質問を返して学ぶス 彳ル を身につける必要にせまられてきているのではないでしょうか。 国の人たちと直接交流できる時代になっています。これらの点からしても、耳を通して情報を手に入れ、 は、あらためて耳学問が大切になってくると思うのですがどう(でしょうか。 してのみ入手するというのでは追いつきません。また、高速大量輸送手段の発展によって、いろいろな 「素直に聞く」とは質問しないで 聞くことではなくて、素直に質 問することでもある でしょう。この 今日の社会では情 報伝達手段の発展によって、実に多くの情報が伝えられてきます。それを文字を通

٤,

かけを読んで、私はハッとしました。ときとして、夢や希望から遠く離れた状態に陥っている自分を発 この章の結びのことばとして、「未知の世界へ 旅立とう」と池谷さんは 呼びかけています。この呼び

139

140

見することがあるのです。どうも専門分野の知識を伝えることのみにあくせくしているからかなと考え

てもみます。あせればあせるほど、気持ちまで一方通行になってしまうのですから。

アラゴンはナチスドイツに抵抗し、フランス国民に抵抗を呼びかけたフランスの詩人です。彼は「ス

トラダー ル大学の歌」のなかで、次のように歌っています。

「教えるとは希望を語ること

教え学ぶとはともに未来を語ることだと思います。

いて語り合わねばならないと、呼びかけているように思えます。教えることと学ぶこととはともにあり、 しています。教えるものと学ぶものとの二極に分かれてしまうのではなく、教え合い学び合う関係にお

(愛知県立女子短期大学教授)

この詩は、何のために学ぶのかと自分に問い、他の人と問いかけ合って未来を身近に引き寄せようと

彼らはなおも苦難のなかで 学ぶとは誠実を胸にきざむこと

その大学をふたたび開いた」

はじめに

塚 野

州

の一人で、面白くない時、苦しみを味わっている時など、後でおとなになれば楽しいこと が待っている、 しあわせになれると思い込み、なんとかしのいできたような気がします。 こどもの頃、人は誰もが、人生はハッピーエンドである、と考えていたのではありませんか。私もそ

した友人がガンでなくなった時、私の単純な脳細胞は、怒りと当惑で錯綜したものでした。いまは、人 ことを、知るようになりました。才能が豊かで、努力もし、友達からも慕われ、親も妻子もたいせつに まじめに努力しても不幸な人生を過ごし、他人に迷惑のかけどおしでも、けっこう幸せな生活ができる しかし、その期待していたおとなになり、近くであるいは遠くから人の生き方を見聞きするにつれて、

ら多くの人は熟知済みで、例えば、モーパッサンは「人生は、この上もなく多種多様な、突発的な、相 生はわからないものだ、と考える境地に近づいてはいます。もとよりこの程度のことは、古今東西昔か

反した、ちぐはぐなものばかりで出来ている。残忍で、支離滅裂で、脈絡がない。説明不能の、 的な、矛盾だらけの、三面記事に組み込まれるべき異常事に満ちている」といっています。

ようです。そう考えると、生きることの意味を考え、人生について語ることも、あながち無意味なこと いで、それにふさわしい人生を送ることもあります。 ったく矛盾だらけで支離滅裂かと思うと、ある人は確かにその人の努力のせいで、 このように、初めにも、途中でも、そうして終わりでも、なにが起こるかわからない人生ですが、ま 人生から定理や法則を抜きさることも無理がある あるいは心掛けのせ

うなところで、私たちは、科学技術の発展と調和した、新しい人間的な生き方を設定したらよいのでし きている実感、 わりつつあります。それらは、いままで人間が自然とじかに触れあうなかで味わい造り上げてきた、生 展開されています。その環境は、ビデオやCDそれにパソコンの普及などにみられるように、急速に変 とはいえないのではありませんか。 ところで、私たちのいまの生活は、高度に発達した科学技術に支えられた豊富な生活環境のなかで、 生きる喜び、生き抜く喜びの体験を奪いさる危険を孕んでいるように見えます。どのよ

中心に行われていました。それが病院、学校、会社など社会の公共的な場へと移行していきました。便 以前は、こどもの誕生、教育、結婚式、労働、病気、死など人生の重要な出来事はほとんどが家庭を

利で多様に見える社会的環境のなかから、こうした人生の重要事が除かれていることにも私たちは思い

本章ではこれらの問題について正面からとり組もうとしたものではありません。生きることについて 一人の心理学研究者として、体験的に、すこしは学問的に、考え探ろうとしたものです。他

をいたしてみる必要があるようです。

とを、やや、沈んだ形でみつめなおしてみようと思います。 の章では、 の意味を、 意欲的主体的な活動を励まし、薦める意図が大きな柱になっていますが、本章では生きるこ

死について

課題は、しっかりみすえる必要があるのではありませんか。 くは忘れ去り遠ざかろうとするのが普通です。しかし、死に向かう人生をどう生き続けるかという重い 向や孤独の感情の高まりは、 はこのことを裏づけています。死の現実に私たちはときどき直面することがあります。けれどもなるべ る死を考えるのには一番ふさわしくない時期のようにみえます。けれども青年期の自己への内 省的な傾 いろんな人生の時期のなかで、もっとも躍動的で生命感あふれる青年期は、その対極に位置づけられ 生の問題だけではなく、死をも見つめさせます。青年期 の自殺の多発現象

143 最近、こうした死の問題をむしろ積極的に取り上げ、生と死の意義について考え、自己と他者

備えての心構えを習得することの必要性が説かれています。死への準備教育がそれです。生の積み重ね

生 ž る

144 の上に死を迎えるのだとすれば、見事な死は、豊かな人生の結実です。人生の究極にある死への準備を

てみたいと思います。 することは、人生をよりよく生きるための試みでもあるのです。生きることを、まず死の問題から考え **娜** 私の父は田舎町の役所勤めをして定年を迎え、その後、民間会社に七年間ほど勤務しました。私たち 死

いることがありました。私が近づくと、作業を中断し何をやっているかを知られたくないようすでした。 りました。また、ときどき身をかがめるようにして小さい机に向かい、小型のノートに書きものをして この頃、話し言葉から物や人の名前などの固有名詞が失われ、それ、あれという代名詞がほとんどとな などのグチを幾度か耳にしたことがあります。記憶力喪失の自覚がほんとうの理由だったのでしょう。 外からの電話を受けても伝言する内容を忘れてしまう説明する つもりでも言葉が思いどおりにでない けることを極端に嫌う性格でした。社長からの慰留で一、二度辞めるのを延ばしたこともあったよ う で 子どもはふるさとを離れ、両親は二人だけの生活をしていました。父は、小心で律義で他人に迷惑をか したが、自分の仕事の責任が果たせなくなり会社に迷惑をかけているということで退職したのでした。

後でそっとノートを開けると、国語辞典から自分に必要な部分を抜粋する作業をしているようでした。

いやがる父に、母と一緒の健康診断だといつわって、精神科の医院の診察を受けさせ、月に二回の通

自由な年配の人が苦心しながら町を歩く様を見て、それでも頭は確かなのだろうからと羨ましく 思え 続けていたのだと思います。医師からは入院の必 要はまだない、といわれてはいました。母 は、足の不 えるのを躊躇したといいます。 ŋ 院を始めました。老人性痴呆症が少しずつ進行していたのでした。まもなく、お 山間の渓谷で、カニとりの人たちに偶然発見されました。通報によって知人の運転する車で駆けつけた て帰って来るようになりました。こ のあたりからは楽しみというよりは、仕事や義務として歩くことを なんの楽しみもないようでしたが、足腰は達者だったこともあって、散歩だけは、きまったコースに進 両手で自分の頭を叩き転げ回り、母は暗澹たる思いだったようです。新聞もテレビも理解できなくなり 弟妹がわからなくなり、 麗な身なりで出かけた父は、とうとう帰りませんでした。多くの人々の懸命な捜索が続いた四日目の夜、 んで出かけていました。しかしそれも道に迷うことが多くなって、しばしば居あわせた人から連れられ いとでさぞかし不本意だったのでしょう。思いどおりに仕事や行為ができないよかんし ゃくを起こし、 一九八五年、一〇月も中旬過ぎのうららかな日和の午後、なぜかその日午前中に散髪を済ませ、小奇 母は散髪に出かける時には釣銭がもらえる札を用意してやっていました。ひさしぶりで訪ねた私の の着脱、入浴の世話などで母の手にかかることは、まだるっこい感じと迷惑をかけまいという思 朝、起き がけに母に「離れに泊まっている人は誰だい?」と 尋ね、 金の勘定ができなくな 母も一瞬答

145

第5章

きる

父の身体が、アルミ製の担架の上に 仰向けになり、ひとまわり 大きく見えました。「疲れたので、少し

私は、確認を求められて、毛布で覆われた遺体の前に進み出ました。一六四センチの身長で骨格の太い

ります。家に帰りたい一心で、定かでない頭脳をふりしぼって山の道をたどり、ついには沢のなかに足

その部落から遺体の発見された現場までおよそ二キロ余、秋の山あいの道では六時になれば暗闇

かめたというのです。その後の足どりが絶えていたのでした。

れば町の方角へ、直進すれば山へという二股の道で、夕方の四時すぎに下校途中の子どもに部落の名を キロのコースを歩き始め、途中で大きくコースをはずれ、またもどったのですが逆廻りとなり、右折す

父が出かけた日の足どりは出会った人たちの話をまとめると、こうなります。その日も父は、一周五

心臓死ということでした。

探しても見つからなかった、といわれました。検死の結果は、外出当日午後八時頃の疲労と寒冷による

清流の浅瀬のよどみで、上流を頭に左腕で石を抱え込むようにして仰臥しており、片足の靴は脱げて、

るような身近な親しみやすいものとして感じられたのでした。

その時まで、忌みきらうべき対象であった死が、父の傍らに身を横たえただけですぐに、父と共有でき もらえる、そんな気がしたのでした。父の死と私の生とが互いに歩み寄ったとでもいうのでしょうか。 配は顔から消え失せてみえ、これまでじかに聞いてみたことのなかった父の人生の哀歓を今なら話して だけやすませてくれ」とでも言いたげな安らかなようすに見えました。業苦であったはずの痴呆症の気

146

た。暗がりの細い山道にはいりこみ、しまいには、川の浅瀬を岩や石に足をとられながらも、命の尽き 身体には傷はほとんどありませんでしたが、足首から膝にかけて、無数の赤い打撲の跡が見つかりまし をふみいれ、二〇〇メートルほど渓流をのぼったところで疲れ果て、横たわったのだろうと考えます。 できなかったと思います。 るまでひたすら歩き続けたのでしょう。よその家の軒先で腰をついて休むことなどは父の性格からして

⋙ そこから学んだこと

思えば、辞典からの抜粋も、知力の衰えを察知した父が、それを引けなくなった後に備えるためとリ

生 る 拙でかなの多い文に変わっており、ついには空白の欄が続いていました。命あるかぎり精一杯誠実に生 に身をもって示していったように思えるのです。 き抜くこと、父はそんなふうに七三年の人生を生き、死んでいきました。 トは、一度も、父によって利用されることはなかったのでした。遺された数冊の日記は、年を追って稚 ハビリテーションの意味を含め自分に課した作業だったのではなかったのでしょうか。その小さなノー 生が死にとって代わるまで、人は懸命に生きる努力を続けなくてはならないことを、父は自分の晩年

での人々、それを取り巻く山や川の自然、それは確かに懐かしいものでしたが、自分の生活とは一定の それまで、私にとってふるさとは、ときどき骨休みに帰る格好な休息の場でした。町のようす、そこ

町のようすや自然の風景には表情があり、人々には、暖かいこころの温もりを感じだしたのでした。山 距離があったのでした。それは静止した薄ぼんやりとした、あたかも煙のかかった景色のように見えて それが父の事件で、町のあちこちを歩き、そこに住む人たちの援助や協力を得るなかで変わりました。

のこころは感傷的にもなり、また慰められもするのでした。 たのだろうか、そういう思いがしているのです。ふるさとの自然とそこに住む人々の存在によって、私 や川が包み込み町に住む人々が語りかけてくれる、父に見えていたふるさとはこうしたものではなかっ もうひとつの思いは、生きることは有限なのだということです。これまでは、自分は人生を不真面目

う死の教育の意味が、体験を通して私にわかりかけてきたのでした。 ということです。自分の身体はいくつかは亡くなっていく、そうした死を意識しながら生を生きるとい に送ってきたとは思わないまでも、終わりを意識してはこなかった、これは考え直さなくてはならない

生きていくことの一つの意味

どか経験することです。そうした出来事は、当面しているときは心身ともに疲れ果てるような状態であ このように、いままでの生活で体験済みのことをある出来事を契機にして見直すことは、誰もがいく

な喜びや悲しみ苦し さの経験はそれまでの受けとめ方や見方に、深みと広がりを与えてくれるように 平凡なことが、実はありがたく幸せなことだったのだとつくづく思い知らされました。人生のさまざま おり枕を並べて入院してしまいました。そうなって、 いままではあたりまえで、なんとも思わなかった ることが多いのでしょうが、時間を置いてみると、大きな収穫を得ていることに気づかされるのです。 わが家は目下二人の娘の子育ての 真っ最中です。昨春(一九八六年)、肺炎で二ヵ月間、二人は文字ど

∭ 見なおすこと

(略) —

私が入院する前の母は、昼は四つんばいになって土をかきまわし、夜はうす暗い電燈の下で金が

きない弱さがあった。そのどうにもならない弱さが、いまの母を支えているもっとも強い力なので るようなことはしないで、もっと別の方法を考えたかもしれない。しかし母には私をおきざりにで ないと泣きごとを言いながら内職をしていた、私にとってあまり魅力のない母だった。私がけがを った。母が世間一般にいう強い人なら、私をおいて家へ帰り、私のために自分のすべてを犠牲にす した時、話しをきいただけで貧血をおこし、気管切開の手術のあとをみてへなへなと座り込む母だ

第5章

生き

女としてしかみれないままに、一生を高慢な気持ちで過ごしてしまう、不幸な人間になってしまっ もし私がけがをしなければ、この愛に満ちた母に気づくことなく、私はうす汚れた一人の百姓の

たかもしれなかった。

一九七四年 | 二月二二日

(『愛、深き淵より』立風書房、一三五ページ)

花が咲いていた 気がつくと目の前に 誰かがそういって 花がきれいですね

うしろを過ぎて行った

私は何を見ていたのだろう この華やかな

いったい何を 春の前で

(『鈴のなる道』偕成社、一六ページ)

が麻痺しベッドに寝たきりの不自由な生活を強いられました。絶望的であった日々を送った末、自分の 周囲の人々やものへの見方が変容していきます。人やものを自分の立場からだけ見るのではなく、それ ら落ちて頸椎を損傷されたのです。青春の真っ只なかでスポーツマンの星野さんは一転して、肩より下 ら、高崎市立の倉賀野中学校に体育の教師として赴任されましたが、六月、クラブ活動の指導中、 かから、私が選んで添えたものです。この人は、群馬大学の教育学部を一九七〇年に卒業され、四月か のほとんどをベッドの上で過ごす生活を送っている人です。文章のつぎにある詩は、星野さんの詩のな この文章と詩を書いた星野富弘さんは、一七年前、首の怪我がもとで手足が動かなくなり、以来一日

ŧ ぞれの存在理由を認め共感する受けとめ方ができるように人間的な成長をされるのです。 つながりの最も強い母でさえ、あるいは母であるからこそ、普段の生活のなかでは自分のつごう本位

をしたら歩み寄るのは親だと思っているのです。母の見直しができたということのなかに、 にしか見ることができなく、それが一面的な見方であることに気づかずにいることが普通です。ケンカ 星野さんの

苦悩の深さと精神的な強靱さ、さらにお母さんの献身的な看病を見出すことができるように思います。 さて、こうした苦悩の病床生活の末、口にサインペンをくわえ文字を書くことに成功されるのです。

∭ 生きる喜び

(略) —

ろまで近づけて、私が、首を少し前にだすと、ペン先が紙に触れ、黒いしみができた。 ンにガーゼを巻いて口にくわえた。篠原さんがスケッチブックを、サインペンの先すれすれのとこ 横向きになった顔の前に、篠原さんがスケッチブックを立ててもっていてくれて、私はサインペ

!

気もしてきた。しかしうれしかった。うれしくて、うれしくて、……やめることはできなかった。 ぐしょぐしょにして、頰っぺたを伝わって枕に浸みた。慣れないものをくわえるためだろうか吐き のようにもつれた文字が、だんだんと増えていった。目が回った。よだれがサインペンのガーゼを 結局、初めて書いた文字はカタカナの大きな「ア」だった。次ぎは「イ」である。黒糸の切れ端 スケッチブックを持つ篠原さんの手はブルブルと震え、横からのぞき込む母の歯は、私と同じよ

一九七二年一二月

るようになった幼いときのように、うれしくて、うれしくてしかたがなかった。――(略)

うにがっちりと嚙み合わさっていた。首は次第に疲れてきて、カタカナの字も字ではなく、ただの、

のたくった線のようになってしまった。それでも私はやめなかった。はじめて、自分の名前が書け

何を喜びとしたら にれからどうなるのだろう これからどうなるのだろう これからどうなるのだろう これからどうなるのだろう おなたが一枚の花を 置いてくれた 重みのままに咲いている 美しい花だった

生きているのだろう

何のために

健康であるときには意識せずにやっている行為も、さまざまなメカニズムが正常に働いて初めて可能

(『鈴のなる道』 六六ページ)

になるということを改めてさとされます。この場合、文字を書くということは、全生命力を賭けた行為

生きることの目的や必要性をさほど問題にせずに日々を過ごしています。しかし、こころの底からの強 であり、それだからこそ、まさに生きがいを感じさせる喜びと感 動がともなったのでしょう。私たちは

い生への喜びと執着をみるとき、自分の生きがいは何であったのか、沸き上がるような感情をもって生

きていきたいという気持ちがよみがえってくるのです。

あらゆる可能性を秘めるかにみえる青春の最中に、不慮の事故によって絶望のどん底にたたきつけら 星野さんは、それからさらに、花の絵を描きそこに詩の添え書きを始められます。

方と作品は、多くの人に生きる勇気と感動を与えてくれます。私は、そこに深いところからの生活と人 **う作品に自分の生き方を投影させるという自己表現の方法を見出していかれたのです。星野さんの生き**

れ苦悩にあえぐ日々を経験し、家族や医師、まわりのさまざまな人たちの支えを受けながら、詩画とい

生の見直しがあると思うのです。その深さは、苦悩、葛藤の大きさとそれを受け止めるこころの広がり なのでしょう。いくつかの悩みを抱え込んでいる読み手は、自分よりさらに深いところに立ち、立とう とする星野さんの詩画にこころを洗われる思いがするのです。

の体験を見直し、そこに新たな価値を見出せるようになるということにあるのではないでしょうか。 人生をひたすら生き続けることの一つの意味は、より多くの新しい経験をすることによってそれまで

証明、 青年期には、 職業の選択基準や倫理的な選択、結婚、宗教、政治参加などの決定に、大きくかかわります。 主体性、 自覚などの日本語があてられています。人格的アイデンティティは、ひとたび形成され | 人格的アイデンティティが確立されるといわれます。アイデンティティとは自己の存在

∭ アイデンティティ・ステータス

どに、自分もかかわろうとすることをいいます。思い惑うこと、自ら決めることということになるので な選択肢から積極的になにかを選ぼうとする時期をいいます。参加は、職業選択、宗教、政治的信念な インタビューを 実施しました。この時危機とは、いろいろな役割を 経験したり(役割実験)、いろいろ 法としていくつか考案されました。ジェー4 ス・マーシャは危機と参加という二つの基準を取り入れた アイデンティティの達成のされかたを、ア イデンティティ・ステータスと呼んでいます。 その判断方

っている。認知の複雑さでは高いレベルにあり、対人的には穏やかで協調的であり、高い目的意識を アイデンティティが達成された人………すでに危機を経験しており 職業や信条的なかかわりを持

しょう。その結果からつぎのような四つのタイプが見出されています。

持っている。

いる。現実的ではなく気紛れであるが、独断的ではなく寛容的であり、認知の複雑さでは四グループ モラトリアムの状態にある人………現在まさに危機の 状態にあり、その人のかかわりは 拡散して

疑問を持たない人などはこれにあたる。 ちらかである。青年期の早い時期に、両親や祖父母が望むような人間になると決め、そうした決定に 持ちたいと思っている。非常に従属的で、権威主義的で、厳格で、対人的には受動的か対立的かのど 中で最も高い水準である。 アイデンティティが早産した人………まだ危機を 経験していないが、職業や 信条的なかかわりを

づけすることができないためか、自分の能力に自信がないためかのいずれかである。この人たちはい っていない。自分たちが演じるいろいろな役割を統合できない。それは違った価値体系の一方に価値 アイデンティティが 拡散された人………危機の経験の 有無はともかく、自分のかかわるものを持

へと上昇します。その形成は大学時代に最も活発になり、危機的な時期は一年生によくみられるといい アイデンティティ・ステータスは、アイデンティティの拡散から、早産、モラトリアム、そして達成 ろいろなことを手掛けてもどれも中途半端で満足することがない。

しかし、一九七六年、マーシャの六年間におよぶ追跡研究の結果からつぎのことが明らかになりまし

ティティ早産のステータスにと変わっていたのです。 アイデンティティを達成していた者七名中四名とモラトリアム状態にあった者七名中二名は、アイデン た。三〇名の対象者中、 ステータスの上昇という見解とは矛盾しますが、私はむしろ自然な気がします。達成から早産へと変 モラトリアムの状態にあった七名全員のステータスが変わっていました。

る ŧ 周 は以前よりもより安定した高い段階とみることができます。 く、再び、みたび、達成状態になる準備期と考えられるのではありませんか。もちろん、その時の達成 生じるのでしょう。達成がモラトリアムにも拡散にも変わること、それは必ずしも消極的な退行ではな 1 わった被験者の叙述から、かつての大学教育といまの会社の仕事との方向の違いがくみ取れます。ステ ?りの状況が変化すれば、それとの関係で危機と参加についての評価も異なります。以前に危機と捉え タスは被験者が自分の置かれた状況のなかで危機と参加の程度を判断することによって決まります。 参加と見たことが、実は不十分なもので、いまこそ危機を経験し、参加しているという意識が

生 5 なります。そうしたさまざまな深い感動や悲哀を体験してアイデンティティが達成されていくのでしょ の経過のなかで幾度かの変動があるのです。結婚、わが子の誕生、両親の死などはしばしばその契機に アイデンティティ・ステータスは青年期に一度確定します。しかし、いまみたように、その後の人生 この意味でアイデンティティの達成は一生を通して考える課題なのだと思います。

158

■ 人と交わることの意味

役割を果たし続け ます。アイデンティティの達成に は、自分自身を自覚すること、現在の不確かさに耐 と考えます。アイデンティティの働きは、お互いに人格的な関係を満足させることにかかわる能力に、 マーシャは、アイデンティティの達成はほかの人と親密になり、こころが通いあうことがたいせつだ、

えること、仕事、それに、自分を理解しようとする人に協力することなどを、進んでやることが必要だ

ようです。ですから青春の時に、親に話せないことを打ち明けられる友が得られ、生涯にわたる交遊が ーシャのいう人とのこころの交流は、一定の時期のものを意味し、人生の長い期間に及ぶものではない ます。生きていく上での苦しみは理解されることによって和らげられ、楽しみは広がっていきます。マ と考えたのでした。 生きがいのある充実した人生を過ごそうとする時に、人間同士の深い交わりは大きな意味を持ってい

なめた私の目の前に広がってきたように思われるのです。それは、物質的なものの獲得や世俗的な形で しています。友達との利害関係のない純粋なこころの交わりの新しく深い意味が、多少の人生の辛酸を 年となったいま、友を迎え語りあうことに相当する喜びを他にみつけることが出来なかった自分を見出 からずや」を一読して、つましく侘しい人生を送っている人の文章とかたづけたものでした。そして中 人生に多くの未知の 部分があり、それがきらめいてみえていた 若い日、「朋あり遠方より来る亦楽し

続くとすれば、それは、代えがたいしあわせというべきでしょう。

そうしたこころのつながりと結び付きのなかから、人生を生き抜く意欲と展望が湧いてくるのではない 必要になるのでしょう。苦悩が大きく深いものである時ほど、人の善意や思いやりが身にしみてきます。 だからこそ、孤独や不安を支えあって、耐え、励まし、時には楽しみを分かちあり友達が、ほかの人が 私たちの一人ひとりは、お互いが制約され脆弱な基盤の上に立った、慈しみあう存在なのです。それ

の成功の限界とむなしさに気づき出したことも手伝っているのかもしれません。

でしょうか。

〉 リポート ⑸ 「生きる」を読んで

ことがあります。この世に生を受けたことが人生の幕開きならば、死はまさにその幕切れとなるでしょ 「人生は芸術である。芸術とは 自己の表現である。そして、人生は死によって 総括される」と聞いた

川渕 優子

筋書きがありませんし、たとえ筋書きを作ったとしても、そのとおりに展開していくとはかぎらないの う。すると、人生は舞台の上で演じられる芝居のよう なものかもしれません。ところが、この芝居には

命に人生を全うすることによって得られる結果であると思うのです。 わち、見事な死を遂げることは、その人の人生を豊かなものにするのです。そして、見事な死とは、懸 りますが、その総括である死をどう迎えるかは、人生の内容に大きくかかわっているといえます。すな この点からも、著者のお父様は、見事な死を遂げられた一人であります。暗がりの山道に迷いながら このように、人生は何が起こるかわかりませんし、本人の力ではどうしようもできない部分も多くあ

ながらも、死を原動力として生きていけるものだと考えられるのではないでしょうか。死をばねとした よって、人を病気から救うことも可能になりました。これは、死という問題を真正面から見つめ、 す。人間は、とかく老いや病気などに負けそうになりますが、それに屈することなく、最後まで生きる できます。 に取り組んできたからだと思うのです。以上のことから、これらの発達の主体である人間は、死を恐れ きたのだといえます。また、医学の目覚しい進歩も死によるものだと思います現在 では医療の充実に あり、今日でも実にさまざまなものが信仰されています。こ れより、宗教は死があるからこそ発達して 不安から逃れるために、神仏や超越的存在を信仰し、安らぎや幸福を得ようとしました。それが宗教で くことの尊さを教えられました。 努力をされたのには、頭が下がる思いがしました。そして、与えられた生命を命のかぎり生き抜いてい も休むことをせず、命の続くかぎり歩き続けられた姿には、律義で真面目な性格がそのまま現れていま 人はいません。よって、死は人間の根本的不安であると考えることができます。先人は、その根本的 それでもなお、人 間は死を避けることができないのです。そんな死にたいして、恐怖や不安を抱かな また、国語辞典からの抜粋や日記はすべて、衰えていく自分自身への挑戦・反抗だったように思いま 誰もがそこにまっすぐに貫かれた人生を垣間見ることができるのではないでしょうか。 人間というものは、死と対等に向かい合ってこそ初めて強くなれるのかもしれません。 死を宣告された人が苦悩しながらも残された命を精一杯生きようとした姿によく見ることが

161

162 死に向かう人生をいかに生きていくか考えることが重要になってきます。しかし、死を意識しながら生 そこで、生きている過程においても、死から目を背けるのではなく、積極的に死の問題に取り組ん で、

きている人は少ないのではないでしょうか。正直なところ、私はまだ死に は関係ないのだと思っていま

その日やらなければならない

そして、私達は若さに身を任せるのではなく、若いからこそ、人生いかに生きるべきかを考えていかな 心がけて生活することがたいせつだと思います。なぜなら人生は「一日いちにちの積み重ねだからです。 えられた課題でしょう。いつ死がやってきても、自らの人生に満足して死んでいくためには、日頃から

有限である生のなかに、どれだけ無限の喜びや満足を見い出すことができるか、それが私達人間に与

人生を見直す機会が数多くあります。そこで立ち止まって、自分の生き方を振り返ってみることが、よ くてはなりません。たとえ、そらいう姿勢を忘れそうになっても、人とのかかわりや書物のなかには、 身だったのではないか、今こういう思いが、頭のなかをぐるぐる駆け巡っているのです。

います。自分はなんて輝きのない日々を過ごしてきたのだろう、毎日をつまらなくしていたのは自分自 ば、愚痴をこぼす以前に、一日一日を少しでも充実したものにしようと一生懸命生きていくはずだと思 待して、流されるままに生きている自分に気付くのです。もし、生が有限なものであると自覚するなら

なるのは、その現れといえるでしょう。そして、自分が成すことよりも人から与えられることばかり期 仕事を怠けて後日に延ばしたり、毎日がつまらないと愚痴をこぼしたり、面倒なことから逃げ出したく

すし、生きていることがあたりまえといったふうに毎日を送っています。

コメント ⑤ 生きるとは

宮川知彰

1

はじめに

これは、いまさら言うまでもなく、孔子が自分の歩んできた人生についての感懐として周知されてい して耳順う(七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。」 「吾十有五にして学に志す(三十にして立つ)四十にして 惑わず(五十にして 天命を知る) 六十に

この年齢尺度をあてはめて考えてみますと、"生きる" の本文の 執筆者は、すでに天命を 知る年齢段

*

(富山大学教育学部三年)

164

天命を知り耳順うとは、まさに仏教的な「悟り」の境地の表現ではないでしょうか。いうならば、こ

の執筆者は齢七十に達すれば、いやでもおうでも「心の欲するところに従えども矩を踰えず」と述懐で

階、いやひょっとして耳順うの年齢段階に達した人のように思われます。

境地にある人といえるでしょう。 きる境地に到達できるのではなかろうかと私は思らのです。この人は現在そういうアイデンティティの

ところで、こういう境地にある人からの青年にたいする本文に述べられているような語りかけを、青

年はスンナリと受けいれられるでしょうか。

2

"生きる』ということの心理学的意味

活動とは、"人のその周囲や 他者にたいする、そして生きていくために生 じてくる 諸課題にたいする

私は、"生きる"ということの本質的な意味は、"活動する"ということにあると思います。

特定の関係を実現する過程』のことであります。それは動機を満足する過程であります。

発達段階を 画してみることができます。そして、それぞれの 発達段階において 主役を 演ずる"活動』 さて、年齢によって人に与えられる社会的規範や社会的地位は変化していきます。このことによって

るのですが、現代社会――資本主義・社会主義の別を問わず――における発達段階と主導的活動の関係 主導的活動 ―― 覺いだすことができるのです。時代や社会、いわゆる"文化"によって相違があ

る 発達段階 主導的活動 乳児期 おとなとの直接的情動的交流 幼児前期 対象的行為 幼児後期 ごっこ遊び(役割遊び) 習 学童期 青年期 親密な個人的・人格的交流, 専門への準備活動 壮年期 働 労 ものでなければなりますまい。

各発達段階における主導的活動 な個人的・人格的交流 うな"活動をする"ことにあるのではないでしょうか。 その青年にとって、職業・専門への準備活動を強化する機能をもつ 通じての――をもつ青年であるだろうと思うのですが、この交流は、 のではありません――、その青年はまさにこの本文の執筆者と親密 と受けいれる青年がいるとするなら――そんな青年はいない 青年期の、あるいは青年にとっての"生きる』とはまさにこのよ もしも、"第5章 生きる』の本文で述べられたことをスンナリ 直接的でなくとも、つまり書面や著作を という

られ実現されていきますし、後者は前者のなかで実現していきます。 ずのものではありません。 の大すじはほぼ参考表のようになるとみてよいでしょう(放送大学印刷教材『発達心理学』)。 ・人格的交流であるべきだと思っております。 青年期における主導的活動は、 職業・専門への準備活動は、 職業・専門への希望にもえた真摯な準備活動であり、 この二つの活動は、 親密な個人的・人格的交流の活動のなか それは、 分離してあるべきもの、 単なる融合ではないと思 親密な個 で支え あるは

人的

私

は、

います。

3

アイデンティティという麻薬

つぎに私がコメントしたいことは、アイデンティティという言葉にふりまわされるな、ということで

ト、強ゲシュタルト、弱ゲシュタルトという言葉でした。当時の私どもはこの言葉にふりまわされて、 かつて、私どもが心理学科の学生であったころ、日本の心理学界を風靡していた言葉は、ゲシュタル

事態の細部を見ることを忘れていたのです。

思えるのです。アイデンティティという言葉よりは、むしろ、人格構造とか欲求構造、認識的構造とい は思いこみがちです。アイデンティティという言葉もなにかそのような魔力をもっているように私には ったほうが、その部分ないし部分構造の探索をうながす動機を内包するものではないでしょうか。 ある事態に一つのレッテルをはってしまうことで、その事態のすべてを理解しおおせたように私ども

うようになったのです。それは新しい自己の発見でもあり、新しい世界、新しい他者の発見でもあった に、自分にたいしてはより厳しく見すえる「アイデンティティ」を獲得したようです。天命を知り耳順 新しい別の観点から見なおすことになりました。世界や他者にたいしてはより寛容に、あるいは包容的

第5章本文の執筆者は、信頼した友人やお父上の死に遭遇して、世界を、他者を、そして自分自身を

ようです。彼の今までの人格構造がゆるみ、崩壊し、新しい構造に転換したのです。そのこと自体はす

アイデンティティの成立を狭義に解釈すれば、青年期において将来の職業を見いだすことに限定して

ばらしいことであったと思います。

り、 ティ獲得は一生の経過のなかで何回もくり返されるのだといったアメリカの心理学者がおります。 ての……それぞれの生活条件に適応したアイデンティティがあると考えてよいでしょう。 小学生には小学生としての、中学生には中学生としての人格構造があり、この人格構造を把握する しかし、幼稚園児には幼稚園児の、 小学生には小学生としての、 中学生には中学生とし アイデンティ つま

ためには、その段階の彼らの主導的活動の抽出にまで立ちもどってみなければなりますまい。

4 おわりに

ていると思います。しかし、梅津先生がこの短い言葉で私に教え諭されようとされたことは、人間は死 つねに0歳」という年賀状をいただきました。このことばは、ひとつには親鸞の考え方生き方を言いえ 私の最も尊敬する梅津八三先生から一昨年(一九八五年)の正月に「刻々が命日 刻々が誕生日

ŧ

第5章 4

ないのです。ひとつには、アイデンティティ概念の束縛から脱出するという意味で、ふたつには自分の 滞してはならない、ということにあったと思います。二重の意味でアイデンティティに停滞してはなら ぬまで常に新しい自己を、他者を、世界を発見しつづけねばならない、発達しつづけねばならない、停

167 現在の安定した状態からの飛躍という意味で。発達とは新しい構造へと飛躍することです。

ともかく私どもは死ぬまで、生産的で創造的な活動・労働をつづけねばならないことを若い人たちに

わかってもらう努力をつづけましょう。私どもにとって生きるとはそういうことなのです。

(放送大学教授)

働

白 井

利明

一 就職することと自立すること

▒ 大学生にとって就職とは

がいるが、僕はこの大学に来たくて 来ているので、それをきくと 腹が立つ」ということでした。「それ うものによってがんじがらめにされていたのです。私は、その話を聞きながら今の社会でいかに自分を 自分にはその 両方がないということでした。「就職は学歴でもコネでもない」といっても 彼は納得せず、 しょうか」と真面目な顔をして聞き返してきました。彼によれば、就職は学歴とコネによってきまるが、 なら何も君が大学をやめる 必要はないではないか」と言うと、「彼はこんな大学を出て 就職はあるので 生を呼んで理由を尋ねると、「僕のまわりに、他の大学にすべったから 仕方なしにここに 来たという人 「きれいごとではなく本音を 教えてほしい」の一点張りでした。彼もまた、偏差値や 大学のランクとい コンパになると「こんな大学やめてやる」という男子学生がいることを耳にしました。早速、その学

したから、そろそろ自分の方向を固めたらどうか、と言いました。事実、彼は彼なりにしたいことがあ たくさんとっておこうと思います」と言いにきたことがありました。彼はもう大学四年生になっていま ある学生の一人が、「僕は将来何になるかわからないので、できるだけたくさんの 講義に出て 資格を

るようでした。しかし、それはできないものと半ばあきらめていたような感じが私にはしました。

モラトリアムというのは、経済学で執行猶予という意味ですが、第5章でも述べたように、心理的な

信じることがむずかしいか考えないわけにはいきませんでした。

敗も含めて許される時期なのです。しかし、すでに引用した学生の発言からもわかるように、今の学生 意味でも使われます。短大の二年間、あるいは大学の四年間はまさにモラトリアムの時期といえます。 この時期は、あらゆる義務から自由になれる時期で、自分の力を鍛えたり、確かめたりすることが、失

それは、学生時代が、さまざまな義務から自由であるばかりでなく、権利からも自由であるという事情 す。だから、自分の力を発揮し、自分を発見することもできない状態に置かれているのです。そして、 にとってはなんと厳しく不自由なモラトリアムなのでしょう。今の学生生活では失敗が許されないので

のターニングポイント(折り返し地点)にすぎないのかもしれませんね。就職して、社会に出てからも そうしてみると、就職というのは、モラトリアムの終わりを意味するものではなくて、モラトリアム

によるものかもしれません。

ら一度、大学時代にできなかったモラトリアムを生きなければならないのかもしれません。

171 第6章 働 く

表VI-1 結婚後の女性の就業について

				家庭を守るこ とに専念する のがよい	子どもができ るまで働くの がよい	子どもをもっ て 働くのが よい	計(人数)
女子学生		短っ	大生	28. 4 %	52.2	19. 4	67
女子有職者		大学生		14.3	38.5	46.2	91
		髙	卒	18.7	54.8	26.3	598
		短大卒		21.1	48.5	30.1	266
	子	大	卒	14.3	38.5	47.3	91
男		未	婚	29.0	48.9	20.9	1241
		既	婚	37.3	40.7	20.5	268

注) 「結婚した女性が職業を持ち続けることについて、あなたはどのようにお考えですか」の 問いに、上記の三つの選択肢のなかから選ぶよう求められた。なお、調査対象は、1985年10 月1日現在、19歳から28歳までの全国の男女である。

資料) 総務庁青少年対策部『現代青年の生活と価値観』1986年。

表VI-2 自分の人生への願いについて

		生きがいとな る仕事をした	自分の生き方 をもった女 を	自分らしい生	計
		い	ありたい	き方をしたい	(人数)
女子学生	短大生	85.0%	16.4		67
	大学生	85.7	39.6	•••••	91
女子有暰者	高卒	71.6	14. 7	•••••	598
	短大卒	78. 5	18.4	•••••	266
	大 卒	91.2	40.7	•••••	91
専業主婦	高卒	60.0	8.4	86.8	190
	短大卒	64.1	16.7	91.0	78
	大 卒	78.5	28.6	100.0	28
全 体	男 子	87.3	15.0	93.3	1513
	女 子	74.2	19.3	92.8	1772

注)「生きがいとなる仕事をしたい」「自分らしい生き方をしたい」というのは、「そう思う」「ややそう思う」者の合計である。また、「自分の生き方をもった女性でありたい」というのは、「結婚相手にとってどんな女性でありたいか」(男性には「結婚相手としてどのような女性がよいか」)という問いたいける選択肢「1. かわいくて、夫に甘える女性、2. こまごまと世話をしてくれる女性。3. 夫に頼らず。自分の生き方をもっている女性」のうち 3. を選んだ者の割合である。

資料) 表W-1と同じ。

と小さい時からしつけられ、「お前は跡取りだからね」という親の期待にもこたえる形でここまで き た

就職は、親との関係の再考を迫られる機会でもあります。「おにいちゃんだからおにいちゃんらしく」

172

のに、親からの反対にあうというような場合も少なくないでしょう。 か」という気持ちがわいてきておさえられなくなったりします。あるいは、女性で自分は一生働きたい ものの、就職を考えるにあたって、「このまま大人になっていいのだろうか」「いったい誰の人生だろう 就職は、結婚とならんで、親から心理的に離れて自 立していく青年期最後のチャンスかもしれません。

親もわが子の成長にたのもしさを感じ、子離れをする決意を固めるのかもしれません。 親とおおいに議論するなかで、自らの目標とそのみとおしは鍛えられより明確になっていくでしょうし、

短大や大学を出て働くというのは、女性にとってごく一般的といえるでしょう。しかし、結婚後も職 ⋙ 女性にとって就職とは

者では「子どもをもっても働くのがよい」という意見が目につきます。一方、男性では、既婚者で「家 が最も多く選ばれています。最近の傾向としても、増える傾向があります。ただし、大学生や大卒有職 いるかを示したものです。これをみると、全体として「子どもができるまで働くのがよい」という意見

庭を守ることに専念するのがよい」という意見が多いのです。

業を持ち続けるかどうかはさまざまです。表M−1は、結婚後の女性の 就労についてどのように 考えて

< 173 というので、「それでも、 らに「自分の人生でこんなことをしてみたいとかいう夢はないの?」と聞きますと、彼女の顔が急に輝 思います。子どもが家に帰って来た時に淋しい思いをさせたくないから……」と答えました。私 は、さ が離れたらどうするの?」と聞きましたら、しばらく間があって「子どもが大きくなっても家にいると 時には、母親がそばにいたほうがいいと思うので」と言うので、「それなら子どもが 大きくなって'手 始めた人で「子どもをもっても働くのがよい」という意見が増えていることです。たとえ、一時であっ 好んで結 婚後も働くことはない」という意見もあります。しかし、ここで注目しておきたいのは、働き **ら声を聞きます。そして、彼女たちの希望するのは有名企業です。職場でいい男性をみつけて二、** いて、「私、スタイリストになりたいんです。無理だとは 思うけど、小さい時から 憧れていたんです」 やっぱり、私、器用じゃないから二つのことを同時にできないと思うんです。それに、子どもが小さい ても、就業は彼女たちの視野をひろげ、自立の厳しさと喜びを教えるのです。 もあります。 「幸せな結婚をして、特に満足ではないが 不満でもない 生活がおくれるのなら、何も好き ある女子学生に、「就職はどうするの?」と聞いてみました。彼女は、「結婚したら仕事はやめます。 また、「せっかく短大にまできたのだから低いところには就職できない」「安売りはしたくない」とい 退社という場合も少なくないそうです。企業の方も、それを見込んで採用しているという話 結婚したらやめるの?」と聞くと、「はい。だって、結婚して子どもを産むと

体の線だってくずれるでしょう? それに、仕事が不規則なので結婚生活と両立しないと思うんです」

174

と、彼女は明るく言いました。

という昔ながらの良妻賢母型の生き方を思い浮かべていました。と同時に、そうした良妻賢母型の生き 私は、彼女の話を聞きながら、「子どもの時は 親に従い、結婚しては 夫に従い、老いては子に従う」

M−2をみてもわかるように、専業主婦でも「生きがいとなる 仕事をしたい」という人は 多いのです。 方におさまらない 彼女の 願いというものがあることにも 気がつかないわけには いきませんでした。表 しら」「こどもが私を 必要としているから」と逃げ道をつくってばかりいたり、趣味が実益に 結びつく また、当然のことながら、「自分らしい生き方をしたい」と思っているのです。 しかし、男性に依存する生活に ドップリつかっているうちに、「もっと働きがいのある 仕事はないか

の好きなことをしたい。しかし、そうでないのなら、サッサと自分で職を見つけて働いて自分の好きな に、「たまのこしと結婚できれば家事も 育児もしっかりやって 相手に尽くす。そして、暇なときに自分 しかし、これも、「安定した 主婦業」が営める 場合の話です。い みじくも、ある女子学生がいうよう

ことを夢に見ながら、いざとなると一歩がふみだせないままに過ごすという場合も少なくないのではな

いでしょうか。

ことをする。その場合には、相手のどうのこうのというすじあいではない」という揺れを含んでいるの

いずれにせよ、人間にとって働くとは、他者に依存したままの生活を断ち切って、自らの人生を自ら

一 働くことと生きること

調査開始以来最悪の記録となりました。そのなかでも、特に、青年層(一五~二四歳)の失業率が高く、 今は確かに就職難の時代であるといえます。一九八七年五月の完全失業率は三・二%で一九五三年の

五・八%(男子五・八、女子五・六)というひどいものでした。そのため、新規学卒者の求人状況(企

業の採用計画)の伸びも鈍りました。一九八六年は前年度比が大卒予定者で一六・一%、短大卒予定者 で一三・五%の俥びだったのが、一九八七年では、それぞれ九・一%、三・二%の伸びに落ち込みまし

た。特に、短大卒予定者の事務系の採用が減少し、円高不況の影響が求人状況の悪化としてあらわれて

働 きています(『就職の基礎知識・昭和六三年版』ダイヤモンド社、一九八七年)。 <

第6章 学の一九八七年三月の卒業生九四八人のうち、各府県教委に正規の教員として採用されたのは三四一人 で三六%にすぎませんでした。そのうえ、一九八八年度の教員採用予定数は大阪府・市あわせて三〇〇 これは、企業だけではありません。たとえば、教師もたいへんな狭き門になっています。大阪教育大

人とさらに半減するという厳しい内容になっています。全国の教育系学生の平均は五〇%ですから、二

176

人に一人しか教師になれない状況にあります。

失業率の背景には、円高不況のほか、企業の海外進出など産業の空洞化や労働者の高齢化など、さまざ すでに、経済企画庁調整局は、完全失業率が「いつ三%台に乗ってもおかしくない状況にあった。高

まな要因があり、当面は好転の材 料は見当たらない」とコメントしていました 『朝日新聞』 一九八七年三

利潤を追求しようとするなかで、作られた就職難でもあるのです。 れたものといえるでしょう。円高不況といわれるなかで、さらに国民にしわよせするかたちで企業が高 ですから、就職難は一時的なものではなく、日本経済そのものの構造的な「危機」によって産み出さ

権利としての男女平等

男女平等の道がつくられました。この法律は男女の差別的待遇の撤廃と、結婚や出産などで退職した女 会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律」(以下、略して「均等法」と呼ぶ)が施行され、 女性の就職は狭き門とされていましたが、一九八六年四月より「雇用の分野における男女の均等な機

問」とする企業が三六%から七九%に増えたりしました。 ところが、実際にふたをあけてみると、昇進もあり研修も受けられる総合職と、補助的な仕事しか与

性の再雇用の保障がセールスポイントになっていました。そして、この法律の施行後、求人で「男女不

第6章 働 して子どもができたら わからないけれども、独身のうちは 海外転勤してもいいという場合には、「海外 亮監修・前掲書より)。まず、面接で「海外への 転勤もできますか」と聞かれた時の 答え方ですが、結婚 (『銀行新報』一九八六年七月三日、本多淳亮監修『コース別管理との たたかい』学習の 友社11九 八七年、七一ペー を崩していっそうの賃金格差を生み出すとともに、男性は総合職ということで会社の意のままに転勤さ されて断念するという話まであります。コース別人事制度は、従来の男女同一の賃金体系制度そのもの 「全国各地に転勤してもらわねばならないがいいんですね」「海外への転勤もありますよ」といって脅か 説得され、女性が総合職を希望すると「このコースを選ぶんだったら結婚はあきらめてもらいますよ」 採用された女性はごくわずかなものでした。しかも、女性が――もちろん男性も――自分のライフスタ えられない一般職との二本立てというコース別人事制度を採用する企業が増え、その上、総合職として 隔地への転勤の有無にありますが、弁護士の 寺沢勝子氏は、次のように アドバイスしています (本多淳 で男子八九五○人にたいして 女子五○人、一般職では、男子 四○人にたいして女子 三九六○人でした せられる可能性もでてきました。ちなみに、住友銀行の「新人事制度」による男女別の構成は、総合職 イルにあわせて選べるというものの、男性が一般職を希望すると「それは女性のためのものだから」と もちろん、狭き門とはいうものの不可能な道ではありません。総合職と一般職の最も大きな違いは遠

転勤もしてみたいです」と答えるのがよいでしょう。いずれにせよ、将来、海外を含む転勤の可能性が

178 あるからといって女性を総合職にしないというのは、「均等法」に反するものです。 世界の流れも日本の流れも、男女平等の 方向に大きく 動いています。"狭き門" にチャレンジしてい

くなかで、事態を改善する可能性や仲間がみえてくるのではないでしょうか。

力して取り組まなければならないのに女性が一方的に期待される問題との二つを区別しておくことは重 か、という問題に直面します。妊娠や出産など女性であるがゆえに必然的に直面する問題と、男女が協 女性が職業をもつという時、今の社会では、家事や育児、老人介護や地域活動などとどう両立させる 職業と生活の両立について

バイターや派遣労働者が注目されていますが、高い専門性を持っている人以外はそういうわけにはいか 雇用されるのは ごく少数の人にすぎません。また、「好きな時に 好きなだけ働ける」というフリーアル いっても、現実には、厳しい枠がはめられていて誰でも再雇用されるわけではなく、正規社員として再 れたら 再就職するというものです。「均等法」の狙いもここに あったわけです。しかし、再雇用制度と

さて、職業と生活の両立のさせ方の一つは、出産・育児時にいったん仕事をやめて、子どもの手が離

そこで、第二に、家族で家事を分担するという方法があります。三世代家族で両親同居の場合には、

ないようです。

両親に面倒をみてもらうことがで きます。しかし、夫の協力となると難しいのが現実でしょう。それは

根強い伝統的性役割意識だけでなく、男性にたいする長時間労働の問題もあるからです。

の法的・社会的整備をすすめることがどうしても必要となっています。 そこで、第三に、 労働時間の短縮や保育などの公的扶助制度の拡充、 男女両性の育児休暇の保障など

必ずしも支持的でないことがあげられます。女性が働くという当然の権利、男性も自分の生活をたいせ 倒をみないで働くのは自分勝手すぎないか」といり罪悪感や不安感があります。心理学的には、完全主 つにするという権利、これらの権利を実現するための法的な措置がどうしても必要だと思われます。 義的傾向のある人にこうした悩みは多いのですが、問題は、社会の側がこのような女性労働にたいして 職業と生活の両立ということでの女性の悩みに、「家事の手抜きをしていいのか」「母親が子どもの面

\equiv 人間らしく働く権利

<

のが特徴です。 細分析報告書』総理府青少年対策本部)。その一方で、日本は ストライキなどの 労働争議が 際立って少ない 日本の働く青年は、世界でも最も職場への不満が 高いといわれています(『世界青年意識調査(第三回)

第6章

働

職場の不満をどうするか

180 さいますか。リストの中から 選んでください」の問いにたいする回答を示したものです。表∀−3をみ 表Ⅵ−3は、「かりにあなたが、新しくできた会社に雇われたとします。しばらくしてから、雇われた 給料とか働く時間などの労働条件について、強い不満が起きたとしたら、あなたはどうな

ると、「できたばかりの会社で、労働条件はしだいに よくなっていくと思うから、しばらく事態を 見守

る」という「静観」が最も多く、また増えています。その一方で、「みんなで 労働組合をつくり、労働

バラになり、孤立した結果でもあります。自律的な職場集団とは、たとえていうと反骨精神旺盛な職人 気質の人たちの集 まりで、その棟梁が会社の役員と仕事のことでやりあうというような感じです。今日 条件がよくなるように活動する」という「活動」が減少しています。 こうした意識の変化は、 自律的な職場集団の解体と労働者間競争の激化により、働く者どうしがバラ

場に迷惑をかけたくない」という「同調」意識によって強化されていることの方が多いのではないでし が優先し、 げる役目も果たしていることが多いのです。こうして、労働と生産の論理よりも企業の利潤追求の論理 に位置し一定の人事権を持つ中間管理職であり、また、企業別組合の役員として労働者の不満を吸い上 て偉くなりたい」という出世意識によるよりも、「同期生に遅れたくない」という「平等意識 では、そのような意味での棟梁がいなくなりました。職場での作業を統括するリーダーは、企業の末端 職場は、業績競争・忠誠競争の 修羅場と なっているのです。しかも、その競争は、 「出世し

ょうか。

表 VI-3 職場の不満の解決法

(単位:%)

	1973	1978	1983
できたばかりの会社で、労働条件はしだいによくなっていくと思うから、しばらく事態を見守る。 (37.2 <	< 41.6 <	< 47.6
上役に頼んで,みんなの労働条件がよくなるように, 取りはからってもらう.(依頼)	23.6	> 21.6	22.4
みんなで労働組合をつくり、労働条件がよくなるよ うに、活動する. (活動)	31.5	30.7	> 25.1
その他	0.1	0.1	0.2
わからない、無回答	7.7	5.9	4.6

注) 「かりにあなたが、新しくできた会社に雇われたとします。しばらくしてから、雇われた 人々の間で、給料とか働く時間などの労働条件について、強い不満が起きたとしたら、あな たはどうなさいますか、リストの中から選んでください」の問いに、全国の16歳以上の男女 に個人面接法により調査したもの。

資料) NHK世論調査部(編)『現代日本人の意識構造 第2版』日本放送出版協会,1985年。

表 VI-4 権利についての知識

(単位:%)

	1973 1978 1983
思っていることを世間に発表する*	49.4 > 45.8 44.0
税金を納める	33.9 35.5 < 39.8
目上の人に従う	5.6 5.7 < 8.3
道路の右側を歩く	19. 9 19. 3 18. 8
人間らしい暮しをする*	69.6 69.6 < 77.2
労働組合をつくる*	39.4 > 36.0 > 28.9
わからない、無回答	7.8 7.0 > 4.3

注)「リストには、いろいろなことがらが並んでいますが、このなかで憲法によって、義務ではなく国民の権利ときめられているのはどれだと思いますか、いくつでもあげてください」の問いによる。なお、*印が正答で、上から順に「表現の自由」「生存権」「団結権」である。 資料)表U-3と同じ。

τ82 で「勤労者の団結する権利及び団体交渉、その他の団体行動をする権利は、これを保障する」とうたわ また、「団結権」そのものを知らない人が 増えているともいわれています。 日本国憲法の 第二十八条

◎ 権利の知識が乏しくなっている

おって減少しています。特に大学生では、この一〇年間に六四%から四五%へと著しく減少しています。 つことを促進することにより労働者の地位を向上させる」ための当然の権利であるとされています。 ところが、表∀−4をみると、「労働組合をつくる」が国民の権利であると正しく答えられる人が年を

れ、労働組合法第一条で、労働組合をつくることは「労働者が使用者との交渉において対等の立場にた

せよ、権利という言葉の響きをあまりよしとしない雰囲気がつくりだされてきた結果かもしれません。 それでも、「人間らしい暮しをする」の項目の 肯定が一九八三年になって 増えていることに注目しな 憲法によって定められている基本的人権さえ知らないという状況は、一定の政策によるものであるに

いわけにはいきません。

※競争から協同へ

ある自動車工場では、朝夕、門のところで「道路は譲り合って安全運転を」という次のようなたとえ

うとしていました。二匹は、自分が先に行くことばかりを考えてお互いに譲り合わなかったために、二 話がスピーカーで流されます。昔、谷に一本の丸太がかかっておりました。二匹の鹿が反対方向に行こ

ことなのです。 対策であることも明白でしょう。 「権利ばかり 主張していたら、会社も労働者も 谷に落ちるぞ」という 合いましょう、というのがその話の内容でした。交通安全の注意を喚起しながら、その一方で労働組合 匹とも谷のなかに落ちてしまいました。だから、自分の権利ばかり主張するのではなく、お互いに譲り

鹿」の話は、対等・平等の関係におけるモラルであって、それがあたかも弱者と強者とのあいだにもあ てはまるかのようにいう――これが、その秘密です。「譲り合い」を強者が 主張する時、それは 弱者の 一方的な譲歩を求めることにほかなりません。そして、労働者間の競争は、この「譲り合い」の競争な しかし、このたとえ話に含まれる レトリックを見抜くことはそれほど 困難ではありません。「二匹の

す。 なモラルがありますが、熊沢誠氏は、労働社会の自治的なルールとして、次の六つの項目をあげていま のであり、労働者自らを安売りするという値切り競争なのです。 (2) (1) (3)むしろ、「二匹の鹿」 の話は、労働者間の 競争への戒めと 考えるべきでしょう。労働者にはさまざま 仲間に迷惑をかけないために働きすぎないようにしよう。 しかし同じ理由から、怠けすぎないよ 誰かがいつも 得な仕事に別の誰か みんな一人前に仕事ができるようになろう。 がいつも損な仕事についていることのないようにしよう。

うにもしよう。

- (4)
- (5) とくに困窮した仲間を助け合う仕組みをつくろう。

賃金を標準化しよう。収入の格差が大きくならないようにしよう。

決してストライキ破りをしないようにしよう。

(6)

(熊沢誠『ノンエリしなり ようにしよ

お互いの仲間をたいせつにし、職場に人間らしい労働をつくっていくことは働くものの権利でもあり、 (熊沢誠『ノンエリートの自立』有斐閣、一九八一年、六一~六二ページ)

義務でもあるというべきでしょう。



そ の 田

> 鎖 良

尚

在働いている女性のなかでほんとうに働きたいから、生きがいを感じて働いている人はごく少数だと思 女性が働く、生きがいを持ち一生仕事をしていくことは、すばらしいことだと思います。しかし、現

<

185 出しました。それまでは専業主婦でしたが、父が亡くなり私達兄弟や祖父母の生活のために働きだした のです。生きがいを持って働くのではなく、生きていくために働いているのです。私は、母を見ている とやはり働きに行く以前の母の方が母らしかったと感じ、家に居てほしいと思います。実際、 母ぐらい

なぜなら、私は母の姿を見てそう感じざるをえないのです。母 は九年前に父が亡くなって初めて働き

の年代で働いている女性のうち、自分の生きがいのために働いている人は少ないと思います。そのほと

186 ーでパートをしています。少しでもいい生活をしたい、少しでも贅沢をするためのお金を得るのに働い んどの人が、経済的な理由で働いているのです。友人の母親も、家のローンや教育費のために、スーパ

りしてしまうので困っていると話をしてくれました。この話を聞くかぎりでは、男性と女性との仕事に ているのであって、仕事をすることには、あまり関心がないように思われます。 日で済む仕事を女子社員は三日でする予定を立てるし、仕事に行きづまるとすぐに休んだり、やめた では、若い女性は生きがいを持ち、バリバリ仕事をしているのでしょうか。 先日、兄と話をしている時、会社の女子社員の話が出てきました。兄によれば必死 になってやると

このように、女性の仕事にたいする考え方は男性よりもかなりさまざまであり、さまざまであるから、

「女性と仕事」は、結びつきにくいのではないでしょうか。

たいしての考え方は明らかに違うといえます。女性にはいざとなれば逃げ道がある、一方、男性にはそ

れがない、といわれてもしかたないように思います。

ないが、人が生活し、子どもが育つ上で重要な仕事であると思います。見方をかえれば、社会で働くこ 結婚して、家庭に入ったらいいのではないかと思います。また、家事や育児という仕事はお金にはなら 最後に、私個人の考え方としては、女性は数年社会に出て働いてみて、世の中を見る目を養ってから

とよりも、大きくすばらしい仕事だと思います。

(大阪教育大学四回生)

「大学生にとって就職とは」というところで、これはまるで 私のことを 書いているのでは

小

美 穂

<

187

第6章 働 思いたくなりました。なぜなら、就職問題に 対面したこの 一年、私が悩んでいたことが、"いったい 望である教師になりたい気持ちさえも見失いかけました。しかし、悩んだ末、やはり教師になる道を、 教員採用の激減している大阪に残るには、民間企業に行ってもかまわないとさえ考え、自分の第一の希 ていました。また、父母もいずれは大阪を離れて郷里の石川県に戻るのだから、石川県で教師になるこ らったため、祖父母の住んでいる石川県で教師になってもらいたいという期待に応えてあげたいと思っ の人生だろうか』という言葉そのものだったからです。跡取り娘だからと祖父母には特別大切にしても 講師としてしか合格できなかったので、来年こそは正式な教師になれるようがんばりたいと思います。 県の方は教師になれる可能性が高いのなら、それにかけてみようと思います。今年の教員採用試験では、 最終的に選びました。そして大阪だ、石川だとこだわることはやめようと思うようになりました。石川 と考えられず、自分の人生を勝手に決められてしまったように思われ、素直に納得できませんでした。 とが当然最も良い道だとも思っていました。しかし、私 自身は大阪に生まれ育ったため、石川県を郷里 'かしながら、私が選んだ道は、他人からは勝手気ままに見えるのではないかと思います。なぜなら、

ていると感じています。 らです。また、女性が男性に比べて、就職していなくても社会的に許されている状況に、私自身甘んじ に、早く決まった職業に就かなければいけないという事情で、教師になることを諦める人が大勢いるか 同じ教育大学の友人のなかには、どうしても教師になりたいが、長男だから、または家計を助けるため

結婚・出産した後、子どもが私を必要としているからと言って、就職を考えないことを逃げ道だとして もし男性の労働時間の短縮、男女両性の育児休暇の保障などの法的・社会的整備がすすめば、必ず変化 いますが、子どもが必要としていると考えて家庭に入ることは、逃げ道でなく真実だと思います。 してくるでしょう。まず公的な制度を思いきって改革していけば、男女の職業観も変わっていくと思い っていてくれるのが羨しくてたまりませんでした。教師になりたいことと、家庭に入ることは矛盾して いるが、それは絶対に間違っていると思います。私は共働きの家庭で育ったから、母親が鍵を開けて待 最後に、女性の結婚後の生き方について、白井先生に一言いいたいことがあります。先生は、女性が しかし、それが母親にたいしてのみ考えられるのは、男性への長時間労働等社会制度のためでしょう。

(大阪教育大学四回生)

青年期の心理学的課題をとりあげるばあいに、 青年を対象としてではなく、問題としてとらて いこ

思います。

うとするアプロ

1

チの基本姿勢の設定について、

わたしはその基本的な考え方を全幅的に支持したいと

< 生活意識、③ 女性労働と生活サイクル、④ 立した章構成となっております。 本章のタイトルが "働く"となっており、 そのナカミは、 労働の権利と権利意識、 1 職業選択と自立の問題、② の四本柱で構築され、 ひとつの独 労働意識と

たいへんに不透明で、その真相の見えにくい仕事の内容となっていくことと思われます。 を核として切りこんでいこうとする心理学的な試みは、けっして平坦で直截的なものではなく、むしろ

考えれば考えるほど、こんにちの青年の問題に、その生育史という時間的展望にたって『労働』

問題

18₀

第6章

働

わたしたちがこのような研究テーマをとりあげるばあいに、 特に留意しておかなければならないこと

190 とらえられる労働過程におかれているということです。研究対象として設定されるところの心理過程な いし社会過程、もしくは生活過程は、どれも労働対象ならびに労働手段との結びつきでとらえられると

は、青年の問題の対象が、特定の産業社会構造における個別労働それ自体ではなくて、生産過程として

ころの労働過程として顕現化しているということです。

リーですが、労働過程そのものはほんらい、そのような社会関係を捨象した概念としてつくりだされて いるのです。 る資本制社会の労働過程であるということです。資本制労働過程は、それ自身がひとつの歴史的カテゴ そしてさらにいえることは、その対象は労働過程一般ではなくて、歴史的なひとつのカテゴリーであ

したがって、労働過程一般を問題とするばあいには、どうしてもその社会・歴史的制約の要因を考察

論のように描きだされる科学論や認識論の立場は、現実の生活社会の諸事象を心理学の立場からとりあ とつの特徴があります。したがって注意しなければならないことは、一見したところ純粋で中立的な理 学的なとりくみの対象となるばあいは、それが特定の社会関係に規定された自然現象であるところにひ することは第二義的な意味しかもってこないこととなります。このように労働関係とか生活関係が心理

ため、その厳密な科学的な規定性を欠いたまま使われていることが多いように思われます。ふつう『生 また生活というコトバも、労働の意味やそのナカミと同じように、あまりにも日常的、身辺的である

げるばあいに、一番警戒し用心してかからなければならないということです。

第6章 < という"いのち"と"くらし"と"いきがい"の多重層構造のなかに息づいている概念なのです。 ん。"生活』のもっている多重層構造は、lifeというコトバそのも爬も あらわれています。 活』というと、「消費生活」を基軸とする私的な経済生活と 同格に扱われたり、また子どもの 生育や労 には生産関係、労働関係、人間関係、社会関係、……その他の表示方法をもちあわせているのです。 ための枠組みの構築が大前提とならなければなりません。 活』の状況分析と構造分析、そして機能分析の三つの分析をとりいれた総合的な生活行為の体系分析の きよう(いきがい)、とする過程であり、これらが 相互に関連しあって 創出される力動的な事態のなか たようですが、生活はなにもそのような「消費生活」とか「家庭生活」に限局されるものではありませ 働力の再生産のためにつくりあげられた血縁集団としての「共同生活」と同義語化されることが多かっ ナカミについて、わたしたちはその『生活概念』として、生産、労働、科学・技術、実践、言語、さら から生活行為の体系がつくりあげられてくるのです。したがって 青年の問題の 心理学的分析には、"生 life は 一般的には、 ① 生命・生存・いの ち、② 生活・生計・くらし、③ 人生・生涯・いきがい、 このような構造的特性をもっている、生活環境との相互関連のなかからつくりだされる『適応型』の 青年の問題を心理学の立場からとりあげるばあいに、いつでも、きまって全面的に浮上してくる目標 わたしたちの生活過程は、生存を確保し(いのち)、生計をたて(くらし)、よりよい生涯=人生を生

191

(理想)、価値、創造性、発達、意欲、自発性、生きがい、自己実現(自己充実)といった概念はすべて、

192

そのなかで

このような行動特性をもっている人間の生活行為の内実としてとらえられていかなければなりません。

青年期のパーソナリティが不断にかかわりあい をもっている歴史・社会的次元における

行動的環境の特質が、生活・労働の心理学的なアプローチによって科学的に正しく検討されていかなけ

ればならないでしょう。このようにしてはじめて、青年の問題における生活・労働の状況および活動の

心理学的究明の枠組みを創設することがで きるようになる、と思います。

(中央大学文学部教授)

ン映画が世界の注目を集めました(監督は日系二世のジェー・T・ムラカミ氏)。 イギリスの 田舎町

九八七年、イギリスの絵本作家レイモンド・ブリッグズ原作の『風が吹くとき』というアニメーシ

「風」を感じる

あかちゃん ゆりかご なにもかも えだがおちたら ねんねんころりよ きのこずえ かぜがふいたら ゆりかごゆれる ゆりかごおちる

(谷川俊太郎訳『マザーグースのうた』草思社)

荒 杉 尾 田 貞 明 彦一宏

藤

武

194 ジュ』一九八七年九月号、徳間書店)。 一本のアニメーション 映画が これだけの 反響を 呼んだのはなぜでし では五○万人もの観客を動員したと言われます(ジミー・T・ムラカミ監督来日記念インタビュー」『アニメー 「生き残った」ものの、放射能に冒されて 死んでいく過程が克明に 描かれています。西ドイツ、イギリ でのんびりと年金暮らしをしている老夫婦ジムとヒルダが、ある日突然核戦争にまきこまれ、ひとまず スをはじめとしてヨーロッパ各国、日本、アメリカ等二○ヵ国以上で上映され、とくに西ドイツと日本 ょうか。それを考えるまえに「ものがたり」と原作絵本の一部を見ておきましょう。

ものがたり

感がない。やがて、敵ミサイルが三分以内に飛来すると告げるラジオ。一瞬の閃光と凄まじい爆風。 イツだったか時々わからなくなるし、ヒルダは「どうせすぐ終わるんでしょう」とどことなく危機 ットに従って、壁にドアを立て掛けるだけの核シェルターを作りはじめるが、敵がソ連だったかド る日、ラジオニュースが国際情勢が緊迫し、戦闘準備に入ったことを告げる。ジムは政府パンフレ

イギリスの田舎町で静かに年金暮らしをしている素朴でのんびりとした老夫婦ジムとヒルダ。あ

すら政府の救助部隊を 待ち望む。しかし、しだいに 放射能に冒され、「原爆症」に苦しみながら静 二人はなんとか生き延びるが、すべてが破壊しつくされたことがのみこめず、慰め合いながらひた

かに死んで行く。「政府はきっと助けに来てくれる」という言葉を残して……。

あまりに重苦しくて、できれば近づきたくないこのテーマが、なぜ、これほど多くの人々を引きつけた なり、一○ヵ国語に翻訳されるような広がりがあったことは見落とせないでしょう。しかし、そもそも、 さてこの反響の前提として、八二年に出された原作絵本がイギリス国内で五○万部のベストセラーと

に至った」と言われた年でした。この年、ニューヨークで開かれた第二回国連軍縮特別総会に向けて、 原作がヒットした八二年というのは、実は、反核運動が「人類史上初めて地球的規模の広がり を持つ

平和を創る 界各国で大規模なデモ・集会が実行されました(岩波書店編集部『核兵器と人間の鎖』岩波書店、一九八三年)。 の正午を合図に取り組まれました。世界で最初に二四日を迎える日本を皮切りに、ソ連、 東京四〇万人、ローマ三〇万人、ロンドン二五万人、ボン四五万人、ニューヨーク一〇〇万人など、世 目標に掲げた「平和の波 (Peace Wave)」という共同行動が世界の五大陸、四三ヵ国で、それぞれの国 それから五年たった一九八七年。国連軍縮週間の初日に当たる一〇月二四日、核兵器の廃絶を共通の アジア、東西

195 動をはじめ、平和コンサート、平和マラソン大会といったイベントなど、創意あふれる企画が地球を一 周したのでした。これだけの国々の草の根の人々が、核廃絶という一つの目標、一つの名前の企画のも とに行動したということはかつてありませんでした。 ーロッパ、南北アメリカ等を経て、最終地のタヒチに至るまで、大小さまざまな集会、デモ、署名行

〇いつもと変わらぬ朝









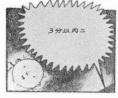




○あと3分で核ミサイルが……









197 第7章 平和を創る



○ひたすら政府を信じて……













出所) レイモンド・ブリッグズ (小林忠夫訳)『風が吹くとき』(篠崎書林) から.

人々に戦争(とりわけ核戦争)を予感させるほどの深刻な「現実」を持っているということは想像に難

八〇年代に入ってからのこうした 世界の人々の 大きな動きと、『風が吹くとき』のヒット――直接関

グースの歌の 一節です。この歌は、「思い上がった人々や、野心的な 人達への戒め」の意味があるそう です。その「風」は、今日、核の爆風そのものであるとも言えるでしょうし、戦争へと傾いて行く時代 の流れであるとも言えるでしょう。多くの人々が、若者が、この「風」を感じ始めている――そういう

絵本と映画のタイトルに使われた『風が吹くとき (When the wind blows)』は、本章冒頭のマザー

ことではないでしょうか。

を感じているかも しれません。世 のなかの 動きがなんとなく「アブナイかな」と思う。「まちがって核 これを読んでいるあなたも、もしかすると、すでに、なんとなく(あるいは、はっきりと)この「風」

るとしたら、それは「思い過ごし」とか「一時の気の迷い」とか「被害妄想」といったものではなく、

かな」といった不安がふと頭をかすめたりする、核戦争の夢を見たりする――そんな体験が一度でもあ ミサイルが発射されたりしないだろうな」、「一発落ちたら終わりだな」、「一〇年後って人間は生きてる

「風」を、まぎれもない現実世界の危険な動きを 敏感に感じ取っている証拠です。その感性は 信頼でき

んか。それとともに、この問題に、今、取り組んでみることが、青年であるあなたにとってどんな意味 脅かすその「風」の正体――どこから、どうして吹いてくるのか――をつきとめてみようではありませ あなたが、もし、その「風」を感じるだけの感受性を持っているのなら、もう一歩進んで、あなたを

二 「風」の正体

があるのかということも考えてみようではありませんか。

さて、日本に住んでいる私たちは、

政府のいうがままを信じて死んで行った先のジムとヒルダの無知

゙あなたの「平和認識度チェック」

平和を創る や世界をどれだけ正しく認識しているか、ちょっとクイズをやってみましょう。 を笑ってすますことができるでしょうか。平和の問題にかんしてあなたが、過去、そして、現在の日本 鉛筆を探してきてください。

では、始めましょう。 ありましたか?

答ヲサキニミナイヨウニ・・・・・

I Q 4 Q 3 Q 2 Q 1 Q1からQ6までは、第二次世界大戦にかんするものです b a イ,約三万人 ロ,約三〇万人 ハ,約三百万人 ニ,約三千万人 ホ,約三億人 人々の死者の数は、兵士・市民を合わせて約何人? この戦争による日本人の死者の数は、兵士・市民を合わせて約何人? 広島 約二万人 中,約二〇万人 八,約二百万人 二,約二千万人 小, 中国で、捕虜にたいして残虐な人体実験を行っていた日本軍の部隊名は? 広島と長崎に原子爆弾が投下されたのはいつ? この戦争で日本軍は、アジアを戦場としました。この戦争による日本人以外のアジアの 一九四五年 一九四五年)部隊 月へ 月(日 日 約二億人

Q 5

広島と長崎への原子爆弾投下によって、その年の内になくなった人々の数は?

d.

Q 9

日本の軍事費は、

アジアで何位?

また、

世界では?(社会主義国を除く)

Q 6 1 b 1. a. 長崎 約七〇人 約一四〇人 広島 共産主義者をはじめ、 μ. Π. 約七百人 約千四百人 自由主義者や宗教者、この戦争に反対した人々を弾圧した法律の名 ハ、約七千人 ニ、約七万人 ホ、約七○万人 約一万四千人 =. 約一四万人 ホ. 約一四〇万人

I Q 7 Q7からQ12までの質問は、現在の日本と世界にかんするものです 前は? 日本に米軍基地を置くことを承認している条約の名前は?(法

Q 8 a, 次にあげる都道府県は、米軍基地の数での上位四位ですが、その順位は? 長崎県(位 b_. 東京都(位 c_. 沖縄県 位 位

神奈川県 位

a アジアで 位

b 世界で 位

Q 12 Q 10 約一○% □、約二○% 八、約三○% 二、約五○% ホ、約八○% 約五百発 いま、世界中にある核弾頭の数は? 高校三年生のうち、自衛隊への人隊勧誘を受けるのは、毎年全体の何%くらい? 日本の国是である非核三原則とは、日本は核兵器を「持たず」、「作らず」と、あとは何? 口. 約五千発 ハ・約五万発 ニ・約五○万発 ホ・五百万発 (答は二二)〇ページ)

▓ いま日本と世界は

さて結果はいかがでしたか?(難しい問題とやさしい問題とを取り混ぜてみたつもりだったのですが。

す。この戦争で日本軍の犠牲になった中国人(このなかには多数の民間人が含まれています)が、日本 Ł, 割ってみると、アジアの犠牲者は日本人の約七倍近くということになります。あなたの答えで計算する 第二次世界大戦における日本人の被害とアジァ人の被害を比べるために、Q2の正答をQ1の正答で 一倍以下だったりしなかったでしょうか。アジア人死者のうち半分にあたる約一千万人が中国人で

働をさせた果てに多くの犠牲者を出したこともここで述べておきましょう。 捕虜にたいして残虐な人体実験をした関東軍七三一部隊の所業も忘れてはならない事実です。 たいしては、一九一○年から一九四五年までのあいだに約七○万人を日本に 人死者の三倍以上いることを今初めて知った人がかなりいたのではないでしょうか。 「強制連行」し、 中国では、 過酷 朝 多くの 鮮人に

人までの非戦闘員にも無差別かつ大量に被害を及ぼしました。しかも、核戦争の特徴として、その被害

日本の国民も多くの犠牲者を出しました。広島と長崎の原子爆弾は、

戦闘員だけでなく、乳児から老

平和を創る のです。 が今日にいたるまで続いているのです。 子育ての悩みを持ったりと、生活全般に被爆の影響が及んでいます。心理面では、自身の発病や老後の 不安とともに、子や孫といった次の世代にも不安が及び、死の恐怖と隣合わせに生きている人が多いこ した人は全体の三分の一以下で、長期入院や通院をほとんどの人が経験し、現在も病気がちの人が多い 生活面では、 被爆者手帳所持者は三六万人以上ですが、健康面では被爆直後のけがややけどがすっかり回復 被爆によって生活が苦しくなったり、仕事や就職で悩んだり、 結婚·家庭生活

戦争での唯一の被爆国であるニッポンの四○年後の現在の姿は……。

203

らなくす」ことをあげています(日本原水爆被害者団体協議会『原爆被害者調査――第一次報告』一九八六年)。 とが明らかにされています。そのなかにあって、三人に一人が生きる支えとして「核兵器をこの地球か

自らも多数の戦争犠牲者を出したニッポン、核

アジアの人々への加害者として断罪されたニッポン、

204 る安保です。世界の軍事的覇者に絶対的服従を誓っている日本は、対ソ核戦争の第一出撃基地の場所を 半数(三〇)が首都圏に集中しています。これらの基地の存在の法的な根拠は日米安全保障条約いわゆ

狭い国土に一〇〇以上の米軍の基 地があります。最も基地の多い県、沖縄を除く本土の米軍基地は、

に多額の 税金が使われている……これが「独立国」ニッポンの現状です。 一九八七年にGNP一%枠を突破した「防衛」予算は、ひとりあたり年間三万円以上の負担を国民に

パックという日米海軍合同演習では、自衛艦の役割は米空母を守ることでした。外国の軍隊を守るため 提供しているのですから、再び核戦争の被害地となることを自ら買って出ているようなものです。

リム

除く)の額だといわれています。しかも、さらに、憲法違反の自衛隊の隊員募集は、高校生の就職難に 0の軍事費算出の方式で計算しなおすと、なんと、アメリカ合衆国についで世界第二位(社会主義国を 負わせています。中学・高校で、この軍事費を世界第八位(社会主義国を含む)と習った記憶のある人 いるかもしれません。しかしこれは日本の 軍事費が少なく出る方法で算出した結果であり、 N A T

のです(本書収録の日本国憲法前文を改めて見てみて下さい)。 ような、軍事大国化への道は、戦争放棄と戦力不保持を宣言した日本国憲法の平和主義と相容れないも い言葉で(事実と 違うことさえ言って)、日本の青年たちに銃を 取らせようとしているのです。以上の 職がいい」「今隊員になっておけば、徴兵制が しかれ有事になった時に前線に 出なくてすむ」等々の甘 もつけこんで巧妙、強引に 進められ、学校や自宅に 自衛官がやってきて「資格が取れる」「除隊後の就

なぜ「風」に気づかないか

認識を閉ざす巨大な「しくみ」

ちは、どうして自分の未来を決定するようなたいせつなことを知らないでいるのでしょうか つもりです。 「大切なことを 意外に知らなかったんだ」と思 った人が 多いのではないでしょうか。 私たちは、日本や世界の不幸な歴史や現状、その歴史に学んで日本が進むべき道を指し示した日本国 ここまで、無気味な「風」が、過去と現在の日本と世界から吹き寄せているということをのべてきた

平和を創る 『平和クイズ』のような問題は試験には 出なかったし、授業や教科書にも 出てこなかったし、できなく では歴史・公民、高校では世界史、日本史、現代社会、政治経済といった 社会科の 授業です。「でも、 に獲得するのに最も適した場は学校教育でしょう。なかでも社会科学的な知識を身につけるのは、中学 て当たり前だ」という反論も出てきそうです。ほんとうに知らなくてもいいのでしょうか。教科書に書

かれていないとか、試験にでないということが、実は、私たちの認識を閉ざす役割を果たしている、そ

争体験者の話し、科学者の著作など、さまざまなメディアがあります。しかし、こうした知識を系統的 憲法にかんする知識を何から得ているのでしょうか。新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのマスコミ、

206

ここで、私たちが受けていた授業や使っていた教科書がどのようになっていたのかを少し考えてみよ

らではありませんか。

削られた授業時間

学的な認識は、授業時間数という物理的なものによって、まず、身につけるチャンスを制限されている が不十分なまま高校を卒業しても不思議はない、ということになってしまいます。このように、社会科 では、一 九八二年から現行の学習指導要領が適用されている)に高校に入学した生徒は、歴史的な認識 する教科を選択しないでもすむ、ということになってしまいます。こうなると、一九八二年以降

(高校

倫理・社会は選択科目になりました。高校の社会科の必修単位数は四単位ですから、歴史にかん

られたのです。中学校でも、歴史と公民がそれぞれ一時間ずつ削減されました。

そして、高校では、「現代社会」四単位が 唯一の必修科目として 設けられ、世界史、日本史、

削減されたのは、四年生以降の授業時間です。つまり、歴史や政治経済にかんすることを学ぶ部分が削 れています。この学習指導要領では、社会科の授業時間は小学校で一週間あたり三時間削減されました。

小・中学校、高校で現在行われている授業は、一九七七年に発表された学習指導要領に基づいて行わ

今、日本の学校で使われている教科書は、すべて文部省の検定をパスしなければなりません。当初、

題」と題した文書を発行し、教科書が「偏向」していると、批判のキャンペーンを行いました。次に教 教科書の検定は、誤植や記述の明らかな誤りをチェックするだけのものでした。ところが、一九五五年 に当時の政権党だった 民主党(後に 自由党と合同して 自由民主党となる)が「うれうべき 教科書の問

中戦争や太平洋戦争で日本軍が行った残虐行為や、沖縄戦、原子爆弾の被害などの記述に厳しい規制を 問だらけの中学校教科書』(ライーワ社)を出します。こ れを機に教科書検定はいっそう 厳しさを増し、 科書にたいする規制が強まったのは、一九八○年代のことです。一九七九年に石井一朝氏が「新・憂う 加えました。このことがアジアの国々から激しい批判を受け、国際問題にまでなったことは記憶に新し べき教科書の問題」を雑誌に発表したのにつづいて、一九八一年には、森本真章氏、滝原俊彦氏が『疑

平和を創る 多くありますので、それらを用いて 学習することをおすすめします (巻末参照)。ところで、どのような 内容が、教科書検定でそんなに厳しい規制を受けるのでしょうか。この点を少し具体的に見てみましょ 学習指導要領と教科書検定の移り変わりや、その背景にある政治・経済の動きについては、良書が数

表別 – 1は、江口圭一氏が自らも執筆した 教科書の検定結果を 示したものです(江口圭一「一五年戦争

表/11 文部省検定でつけられた意見の分野ごとの比較

区	分	章数	数	・- ジ 比率(%)	A 意見	B 意見	意見総数	意見比率	1ページ当 り意見数
原始	古代	4	78	23.0	70	82	152	17.5	1.95
中	世	2	52	15.3	49	83	132	15. 2	2.54
近	世	2	80	23.6	87	113	200	22.9	2.50
幕末~	-日露戦後	2	66	19.5	76	7 9	155	17.8	2.35
第一次	大戦~現代	3	63	18.6	95	136	231	26.6	3.67
合	計	13	339	100.0	377	493	870	100.0	2.57

表M-2 教科書検定で中学校の歴史教科書が書きかえられた例

	検 定 前	検 定 後
南京大虐殺	南京占領のさい、日本軍は中国軍民 多数を殺害、 <u>暴行・略奪・放火をおこない。</u> 南京大虐殺として国際的非難を あびた。中国人の犠牲者教は20万人に のぼるといわれる。 南京を占領した日本軍は、多くの非 戦闘員を虐殺し、国際的な非難をうけた。	南京占領のさいの混乱のなかで、 日本軍は中国軍民多数を殺害し、南 京大虐殺として国際的非難をあびた。 中国軍のはげしい抵抗にあい、日 本軍の損害も多く、これに激島した 日本軍は、南京占領のさいに多数の 中国軍民を虐殺し、国際的な非難を うけた。
強制連行	少なくとも60万人以上の朝鮮人,約5万人の中国人が日本本土に強制的に連行させられた。	日本軍に連行され強制労働させられた中国人も約4万人を数えた。
侵	「日本の中国侵略」(見出し) 「日本の中国侵略」(日本の占領地域と 「満州国」の範囲を示した地図の説明)	「満州事変・上海事変」 「日本の中国侵入」
略	「ドイツ・イタリアの対外侵略」(見出し) 「満州への侵略に始まった15年戦争は」	「ドイツ・イタリアの対外侵略」(そ のまま) 「こうした戦争は」
沖組戦	また、戦闘のじゃまになるなどの理由 で、約800人の沖縄県民が日本軍の手 で殺害された。	削除

資料) 『民研教育時報』第4号,1982年11月,5ページ。

表M-3 教科書検定で高校の現代社会教科書が書きかえられた例

	検 定 前	指示の内容	検 定 後
自衛隊	自衛隊も、その後、数次 にわたる防衛力の整備を へてしだいに増強されつ づけ、世界でも有数の防 衛力(軍事力)をもつに いたっている。	自衛隊の兵力順位は各 国と比べ、必ずしも高 くない、志願制なので 徴兵制の国に比べ人件 費がかかる、世界有数 の防衛力とは必ずしも 言えない。	自衛隊も、その後、数次にわたり防衛力整備計画をへてしだいに増強されつづけ、こんにちにおよんでいる.
日米安保	1951 (昭和26) 年,日本政府は,アメリカとのあいだに日米安全保障条約をむすび,アメリカ軍の駐留を認め,基地(施設および区域)を提供することになった。	日米安保条約は、わが 国の平和と安全のため に結ばれたことを理解 させる必要がある。原 稿は一面的、目的を書 かないと、なぜ基地を 提供することになった のか、理解出来ない。	1951 (昭和26) 年,日本政府はアメリカとのあいだに日米安全保障条約をむすび,「極東における国際の平和と安全」おび「日本国の安全」のために,アメリカ軍の駐留を認め,基地(施設および区域)を提供することになった。
反核運動	ニュージーランドやわが 国の神戸市のように、核 兵器を積んでいる疑いが あれば、その鑑船の寄港 を拒否する国や都市もあ らわれた。	国の政策として行っているニュージーランドの寄港拒否と外交権を持たない一地方公共団体の対応を同列で扱うのは適切でない。	ニュージーランドのよう に,核兵器を積んでいる 疑いがあれば,その艦船 の寄港を拒否する国もあ らわれた.(神戸港の写 真と決議文は削除)

資料) 『朝日新聞』1987年7月1日 (下線部分修正箇所)。

210 の教科書記述と検定」『科学と思想』四七号、新日本出版社、一九八三年、二七~四〇ページ)。 表中のA意見とは、その意見に従って必ず修正しなくてはならないものです。B意見とは、改善が望

受けて中学校の教科書が書き換えられた実例です(『民研教育時報』第四号、国民教育研究所、一九八二年、五 部省が近・現代史の記述に非常に神経質になっていることが読み取れます。表11-2は、文部省検定を る割合が低い、第一次世界大戦から現代にいたる時期の記述に最も多くの意見につけられています。文 ページ)。一五年戦争の侵略的性格、残虐さ、悲惨さを具体的に描こうとした記述が規制されたことがわ ましいという意見ですが、実際にはA意見と大差のない扱いを受けています。全ページ数のうちでしめ

そのものです。文部省は、それをそのまま高校生に教え込もうとしているように見えます。これはもう、 月一日付、第四面)。 今度は、文部省の指示も 示してありますが、内容を見てみると 政府の一方的言い分 表11 - 3は、高校の現代社会の教科書の検定前と検定後を比較したものです(『朝日新聞』一九八七年七

と平和にかんする認識を閉ざされてきているのです。 このように私たちは学習指導要領と教科書検定によってがんじがらめにされた教科書によって、戦争

検定というよりは、「検閲」といった方がいいようなやり方です。

今や、日本国民のほとんどが九~一二年の学校教育を経験する時代となり、その影響力は私たちの発

ここまで、今のあなたに吹き寄せているきな臭い「風」の正体を明らかにしようとしてきました。少

ない紙面のなかにいろいろなことを盛り込みすぎたかな、という気もしますが、その正体は見えてきた

211

「自分は何か大きなものに 操られているのでは」そんな不安を 感じた人もいるかもしれません。青年

100

いま「動き始める」こと

四

平和を創る

方を、知らず 知らずのうちに身につけてしまっているのです。 ここでは、 授業と教科書の問題にしぼり

達を決定してしまうほど大きくなっています。その学校教育のなかで、今の政権党につごうのよい考え

がら、私たちの 認識を閉ざす「巨大なしくみ」ができあがってしまって いるようです。「風」から私た るのです。さらに広く見ると、私たちの接するあらゆるメディアのなかにそれは入り込んでいて、さな(3) ましたが、例えば、あなたが必死で取り組んだ入学試験の内容にも、政府の見解が巧みに入り込んでい

ちの口をそらさせるこの「しくみ」が、ますます複雑に、精巧にされてきているとすれば、その傾向自

体が、私たちに吹き寄せる一つの無気味な「風」と言えるでしょう。このような「風」のなかで、

あな

たは何をしたらいいのでしょう?

平和を創る

う。つまり、自分の決定によって行動したい、自分の力で生活 したいということです (荒尾貞一、菊地則

の目指す人間像の中心的側面は「精神的な自律」と「生活的な自立」であると言うことができるでしょ

『おとな』志向性の研究」『北里大学教職課程研究年報』第九号、一九八五年)。ところが、前の節で紹介した巨大

な「しくみ」は、この「自立」、「自律」を阻害してしまうのですから、青年が不安・不満を抱くのはむ

行「青年の『おとな』像に 関する 研究」『北里大学 教職課程研究年報』第八号、一九八五年、同「青年期の 人間像と

しろ自然なことでしょう。

うか。

さん)は何をしていたの?」と自分たちの子どもに言われるようなことのないように。

争なんかで犬死にしたくない」、「これからの自分の人生を充実したものにしたい」と、多少なりとも思

っているとしたら、ささいなことでも いいから、今、「動き始める」ということが 必要ではないでしょ

何年かの後に、「あの時反対しておけばよかったんだ」と後悔したり、「その時、お母さん(お父

争の危機、平和の危機が、平等にふりかかっているということです。そのなかにあって、あなたが、「戦 なことは、どの人にとっても、好むと好まざるとにかかわらず、気づいていてもいなくても、今、核戦 らない」、「知っていることばかりでつまらなかった」といった感想もあるでしょう。いずれにしろ確か

また、「これだけでは、まだよくわからない」、「状況は 一応わかったけど、どうすれば いいのかわか

212

しかし、「動く」と言っても、何をどうすれば いいのでしょうか。それを 考える上で、例えば、

みな

さんと同じ世代の青年たちがどんなことをしているのか、具体的に見てみましょう。

ています。受講生は、毎年、夏休みを利用して、父母や祖父母にインタビューを実施して、 和光大学の 教育心理学の授業は「発達・平和・教育」という ユニークなテーマ 持っ 戦争体験

合わせて郷土の歴史、戦争の歴史も調べて戦争体験ルポルタージュとして文集にまとめ

ています。

を聞き取り、

ケース2 長崎総合科学大学の建築学科の 日比野ゼミでは、建築という専門を社会に 結び付ける

意欲的な試みをいろいろとやっています。一九七七年には、被爆者の渡辺知恵子さんと出会い、重度 りしています(日比野正己『学生時代熱中宣言』講談社、一九八五年)。 被爆者の問題にかかわってマスコミの依頼で捕虜収容所を模型で再現するといった作業をひきうけた の障害を持つ彼女が独力で生活できるような住宅を設計し、実現させました。また、翌年には外国人

平和を創る 戦争の準備として制定がねらわれている国家機密法というものがあります。一九 八 七

諜探偵団マル秘グッズ展」、実践女子大では、国家機密法を考える 学生交流会として ハンストなどを 企画し、創価大では、マスコミ論のゼミが三大新聞の機密法報道の比較をしたり、署名運動に取り組

年、明治大学雄弁部では、国家機密法制定反対 キャンペーンの 遊説(街頭演説)、津田塾大では「防

213

214 むなど、多彩な取り組みをしています(『世界』一九八七年五月号、岩波書店)。 ここに紹介したケースはほんの一例にすぎませんが、いろいろな発想、やり方があることに気づくの

るのではないかと思います。しかし、そもそも平和のための活動というのは、戦 争で死んだり平和な生 ぶしをふりあげて……というイメージが先にきて、なんとなく、あるいは露骨に敬遠したくなる人もい ではないかと思います。平和運動というと、「アブナイ」とか、特殊な考え方の人がハチマキしめてご

活を乱されたくないという人なら誰でも参加できるものであり、決まった型があるわけでもありません。 を創り出す現実の力になるような活動とはどんなものでしょうか。全国の事例をもとにして、筆者なり では、新しい時代を生きる世代にふさわしく、あなたも回りの仲間も参加したくなり、しかも、平和

* 当世風平和活動の勘どころ

のイメージをまとめてみると、こんな風になります。

その1 まず、楽しもう

さがあります。また、具体的に何かをする時も、先の津田塾大の「防諜探偵団~」のようなユーモアの のイメージをあれこれ考えてみる、話し合ってみる、その夢を実現していくとワクワクするような楽し 平和を創り出す活動はそもそも楽しいものです。想像力と創造力を働かせて、新しい社会、人間関係

センスを発揮したり、「反核 ジャズコンサート」とか「平和カップ争奪 ボーリング大会」といったよう

切り取ると、それは必ずといっていいほど戦争と平和の問題につながっていきます。だとすれば、とり

戦争は人間の営みのありとあらゆるものを巻き込んでしまいます。逆に言えば、日常生活のどこかを

とりあえず、足もとから始めよう

教科書や家庭教師先の子どもの教科書に第三節で問題になった事項がどのように書かれているか、ちょ のように使われたかなどを調べてみるというのも一つの手です。また、自分が中学・高校時代に使った とはないのです。もし、あなたが、大学にいるとすれば、自分の専攻する分野がかつて戦争と平和にど あえず興味のあることから始めてみればいいのです。すべての人がいきなり政治問題に首を突っ込むこ

っとめくって見ることから始めてもいいでしょう。あるいは、もっと積極的に専門を平和の側に活かし 前述の日比野ゼミのような活動も面白いでしょう。

平和を創る 軍事機密のように権力を握っている者が意図的に隠している情報もありますし、日比野ゼミのかかわっ 私たちはたいせつなことを意外に知りません。この章の2節、3節ではそれを問題にしてきました。 マル秘情報に強くなろう

216 りません。先の創価大学のゼミのように複数の新聞報道を比較することも有効な方法です。 に注意することはたいせつですが、そこからさらに漏れる情報が必ずあることにも注意をしなければな

た外国人被爆者の問題のようになんとなく埋もれてしまっている情報もあります。マスコミ・新聞報道

その4 「しくみ」を知ろう

断片的な情報はたくさん持っていても、整理する視点がないとイザという時役に立たないものです。

まれてこないでしょうし、多くの人と手をつないで、有効な運動を作ることはできないでしょう。 学や自然科学の成果を学ぶ必要があります。思い込みや一時の感情論では平和を創造していく展望は生 世のなかや人間の動く仕組み・法則を知る必要があります。平和を創造する道筋を探し出すには社会科

その5 タテ・ヨコにつながろう

関心に合うものがなければ、自分でその場を作れば良いのです。 情報集めや学習は、読書会、ゼミ、研究会、サークルなどに参加した方が豊かになるでしょう。自 個人的にいろいろやってみることも大切ですが二人、三人と仲間が増えれば、情報も視点も増えます。 その際、興味を同じくする同年代の仲間(ヨコ)とやることもたいせつですが、戦争体験を持つ大人

の世代や逆に中・高校生の世代(タテ)とつながると視野がいっそう広がり、勇気づけられることも多

ミナール」に参加してみるのも手です。 いのです。 ケース1の和光大学のような戦争体験の聞き取りをおこなったり、各地の高校生の「平和

が、その見極めの力をつけて、このせっかくの権利を有効に使うことは、もっとまじめに考えていいこ 者に投票しなければ、そのような政治家はいなくなるのです。実際には、政策の見極めは難しいのです 社会では、政治家は一人の例外もなく、選挙で選ばれます。国民が戦争につながる政策をかかげる候補 接に政治に影響を与えられる手段を私たちは持っています。それは選挙権です。今の議会制民主主義の やデモやストライキも主権者としてのたいせつな権利です。しかし、なによりも簡単で、なによりも直 さどっている人には。イヤなことは「イヤ」と声に出し、行動に現さないと、黙 認されたと見なされて しまいます。前述のコンサートや街頭演説のような企画も一つの社会的アピールの仕方でしょう。 いろいろ勉強してスバラシイことを考えていても、黙っていたら伝わりません。とりわけ政治をつか 意思表示をしよう

とでしょう。あと一、二年後に選挙権を獲得する人も、今から選択眼を養っておく必要があります。 こんな調子で考えてみると、まだいろいろなアイディアが出てくることでしょう。あ

活動、 あなたにしかできない活動がきっとあるはずです。ぜひ考えてみてください。 なたにもできる

218

この章のテーマは「平和を創る」でした。一般には「平和を守る」という言葉の方がなじみがあるか

もしれません。しかし、この表現は、守るべき「平和」が既にある場合に使われるべきです。ここまで

読み進めてきたあなたは、「今は平和だ」と言い 切れるでしょうか。もし、平和が 脅かされているのが

現実の姿だとしたら、私たちは平和を「守る」のではなく、これから創り出して行かなければなりませ

あなたが、いま、この平和の創造に少しでもかかわるとしたら、そこには二つの意味があります。

一つは「自分を創る」という意味です。この本全体を通して見てきたように、あなたの今いる青年期

上にあり、「理想」などというものを 臆面することなく語れる時期です。戦争と 平和の問題には、人間 は、人生のなかで、主権者としての 力をつけて「自立」「自律」を目指す時期、まだ価値観の 形成の途

の権利、尊厳、 とは、青年期にこそふさわしい知的でアクティブな作業であり、これからのあなたの人生を充実させる 価値観、生き方の問題が娺縮されています。ですから、平和の創造に取り組むというこ

もう一つは、「歴史を創る」という 意味です。人間は、自分の手で 作り出したものによって自らを滅

大きな支えになっていくことでしょう。

ぼしてしまうかもしれないという、人類史上かつてなかった大きな危機に直面しています。このような

っている大人世代と共同して平和創造の仕事を始めるならば、地球と人類のまったく新しい歴史を創り 歴史的な時期に、この危機のゆくえのカギを握っている若い世代が、現在の危機をもたらした責任を持

のを見て、あなたの気づかないところできっと誰かが励まされ、動き始めることでしょう。 そして、そのきっかけをつくるのはほかの誰かではなく、あなた自身なのです。あなたが動き始める

そんな思いを込めて書かれたこの章が、あなたにとって平和創造の「はじめの一歩」や「さらなる一

歩」のきっかけになることを願ってやみません。

- (1) 国民教育研究所が一八六九人の中高生に憲他した調 査によると、七五%が「日本が核戦争にまきこまれる た、九四一一人の高校生を対象とした高教組の調査でも、六八・四%が「核戦争が引き起こされる危険がある 危険について」考えることが あると 答えています(国民教育研究所『民研時報』第一八号、一九八六年》
- (2) 一九八七年一二月二四日、教育課程審議会は「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の警に と思う」と答えています(日本高等学校教職員組合『高教組時報』第六八号、一九八七年)。
- を学ばずに高校を卒業する可能性はなくなりますが、そのねらいに再三再四現われる「国際社会に生きる日本 必修とするとしています。答申は新学習指導要領に具体化され、幼・小・中では、1 九八八年九月告示、一九 ついて(答申)」を文相に 答申しました。答申は、高校社会科を「地歴科」と「公民科」に 再編し、世界史を 九三年までに全面実施、高校では、1 九八九年四月告示、一九九四年から学年を追って実施の予定です。歴史

平和を創る

第7章

(3) 一九八四年の共通一次試験に 次のような問題が出されました。「正解」は、核兵器保有を 容認する内容を 変化はありません(新学習指導要領が実施されるまで、歴史を学ばずに高校を卒業する可能性は残ります)。

択科目となりますが、「地歴科」とは 区別された「公民科」に入れられ、歴史と 分離されているという状態に 人」という表現に、かつて日本を戦争に巻き込んでいった 日本中心主義の危険を 感じます。「現代社会」は選

含む③であり、このような出題は独断的な政府見解の押し付けにはならないでしょうか。

共通一次試験(一九八四年)の「非核三原則」にかんする問題

4

非核三原則の内容は、核兵器を「作らない」、「持たない」、「用いない」ことの三つを指す。

わが国がとっている非核三原則にかんする記述として正しいものを、次の①~④から一つ選べ。

非核三原則は部分的核実験停止条約の批准に際して明確に示された原則である。

自衛のための小型核兵器を持つことは違憲ではないが、主として非核三原則により、政策上核兵器を保

- 有しない、というのが政府の見解である。 外国軍隊による核兵器の国内への持ち込みは、非核三原則に触れないが、日米安保条約に基づく事前協
- 議の対象となる、というのが政府の見解である。
- (注) 出題者は③を正解とする。
- (出典) 前田寿夫『市民版防衛白書――しのびよる戦争の恐怖』講談社文庫、講談社、一九八六年、 一八一ページ。

[二〇〇ページの平和クイズ解答]

関東軍第七三一(または石井)/Q4a-八、六 b-八、九/Q5a-ニ、b-ニ(「被爆の実相と 被爆者の 実状」 Q1-ハ/Q2-ニ(江口圭一『一五年戦争小史』青木書店、一九八六年などによったが、正確な数は不明)/Q3-

きがあり、正確な数は不明)/ Q6-治安維持/Q7-日米安全保障(または安保)(第六条で米軍による施設・区域 『一九七七NGO被爆問題シンポジウム報告書』より。一九四五年内の死亡者に限ったが、統計によって大きなばらつ

基づく――一九八七年五月七日参談院予算委員会での 上田耕一郎議員の 総括質問より)/Q10―持ち込ませ/Q11 京都八。日本平和委員会『平和運動』一九八七年四月号より)/Q9a-一 b-二(「NATO基準」に よ る試算に 九八六年より。統計により異なり、正確な数は不明) 《『読売新聞』一九八四年五月二日報道の日教組実態調査より)/Q12-ハ(前田寿男『市民版防衛白書』講談社、

の使用を認めている)/Q8aー三、bー四、cー一、d-二(数は、沖縄県四四、神奈川県 一八、長崎県 一一、東



リポートの 「平和を創る」を読んで

そ の ()

「危機」を表現し、読者に その深刻さ、身近にせまっている様を うたっている、そのアプローチの仕方 はすばらしいと思います。全体的に読みやすく、知らなかった事柄もあったので、ためになりました。 ただ、語りかけるということを意識された文体であるので、どことなく大学の教室にばらまかれてい 全体としては「風」を感じる―「風」の正体―なぜ「風」に気づかないのか―と比喩的表現でもって

N君 (21歳)

の危険さを感じました。風刺的な側面もありそうなので、その映画をぜひ見てみたいと思いました。 1節では、アニメーション映画「風が吹くとき」のなかのヒルダに似て、事の重大さを感じえない者

3節では、検定前・後の変化の様子や「文部省検定でつけられた意見の分野ごとの比較」など、知ら

るビラと似た文章の調子も感じました(あれほど強引な口調ではないが)。

りたいものです。 ば正確に知ることができるかについては、4節で若干述べられているのですが、もう少し知る方法を知 なかったことも多く、知らされていない事実をもっと知りたいと思いました。しかし、どのようにすれ

いのでしょうか。 た所もあります。例えば、「その四」の 社会科学や 自然科学の成果とは 具体的に何をイメージすればよ

節の「当世風~」が当を得ていると思いました。紙面の制約でしょうが、もう少し説明がほしかっ

てください。 著者から――説明不足の所も多いので、引用文献や巻末の推薦図書などを参考に、ぜひも う一歩深めてみ

そ の (=)

若者などが「風」を感じているようですが、その一方で、戦争へ走る若者もいるなぁなどとちょっと **Mさん (一八歳)**

平和を創る 考えてしまいました。

「チェック」にあった日本の軍事費については、教科書では世界八位と書いてあり、「えな はずはな

という気にもなっています。「教科書とは 真実を教えるためのものではない」と何かで 読んだことがあ い……」と 思っていました。二位(社会主義国を除く)とは 予想外でしたが、逆に、「やっぱり……」

るけれど、背筋がぞっとしました。これでは軍国主義の時代の教育と同じです!

224

になります。 外国の教科書とは比較にならないことを知り、愕然としました。政府はどうしてそんなにしてまで過去 ついて何も考えることのないまま大人になって政府の方針をうのみにする人間が増えてきたらと、不安 をつつみかくそうとするのでしょう。こうした「認識を閉ざす巨大なしくみ」のために、戦争や平和に としては大きくページをさくべきなのに、ほんの五、六行にとどめられている教科書がほとんどであり、 ります。また、そういった「検閲」されがちな事項のひとつである「原爆」にかんして、被爆国の日本

る子どもを育成するために勉強を続けていきたいと改めて思いました。 も教育学部の学生として、「教育というものの恐ろしさ」を 十分に 認識し、真実を 見分けることのでき わけはなく、身近なところから平和を考えて実現の努力を重ねていく必要は大いにあると言えます。私 に限られがちになっているという大きな障害があることも事実ですが……。でも、このままでいていい

「平和を創る」ことは、今、ほんとうに 必要なことだと思うのです。それには 平和運動が一部の人々

この辺を調べてみるのも一つの手でしょう。 著者から――「教育」には、平和を創ろうとする側の願いと、崩そうとする側の意図がせめぎあっています。

確かに「『風』を感じる」ことは あります。ニュースで 防衛費、米軍基地、INF、FSX……etc.

といったことを耳にすると、今は核時代だから無制限の戦争となるわけで、ペルシャ湾などの遠い場所 での紛争であれ、無関心ではいられないと強く感じます。戦争が昔話ではなく、身近に忍び寄ろうとし

2節の「チェック」では自分があまりに無知でビックリしました。でも、日米安保をこんなに激しく

ているという不安にかられるときもしばしばです。

否定しちゃって大丈夫だろうか……。多少かたよりを 感じました。「1%枠」の話は もう少し詳しくし て自分から戦争に行きたがる人もいるらしいから、その辺の事を考えると分からなくなってしまいます。 はあまり知らなかったのですが、うそを言って勧誘するなんて許せないと思います。でも、傭兵になっ ても良かったのでは。ただ、「1%枠」と言っても、みんなわかるかどうか疑問です。自衛官の勧誘の話

平和を創る

にまっしぐらに走っていくのは絶対に危ない。誘導されやすい人間が増えるのは恐ろしいと思います。 った子どもたちが おおきくなったらどうなるのか 心配です。「敵」がほんとうに「悪」なのかも考えず

映画などでもやたらと「戦う」ものが多くて、これで良いのかと考えてしまいます。戦争に慣れてしま

その意味でも、3節にあったように、無知な人を育てようと教科書を操作するなんていうことが可能な

の

は問題かもしれません。だから、できるだけ大勢の人のチェックできる体制にするとか考えなければ

ならないと思います。 4節の「ケース」は興味深かったのですが、実際に動くのはたいへんのような気もまだします。「は

じめの一歩」から始めてみようと思いました。

著者から― 漫画・映画など最近の若者文化に入り込んでいる戦争の影を調べてみるのも「一歩」でしょう。

- コメントの 「平和を創る」-

俳句欄をよく見ます。とりわけ読者の投稿による歌壇、 俳壇を注目しています。 1 ある新聞の短歌・俳句欄から

私 は新聞の短歌欄、

集約的にきりとられていると思えるからです。それを読んで心が共鳴をはじめたら、それをノートに書 限られた字数で、世相といいますか、そのときどきの状況の基底を流れているものがまことにするどく、 きとめておきます。

してみましょう。 いまこのノートのなかから、今回の「平和を創る」ことに関連があると思われる二、三の作品を紹介

それぞれの思考 それぞれの場所を占め 直立している 満員電車 蟻地獄隣り合せて関はらず (鳥取市・桔梗きちかう 一九八五年六月三十日) (東京都・大口玲子

「われわれ」と言いうるぬくみもたざれば「逆光のなか芒野(すすきの)を行く (群馬県・渡辺松男 三旦 一九八八年一月

通するキーワードをもとめるとすれば、なによりも「現代」「孤独」などのことばをとりあげざるをえ ないと思いますが、いかがでしょうか。 掲載紙はいずれも『朝日新聞』ですが、その表現が間接法であれ直接法であれ、これらの句や歌に共 九八六年十月二十六日)

平和を創る

227 もうひとつ 付け加えて おくことにします。いわゆる 意識調査と その結果についてです。これもまた 2 今の社会をあらわすことば

『朝日新聞』なのですが、同紙が毎年十二月に 行っている定期国民意識調査の場合に 目を向けてみるこ

「連帯」の九枚ですが、一九八八年一月一日付の同紙に発表されたその調査結果によれば、上から一位が をあらわすのにふさわしいと思われる言葉を、ひとつだけあげて下さい」といって、回答カードを提示 したものが あ り ま す。カードは、「安定」「孤独」「混乱」「自由」「退廃」「繁栄」「不公平」「身勝手」

二%となっています。

「連帯」の、かくまでかぼそく、ひよわなことには目を覆いたくなるような思いがします。

「不公平」で二○%、二位「自由」一八%、下の 方では「退廃」四%で八位、そして 最下位が「連帯」

3 巨大迷路のなかの日本

理学の実験室からもちだされた迷路が平面的なパズルとなるにとどまらず、立体的な原形に復してさら いま、遊園地などで、巨大迷路とよばれているレジャー施設が結構人気を呼んでいるといいます。心

に汎用されはじめたわけです。入口があったのだから、どこかに 出口があるにはちがいない、しかしそ

はこの巨大迷路の出現に、わが国現在の見事な象徴をみてとれると思います。

「口は隠されているといいますか、見えないのが迷路の特徴です。

の出

出

口ならぬ「連帯」を鮮明に見据えられる視野からほど遠いところにあって、くらい荒野を「孤独」

削減や 教科書検閲の 問題がくわしく 説明されていますが、歴史を 逆にたどってみれば、一九五五年の 本章第三節「なぜ"風』に気づかないか」で、「認識を閉ざす巨大な"しくみ4」として、授業時間の

「うれらべき教科書の問題」あたりが、六○年安保を 目前にひかえて、連帯の衰弱化と 後退をねらって 体制側が仕掛けてきた露骨な先制攻撃であったということができましょう。 もちろんこの攻撃にたいして拱手傍観していたわけではありません。当然、反撃も行われました。安

保反対のスクラムがそうですし、一九六七年に、みのべ革新統一候補を東京都知事に当選させたことも しょう。 そうでした。そしてまた、これはいまも続いていますが、教科書裁判もあげておかなければならないで

平和を創る 4 連帯分断のなかで平和を創る

がら認めざるをえません。一九八三年、就任して最初の ワシントン詣でに おいて、「日本列島不沈空母 論」の発言が、首相の口からでてくるという状況に、それは端的にあらわれています。 ところで、ひとりではできないことを、協力行動によって達成可能な現実の課題となしうるのが人間 それにしても、七〇年代、とりわけ八〇年代において、連帯分断の作戦が奏効していることを残念な

229

230

の本性であると考えますが、そうであるとするなら、現在はまさに人間性破壊の時代、人間喪失の時代

本章第四節「平和を創る」では、「平和活動の 勘どころ」として、「タテ・ョコに つながろう」「意思

表示をしよう」と述べられていますが、意思表示とは課題を明示することにほかならないと思います。

「平和を創る」ことが 大業であり、そしてこの大業を 課題としようとするなら、タテ・ヨコの連帯=協

力行動を回復し、組織化することが不可避となります。

間をとりもどせ」の叫び声をあげることですから、まちがいなく理にかなったものということができま もちろん、分断攻勢のはげしいさなかですから困難なことはわかります。しかし、これは人間が「人

思えません。自信をもとうではありませんか。 なるほど、「無理が通れば 道理が引っ込む」とも申します。しかし、いつまでも 無理が罷り通るとも

(中央大学名誉教授)

第1章 歴史のなかの青年

◇ 坪内逍遙『当世書生気質』逍遙選集、別卷一、第一書房、一九七七年

◇『植木枝盛自叙伝』選集、家永三郎編、岩波文庫

◇ 遠山茂樹『自由民権と現代』筑摩書房、一九八五年

◇『政党ノ論』中江兆民全集14、岩波書店、一九八五年

◇ 二葉亭四迷『浮雲』岩波文庫

◇ 徳富蘆花『思出 の記』 現代日本文学体系9、 筑摩書房

◇『明治ニュース事典』Ⅱ・Ⅲ、毎日コミュニケーションズ出版部、一九八三年

第2章 自分をつくる

◇ 田口寛治『現代学生気質』神戸新聞出版センター、一九八七年

◇ 乾彰夫『自立にむかう旅』大月書店、一九八六年

◇ 伊藤順康『青年期の自己形成』川島書店、一九八二年 ◇ 竹内常一『子どもの自分くずしと自分つくり』東京大学出版会、一九八七年

◇ 千石保『現代若者論』弘文堂、一九八五年

232

◇ 大野力『一人前ってなんだろう』日本労働協会、一九八○年

◇ 加藤諦三『自分づくりの法則』大和出版、一九八四年

第3章

思春期のからだとこころ

◇ 村瀬幸浩『明日への性教育』青木書店、一九八五年

◇ 倉本聡『北の国から』理論社、一九八一年

◇ 望月正弘「思春期へのメッセージ」『一二歳の性』太郎次郎社、一九八七年

◇ 奥田継夫『君たちは性をどう考えるか』筑摩書房、一九八四年 ◇ 江幡玲子ほか『少女たちの性』日本放送出版協会、一九八五年

◇ 岩波講座『教育の方法 1 学ぶことと教えること』岩波書店、一九八七年

◇ 横山浩司『どうして勉強するのか』労働経済社、一九八五年

◇ 斎藤次郎『子どもを見直す』中公新書、一九七九年

◇ 佐伯胖『「わかる」ということの意味』岩波書店、一九八三年

◇ 吉田章宏 『学ぶ』と『教える』』『講座・現代の心理学・3』小学館、一九八三年

◇ 林竹二『学ぶということ』国土社、一九七八年 ◇ 島田豊『学問とはなにか』大月書店、一九七九年 ◇ 石井伸男編著『講座・哲学

2 あそぶ・まなぶ』学習の友社、一九八二年

第4章

- 山本哲士『学ぶ様式』新曜社、一九八六年

第5章

- ◇ 日野原重明『人生の四季に生きる』岩波書店、一九八七年
- ◇ 神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房、一九七八年
- Sarbara M. Newman, Philip R. Newman, Adolescent Development, Merrill Publishing Company, 1986.
- ◇ 本多淳亮監修、労働者教育協会編『コース別管理とのたたかい――新人事制度のしくみと問題点』学習の友社、 第6章 働
- ◇ 金子勝「『高度成長』と国民生活」『講座・日本の歴史』第一二巻、東京大学出版会、一九八五年 九八七年
- ◇ ローランド、A/ハリス、B編(矢木公子ほか訳)『仕事も子どもも』勁草書房、一九八四年

◇ 熊沢誠「女性労働者の戦後」『歴史学研究』第五二四号、一九八四年

- 考文献/推薦図書 ◇ 田中喜美子・武田京子・木村栄編『講座・主婦3 動きだした主婦たち』汐文社、一九八三年
- ◇ 乾彰夫・光岡博美・斉藤武雄・大根和夫・太田政男・若菜俊文・吉村姈子・小島昌夫『私たちの進路と社会』大月 八七年

◇ 津田眞徽著『新世代サラリーマンの生活と意見── 「団塊の世代」 から「新人類」まで』東洋経済新報社、一九

- ◇ 岩波書店編集部編『"無敵』なOLになる法──フレッシャーズ・オフィス・ガイド』岩波書店、一九八七年

- 233

書店、一九八七年

234 ◇ 加藤哲郎・伊藤正直・高橋祐吉・田端博邦・寺西俊一『これからの日本を読む――現代社会入門』労働旬報社、 九八七年

◇ 君和田和一『ふたりで読む――共働きのすべて』学習の友社、一九七八年 ◇ 河西宏祐編『戦後日本の争議と人間──千葉大学教養部の教育実践』日本評論社、一九八六年

◇ 熊沢誠『ノンエリートの自立――労働組合とはなにか』有斐閣、一九八一年

◇ キャンパスライフ・トゥデイ編『大学生講座 PART3 就職術』大月書店、一九八五年

◇ 津久井佐喜夫『生活科学としての心理学」勁草書房、

一九八七年

第7章 平和を創る

◇『シネ・フロント』第一二九号(『風が吹くとき』特集)、シネ・フロント社、一九八七年

◇ 中馬清福『軍事費を読む』(岩波ブックレット六八)岩波書店、一九八六年 ◇ 吉田豊・小栗実編『世界の憲法──人 権思想のあゆみ』一橋出版、一九八四年

◇ 全国民主主義教育研究会『資料で学ぶ現代世界 現代と平和』ほるぷ出版、一九八六年

◇ 中村文雄『高校日本史教科書──検定教科書一八冊を比較・検討する』三一書房、一九八七年 ◇ 宗像誠也・国分一太郎『日本の教育── "教科書裁判" をめぐる証言』岩波書店、一九六二年

◇ 社会科教科書執筆者懇談会『教科書問題とは何か』未来社、一九八四年

◇ 高橋慎一・星野安三郎『教科書がねらわれている――再びくるか国定化の時代』あゆみ出版、一九八一年

◇ 岡本三夫「日本の大学における 平和学の関連講座の 実態調査」『平和研究』第一二号、早稲田大学出版部、 七年、一一三~一三〇ページ

- ◇・名古屋大学平和憲章制定実行委員会『平和への学問の道』あけび書房、一九八七年 松浦総三編『逃げられなかった父と母――現代ハッピー族の戦争体験』大月書店、一九八五年
- ◇ 一九八六年度和光大学教育心理学受講生『戦争体験インタビュー集』和光大学伊藤武彦研究室 | 太田堯・小岩井増夫『平和を学ぶゼミナール――課題と資料』(岩波ブックレット九四)岩波書店

はじめの一歩のために

▲日本と世界の「現実」を知る≫

◇ 安斎育郎・森下一徹『地球非核宣言』水曜社、一九八六年 ◇ 安斎育郎『茶の間で語りあう平和』かもがわ出版

◇『世界』編集部編『<軍事大国>日本――どこまで軍事化されたか』(岩波ブックレット一○二)岩波書店、一九八

◇ 早乙女勝元 『パパ ママ バ ボ イ 』 草土文化、一九七九年 · (絵)

前田哲男『核戦争シュミ レーション』筑摩書房、一九八七年 春名幹男『ヒバクシャ・イン・USA』岩波書店、一九八五年(ル)

◇ ヘレン・コルディコット(高木仁三郎・阿木幸男訳)『核文明の恐怖

◇ 三國一朗『戦中用語集』岩波書店、一九八五年 戦争中の暮らし―― ▲日本と世界の「過去」を知る≫ ――原発と核兵器』岩波書店、一九七九年

235 日本戦没学生記念会。きけ わだつみのこえ――日本戦没学生の手記,岩波書 店、一九八二年(手)

◇ 原民喜『夏の花・心願の国』新潮社、一九七三年(小)

原爆・空襲について――

◇ 飯島宗一『広島・長崎でなにが 起こったのか――原爆の人体への影響』(岩波 ブックレット八)岩波書店、

一九八

◇ 井伏鱒二『黒い雨』新潮社、一九七○年(小)

◇ 峠三吉『にんげんをかえせ』新日本出版社 (詩)

◇ 中沢啓治『はだしのゲン』①~⑩汐文社

(漫)

◇ 岩崎ちひろ・絵、長田新ほか・著『わたしがちいさかったときに』童心社、一九六七年(絵)

◇ 広島県朝鮮人被爆者協議会『白いチュゴリの被爆者』労働旬報社、一九七九年(手) ◇ 山口勇子・作、四国五郎・絵『おこりじぞう』金の星社、一九七九年(絵)

◇ 早乙女勝元『東京大空襲――昭和二○年三月一○日の記録』岩波書店、一九七一年(ル)

◇ 本多勝一『中国の旅』朝日新聞社、一九八一年(ル)

――日本のアジア侵略

◇ 高嶋伸欣『旅しより東南アジアへ――戦争の傷跡から学ぶ』(岩波ブックレット九九)岩波書店、一九八七年(ル) ◇ 五味川純平・作、立花誠太郎・画『人間の条件1』(ほるぷ平和漫画シリーズ2)ほるぷ出版(漫)

(*ほるぶ出版の「ほるぷ平和漫画シリーズ」では、多くの漫画家たちが戦争を知るための多彩なテーマを漫画

-思想の弾圧—— 化しています)

◇ 江口圭一・木坂順一郎『治安維持法と戦争の時代』(岩波ブックレット六四)岩波書店

- ◇ 宗像誠也『私の教育宣言』岩波書店、一九五八年
- ◇ 山住正己『教科書』岩波書店、一九七〇年 ≪行動のためのヒント≫

◇ ケン・キース・ジュニア(Y・ 歩 キー編)『百番目のサル』佐川出版、一九八四年

◇ バーナード・ベンソン (寺家村 博訳『平和 の本』 日本YMCA同盟出版部、一九八四年(絵) きたがわてつ(歌)『ソノシートとカラー写真集でつづる「日本国憲法前文」』あけび書房、一九八四年 ≪その他≫

(* ちなみに、岩波書店の岩波新書、岩波ブックレットのシリーズは、比較的入手しやすい上に、戦争と平和の 問題を考える上で興味深く、入門的な題材が豊富です)

2 さらなる一歩のために

▲戦争と平和を深く考える≫

参考文献/推薦図書 ◇ ヴァイツゼッカー(永井清彦訳)『荒れ野の四○年――ヴァイツゼッカー大統領演説全文』(岩波ブックレット五五) ◇ 家永三郎『戦争責任』岩波書店、一九八五年

◇ 森田俊男『人類の良心――平和の思想』汐文社、一九八四年

岩波書店、一九八六年

◇ 伊東壮『ヒロシマ・ナガサキから世界と未来へ』勁草書房、一九八五年

◇ 日本平和学会『平和研究』早稲田大学出版部(年刊誌)

◇ 日本平和教育研究協議会『平和教育』明治図書(季刊誌)

安達喜彦『一五年戦争史学習資料』上·下、汐文社 ▲事典·資料集》

◇ 広島平和教育研究所『平和教育実践事典』労働旬報社 ◇ 広島平和文化センター『平和事典』勁草書房

◇ 藤原彰(監)『平和への伝言—≪復刻版≫戦争実物資料』あけび書房

◇ ストックホルム国際平和研究所『SIPRI年鑑』東海大学出版会

その他は評論・論説・エッセーなど〕 〔註……(絵)絵本、(漫) 漫画、(小) 小説、(詩) 詩集、(手) 手記、(ル)ルポルタージュ・ドキュメンタリー、

〔資料集〕

青年問題を考えるために

一豊かな社会は何をもたらしたか一

石を投げつける。見るに忍びない。それを中沢隊の将校も冷然と見ている。高木少尉の指図らしい。冷血漢。明も冷然と見ている。高木少尉の指図らしい。冷血漢。明なき民の身の上を思い、あの時何故後れ馳せでも良い、なき民の身の上を思い、あの時何故後れ馳せでも良い、なき民の身の上を思い、あの時何故後れ馳せでも良い、なられながらトボトボ歩き去った。 にの子供はもう軍人にはしない、軍人にだけは……平れだ、平和の世界が一番だ。

を残雪踏んで討伐に出動。

夜中一時半本部よりの電話に接し五時半凍てつく寒夜

中沢隊の一兵が一支那人を岩石で殴打し、頭蓋骨が割なぎ。

川島正氏の日記から―― ―『きけわだつみのこえ』所収の

教育基本法 (昭和1三1・三1・三1)

われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福

祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。 しかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。 われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にして

この法律を制定する。 ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、

(教育の目的)

人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期し 教育は、 人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個

て行われなければならない。

児

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福を

はかるために、この憲章を定める。 児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。

すべての児童は、心身ともに、健やかにうまれ、育てられ、その生活を保障される。

すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもつて育てられ、家庭に恵まれない児童には、

三 すべての児童は、適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害からまもられる。

すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果すように、

四

料

集

これにかわる環境が与えられる。

241

みちびかれる。

五.

かれる。

すべての児童は、就学のみちを確保され、また、十分に整つた教育の施設を用意される。

すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。

すべての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつちわ

すべての児童は、その労働において、心身の発育が阻害されず、教育を受ける機会が失われず、ま

た児童としての生活がさまたげられないように、十分に保護される。

九 すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。

十 すべての児童は、虐待、酷使、放任その他不当な取扱からまもられる。

十一 すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育 あやまちをおかした児童は、適切に保護指導される。

十二 すべての児童は、愛とまことによつて結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するよう

と保護が与えられる。

に、みちびかれる。

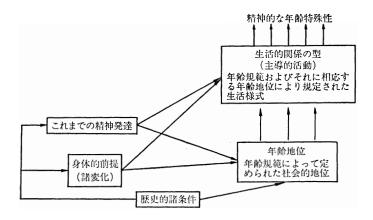


図1 精神の年齢的特性の社会的決定図式 (A. Kossakowski. 1966) [出典:宮川知彰『青年の性格形成』1978]

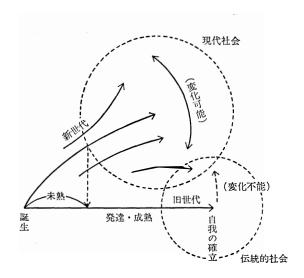
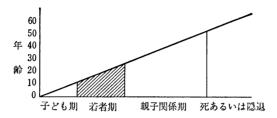
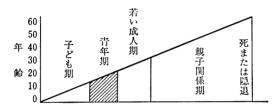


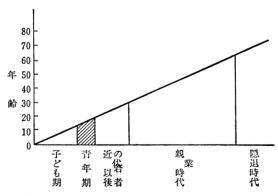
図2 最近の自我形成論についての一見解 [出典:『青年心理』第50号1985]



(a) 工業化以前の社会における人生の諸段階



(b) 1900年当時の中産階級のライフ・サイクル



(c) 脱工業化社会における人生の諸段階

図3 ライフ・サイクルの歴史的推移 [出典: J.R.ギリス『〈若者〉の社会史』1981〕

245 資料集

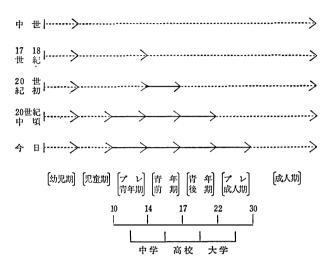


図4 青年期の誕生と延長

[出典:笠原嘉ほか『青年の精神病理』弘文堂, 1967]

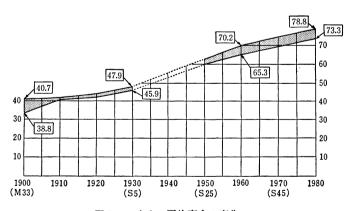
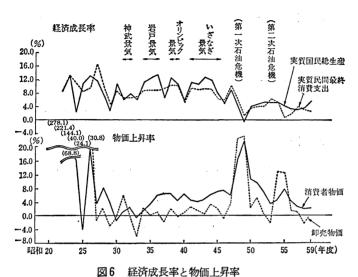


図5 日本人の平均寿命の変化 [出典:『人口動態統計』から作成]



【出典:『国民生活白書』昭和60年度版〕

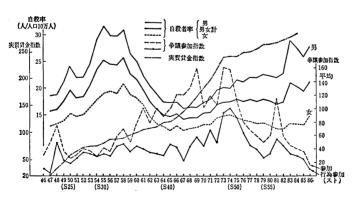
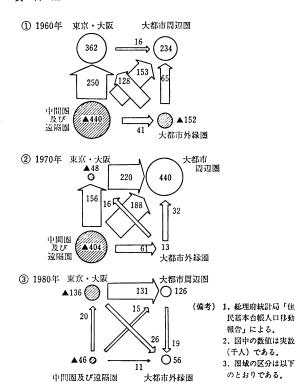


図7 戦後自殺率の推移と争議参加指数 [出典:『人口動態統計』から作成]

247 資料集



档	坡	該当する都道府県名						
東京・	大阪	東京, 大阪						
大都市	周辺图	埼玉,千葉,神奈川,愛知,三重,京都,兵庫						
大都市外級圈		茨城, 栃木, 群馬, 静岡, 滋賀, 奈良, 和歌山, 岡山, 広島, 山口, 福岡, 大分						
中間	B) (E)	宮城, 山形, 福島, 新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 爲 取, 島根, 徳島, 香川, 愛媛, 高知						
遠降	4 K	北海道,背森,岩手,秋田,佐賀,長崎,熊本,宮崎,鹿児島,沖縄						

図8 高度成長期における人口移動

[出典:『国民生活白書』昭和60年度版]

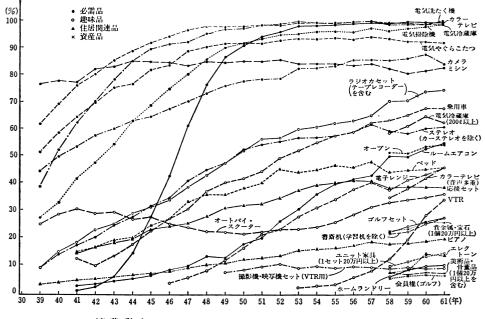
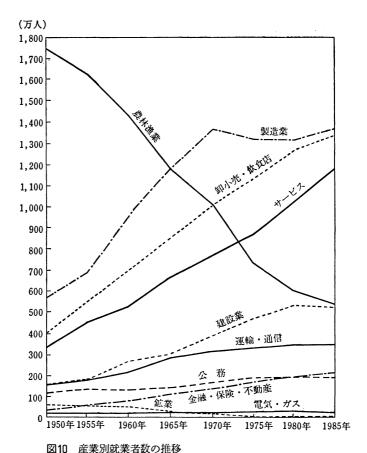


図 9 消費動向 [出典:経済企画庁「消費動向調査」『エコノミスト』1986年8月27日号より]



〔出典:総務庁「国勢調査」『日本のゆたかさデータブック』より〕

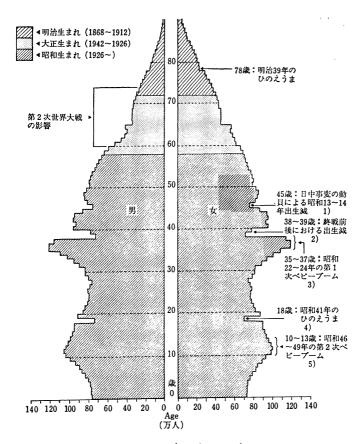


図11 日本の人口ピラミッド [出典:『人口動態統計』より]

251 資料集

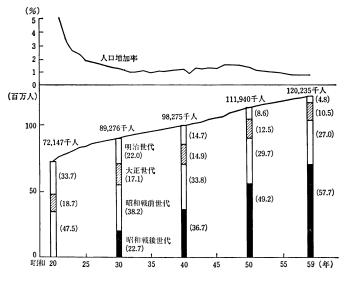


図12 増加した人口と変わる世代

[出典:『国民生活白書』昭和60年度版より]

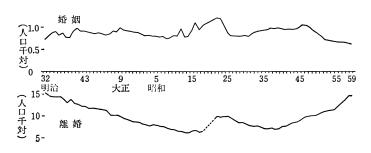


図13 婚姻と離婚の推移 [出典:『人口動態統計』より]

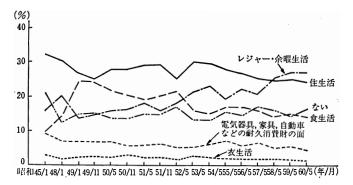


図14 生活の力点の変化

〔出典:『国民生活白書』昭和60年度版より〕

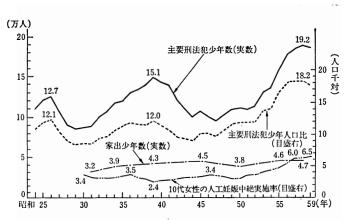


図15 少年犯罪は増加している

[出典:『国民生活白書』昭和60年度版より]

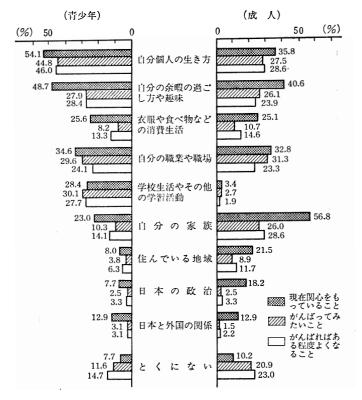


図16 現在の社会的関心

[出典:総務庁『青少年と活力』より]

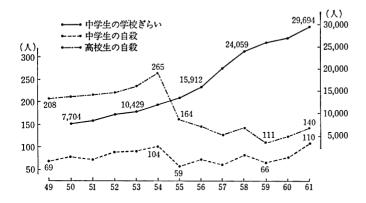


図17 中・高生の問題行動(1) 登校拒否・自殺 (出典:警察庁調べ(『児童生徒の問題行動の実態と文部省の施策について』1987 より作成)1

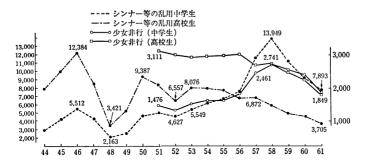


図18 中・高生の問題行動(2)

〔出典:警察庁調べ(『児童生徒の問題行動の実態と文部省の施策について』1987 より作成)〕

る」「働く」とできるだけ動詞止めの 形にしてあります。これは、筆者たちが、類書に見られる 従来の この本の章立ては、第2章「自分をつくる」から第7章「平和を創る」にいたるまで、「学ぶ」「生き

枠組をはずし、「青年にとっても、先行世代にとっても 問題であるような 青年の問題」を柱にして、新

う姿勢で書いた原稿を、しかも何度も持ち寄っては意見をかわし、持ち帰って書きなおすという、予想 しい青年心理学を書いてみようと思ったからです。 しかし、そういう問題に挑戦しようということになると、筆者は、まず自分自身の人生論に責任を負

例の手続きにたえ、おたがいに正直になって努力をささえあった成果です。 以上にツライ仕事をこなすことが必要になります。この本は、私たち筆者がともかく研究者としては異 この過程で、「かたりあう青年心理学」というこの本の 標題がほとんど 自然に浮かびあがってきたよ

しかも、私たち筆者だけが語り合うのではなく、読者とも語り合おうと思い立ち、筆者の身近な読者

筆者の仲間、あるいは先輩格の諸先生の知恵もかりたいと考え、各章の終わりに、でき上がった本文に たいするコメントをよせていただきました。それは、なによりも、私たちがひとりよがりを恐れたから に自由にリポートを書いてもらって、それをふたたび読者に帰すかたちをとることにしました。さらに、

であり、中江兆民のいうような〝真理〟をめざす研究者のチームでありたかったからです。

『かたりあう青年心理学』は、こうして私たちがみんなでつくった本です。

語り合う輪がひろがれば、もちろん望外の喜びです。 お忙しいなか、心をこめて、コメント、リポートを書いてくださった、諸君、諸先生に編集委員を代 なお、ご意見、ご感想をお寄せください。この本を仲立ちにして 、日本の青年の未来についてさらに

はじめて一瞬ほころんだのをいまだにわすれることができません。 青木書店の荒井俊昭君は、よく頑張ってくれました。最後に原稿をうけとった時、彼のかたい表情が

表してお礼申し上げます。

一九八八年四月一〇日

編集委員 明

禎 二 学

.

4000

.

the state of the section en production

.

.

* * *

: e e

み

 $\tilde{z} - F$, G.H. 24 $\tilde{z} - F$, M. 5

む

無気力 41

4

目標 191 モーパッサン 141 モラトリアム 156,170

ゃ

役割実験 155 やせ症 108

ゅ

優越感 90 友情 81 友人 81,87

ょ

欲求構造 166

IJ

理想像 90 立身出世主義の心理 42 良妻賢母型の生き方 174

れ

劣等感 90,110 連帯 228

ろ

労働過程 190 労働組合法 182 労働社会の自治的なルール 183 労働争議 179 労働能力 81

ゎ

わかり直し 129 わかるということ 129 つ

坪内逍遙 13,36

τ

テクニカルな知 116 テスト 117 伝統的性役割意識 179

۲

戸坂潤 128 共働き 188

な

内心のフォーラム 41 中江兆民 30

に

日米安全保障条約 203 日本型集団主義 116 日本国憲法 204,205 人間関係 99,100 人間性の解放 103 人間喪失の時代 230 人間の権利 218 能力 116-118

は

パーソナリティ 192 発達 191 一加速現象 85一段階 164パッチワーク的な知 127反核運動 195

ひ

非核三原則 201,220 人とのこころの交流 158 日の丸 25

Š

プロテウス的生き方 58,61,75 文化 164

^

平和ゼミナール 217 平和認識度チェック 199 平和の危機 212 平和の創造 218 平和の波 195 偏差値 25,169

ま

マージナル・マン 4 マーシャ, J. 155,158 マスコミ・新聞報道 216 学び合い 130 学ぶ意欲 131

一の喪失 120マニュアル的な知 127

情報 122, 124, 125, 136, 138, 215

——消費活動 121

職業と生活の両立 178

初潮 84,86

人格 81

——構造 166,167

――的な関係 158

——的能力 99

——発達 93

---発達の契機 100

新人類 6,66

人生 56,142,154,158,160,218 身体の成熟 85

せ

生 143 生育史 189

生活 100, 102, 154, 190, 191

一的概念 114,115

精神的な**孤立**感 8 ----な自律 212

精通体験 84.86

性的欲求 91

性同一性の混乱 109

性(的)の成熟 86,87,108

青年期 5,56

――の自殺 143

---の主導的活動 165

---の成立 15

---の範囲 6

――の不在 14

青年の自己形成 70,73,79

青年問題 4,189

セックス 99,103

選挙権 217

専業主婦 174,185

戦争体験ルポルタージュ 213

そ

相互主体的な学び合い 130

創造性 191

相対評価 117

相談型コミュニケーション 35

た

第三次宗教プーム 8

対話 130,137

---と共同の場 131

ダーウィニズム 25,37

他者 35, 41, 71, 130, 166, 167

――のまなざし 89

団結権 182

男女平等 178

ち

徴兵制 204

ii 人名·事項索引

教科書裁判 229 競争 180,183 拒食症 91,108 近代的自我の発見 29 均等法 176

<

能沢誠 183

1+

結婚 173,176 憲法 25 権利 179,182

----主体 33

٦

コース別人事制度 177 国家機密法(案) 25,138,213 後藤象二郎 18,26 孤独 89,227 孤立 41

×

再就職 178 参加 155,157

L

死 143,161 自我 39 ——の力 99

自己 35,41,71,167 **─**形成 56 --形成のプロセス 71 一実現 191 **一像** 90 --像の模索 90 思春期 84 ---の人格発達 96 ——の件 109 ---のとまどいや不安 89 自然との相互交流 130 疾風怒涛の時代 4 白発件 191 自分 56,57,73,79,89,96,128 資本制労働過程 190 市民的な自我の萌芽 24 社会的•経済的自立 85 就職 169 ---難 175**,** 204 ----問題 81 習得された無力感の形成 120 自由民権運動 18, 21, 26, 28 ---の崩壊 29 主権者 9,218 主体 130 主導的活動 164,167 昇華 98

消費社会 122

消費•情報文化 121

人名・事項索引

あ

(,

生きがい 102, 154, 158, 174, 185, 191 生き方 7, 56, 57, 124, 142, 154, 218 異性 89 板垣退助 18, 19, 26 一人前 85 命 96, 99, 102 意欲 191

う

植木枝盛 19,35 うれうべき教科書の問題 207

æ

思いやり 81,101

か

科学的概念 114,115 学習 121

一指導要領 115, 117, 136, 206, 207, 210

核戦争 120, 194, 198, 203 — の危機 212

核兵器の廃絶 195 学力 113,116-119

学歴 169

——社会 136 価値 154,191

—観 56-58, 71,75,79,99,218

----観の形成 56,57 学校知 113,114,116,119,136 活動 164,192 加藤弘之 25,37

き

議会制民主主義 217 危機 155,157 北村透谷 15 君が代 25 教科書検定 207,210,224

執筆考紹介 (五十音順)

かたりあう青年心理学

1988年 5 月 1 日 第 1 版第 1 刷発行 1989年 3 月 15日 第 1 版第 3 刷発行

> 編 者 心理科学研究会 発行者 青木 春雄

発 行 所 株式会社 青木 書店 〒101東京都千代田区神田神保町1-60 振替口座・東京 8-36582番 電話・03 (292) 0481 (代表) ファックス・03 (292) 0475

© SHINKAKEN, 1988

柳沢印刷/黒岩大光堂

内藤・木村訳ルビンシュテイン著	寺 沢 恒 信 訳	茂木俊彦加藤直樹	斉藤良去	坂野登	坂野登	坂野登	坂野登	坂野登
村シ訳著	おきまれる。	編	夫著	著	五著	者	者	著
心	存	障	疲	かく	意	٢	脳の	子じ
理	在	害	労	n	識	2	脳のはたらきと子どもの教育	子どものこころを読
	,	児	 社そ	た左利きと右	۶	ろ	かきし	のこ
学 -	٤	の い	社会的なもの・心理的・	利	はな	の	と子に	こっ
―原理と歴史	意	心	もの・	7	な	∔# :	ح ق	りを
		理	心 理	右	12	構	の数	読
歴史	識	学	的 •	脳	か	造	育	ţ
四五〇〇円	三三〇〇円	11100円	1七00円	一八〇〇円	一八〇〇円	1100円	五〇〇円	1五00円

青木書店

